



平成28年度
宮城県検証改善委員会報告書

「といてみたい」「考えてみたい」 意欲を高める学習課題

「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用



宮 城 県 教 育 委 員 会

は じ め に

平成28年度全国学力・学習状況調査が、国語と算数・数学の2教科を対象に、4月19日に実施されました。

この調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する持続的な検証改善サイクルを確立すること、また学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることにあります。

本県では、中学校国語の「知識」に関するA問題、「活用」に関するB問題が全国平均を上回り、中学校数学のB問題が全国平均と同等となりました。他の教科は全国平均を下回っていますが、その差は小さくなっています。また、今年度の中学校3年生の調査結果と、小学校6年生当時の平成25年度の調査結果とを比較すると、確かな伸びが見られ、各学校における授業改善によって学力の底上げがなされていると受け止めています。

県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた本県児童生徒の学力向上に向けての詳細な分析と対応策等を取りまとめるため、今年度も宮城県検証改善委員会を設置し、平成25年度検証改善委員会報告書において示した「みやぎ授業づくりスタンダード」の中の「本時で何を学ばせるのか考えましょう！」を取り上げ、「意欲を高める学習課題」について協議・検討を重ねてきました。

「意欲を高める学習課題」については、平成25年度に開催した「学力向上に関する緊急会議」を受けて発信した「学力向上に向けた5つの提言」や、平成28年度の宮城県学力向上対策協議会でまとめた「算数・数学ステップ・アップ5」にも位置付けられており、学習課題の設定と提示の仕方を工夫することは、児童生徒一人一人の学習意欲を喚起し、確かな学力を育むことにつながるものと考えています。

学習課題の設定と提示に関する今年度の児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果では、学校質問紙より児童生徒の肯定的な回答が10ポイント以上低くなっています。そのことを受け、今回の報告書には、児童生徒が「といてみたい」「考えてみたい」という意欲を高める学習課題の設定について具体例を示すと共に、ICTを活用した学習課題の提示についても掲載しました。さらに、国語、算数・数学共に課題が見られた問題について、授業アイデア例を示し、授業改善のポイントをまとめました。

各学校における授業改善に本報告書を積極的に活用し、本県の児童生徒の学力向上に役立てていただければ幸いです。

平成29年1月

宮城県教育委員会
教育長 高 橋 仁

第1章 児童生徒の学力向上に向けて

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(1) 「といてみたい」「考えてみたい」意欲を高める学習課題

～「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用～ — 1

- 意欲を高める学習課題
 - 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定する前に
 - 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定するには
 - 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を明確に捉えさせるには
 - 平成28年度全国学力・学習状況調査結果から
- 国語科における「といてみたい」「考えてみたい」
意欲を高める学習課題を設定する前に…
 - 1 学習指導要領解説を確認しましょう
 - 2 単元を構想し、指導計画を作成しましょう
 - 3 1単位時間の目標と学習課題を設定し、指導過程を作成しましょう
- 算数・数学科における「といてみたい」「考えてみたい」
意欲を高める学習課題を設定する前に…
 - 1 学習指導要領解説を確認しましょう
 - 2 1単位時間の目標と学習課題を設定し、指導過程を作成しましょう
- 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を捉えさせるICTの活用
 - 1 学習指導要領からみた学習指導でのICT活用
 - 2 ICTを活用した学習指導とは？
 - 3 ICTを活用した学習課題提示の工夫（例）
 - 4 MIYAGI Styleについて
 - 5 MIYAGI Styleを簡単に実現するアプリ「miyagiTouch」

(2) 教師も子供も「本気で取り組む」

みやぎ授業づくりスタンダード（平成25年度作成） ————— 9

本 本時で何を学ばせるのかを考えましょう！
気 気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！
で 出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！
と 説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！
り 理想の授業、指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！
く 繰り返し、継続して授業を参観し合い、授業改善に取り組みましょう！
む 夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！

(3) みやぎ授業づくりスタンダードを活用した学校の声 ————— 19

2 教員の教科指導力の向上

平成28年度の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

(1) 小学校 国語 ————— 20

- ①成果と課題、指導改善のポイント例
- ②授業アイデア例

(2) 中学校 国語	24
①成果と課題, 指導改善のポイント例	
②授業アイデア例	
(3) 小学校 算数	28
①成果と課題, 指導改善のポイント例	
②授業アイデア例	
(4) 中学校 数学	32
①成果と課題, 指導改善のポイント例	
②授業アイデア例	
3 児童生徒の学習習慣の形成	36
4 教育環境基盤の充実	37

第2章 全国学力・学習状況調査結果

1 全国学力・学習状況調査結果の概要	38
2 各教科の調査の結果	43
3 類似問題の経年比較	59
4 過去の調査との同一問題の正答率の比較	64
5 児童生徒質問紙調査結果	65
6 学校質問紙調査結果	67
7 平均正答率の高い県との比較	69
8 質問紙調査と学力のクロス分析	73
教員の授業力向上, 児童生徒の学力向上に結び付く参考文献等 へのアクセス方法	96
宮城県検証改善委員会について	97
資料 『学力向上に関する緊急会議』からの提言	98
資料 『算数・数学ステップ・アップ5 事例集』	99

第1章

児童生徒の学力向上に向けて

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(1) 「といてみたい」「考えてみたい」意欲を高める 学習課題 ～「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用～



○ 意欲を高める学習課題

- 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定する前に
- 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定するには
- 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を明確に捉えさせるには
- 平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

○ 国語科における「といてみたい」「考えてみたい」

意欲を高める学習課題を設定する前に…

○ 算数・数学科における「といてみたい」「考えてみたい」

意欲を高める学習課題を設定する前に…

○ 「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を捉えさせるICTの活用

平成25年度は「分かる・できる」授業づくりのための「みやぎ授業づくりスタンダード」、平成26年度は「見通し・振り返り」の学習活動に視点を当てた「確かな学力への入口～みやぎ授業づくりスタンダードの活用～」，そして，平成27年度は，仲間と関わり合いながら，自分の考えや集団の考えを広げたり深めたりする「確かな学力を育む学び合い」を作成しました。

本年度は，「といてみたい」「考えてみたい」と，児童生徒が自らの課題として明確に捉え，授業に取り組んでいけるような「意欲を高める学習課題」を提案しています。本報告書を活用し，学習課題の設定と提示の工夫を試みることで，児童生徒に「確かな学力」が育まれるとともに，教師の「授業力向上」が図られることを期待します。

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(1) 「といてみたい」「考えてみたい」意欲を高める学習課題 ～「みやぎ授業づくりスタンダード」の活用～

意欲を高める学習課題

宮城県内の多くの小学校・中学校では「みやぎ授業づくりスタンダード」や各市町村・各学校で作成した授業づくりの手引き等に基づき、授業づくりや校内研究を進めており、教師も子供も「本気で取り組む」授業が多くなってきています。

また、今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙調査結果から「学習に対する関心・意欲・態度」の項目は、小学校では前年度よりやや高くなっています。

小学校（中学校）学習指導要領解説総則編では「学習指導要領の基準性が明確に示されている趣旨を踏まえ、学習指導要領に示している、すべての児童（生徒）に対して指導するものとする内容の確実な定着を図り、さらに知識・技能を深めたり高めたりするとともに、思考力・判断力・表現力等を豊かにし、学習意欲を一層高めたりすることが期待される。」と記されています。そこでこの趣旨を踏まえて、児童生徒の授業に取り組む姿勢や学習意欲に影響があると考えられる学習課題の設定と提示の仕方について、ここで改めて確認していきましょう。

■「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定する前に

私たちは、授業を考える際、単元（題材）について捉えるために次のことを行います。

- ① 学習指導要領で示されている教科の目標、学年の目標、各学年・領域の内容等を読み直し、指導する単元（題材）の指導内容や系統性について確認する。
- ② 指導する単元（題材）における、児童生徒の既習事項の定着状況や理解度、考え方など実態を分析する。
- ③ 単元（題材）観と児童生徒観を基に、単元（題材）の指導目標を設定し、指導内容を押さえる。また、単元全体の評価規準や評価方法を含め指導と評価の計画を作成する。

これらを受けて、本時の指導過程を考えます。その際、児童生徒の既習事項の定着状況を確認したり、既有の経験、興味・関心等を把握したりした上で、単元（題材）の目標や指導内容のどこに重点をおいて指導するのかを明確にし、本時の指導目標（ねらい）を設定します。そして、本時の指導目標を達成させるための学習課題（めあて）を設定します。その際、授業場面での児童生徒の活動や反応を具体的に想定し、課題提示から課題解決・評価までイメージすることも必要です。

このように、教師が意図的に設定した学習課題、また、課題提示の仕方により、児童生徒の学習意欲が大きく変化します。「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定することができるのです。



本報告書の第1章では、指導目標をねらい、学習課題をめあてと捉えて記載しています。

■「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を設定するには

学習課題を設定するには、児童生徒の実態をしっかりと捉えて、その課題解決の過程を通して成就感や満足感を満たし、次への学習意欲を高めるようにしなければなりません。

それでは、「といてみたい」「考えてみたい」という学習意欲を高めるための学習課題は、どのようなものでしょうか。

- ・身近なことや現実的なことで、日常生活と関連がある学習課題*
- ・不思議さや驚きがあり知的好奇心をくすぐるような学習課題*
- ・多様な考え方ができる学習課題*
- ・既習事項との違いから考えることができる学習課題*
- ・学習の必然性がある学習課題
- ・発展的に考えることができる学習課題
- ・学習したことの良さを実感できる学習課題
- ・児童生徒の疑問を生かした学習課題
- ・何とか解けそうだと思える難易度の学習課題 など

*...「算数・数学ステップ・アップ5」実践例に、事例が掲載されています。

■「といてみたい」「考えてみたい」学習課題を明確に捉えさせるには

「といてみたい」「考えてみたい」と、児童生徒が自らの学習課題として明確に捉えるためには、学習課題提示の工夫が大切です。

- ・実物を提示し、学習課題を理解させる。
 - ・具体的に活動させて学習課題を発見したり実感させたりする。
 - ・色チョークで囲んだり、模造紙等にかいたりして、学習課題を明確に把握させる。
 - ・写真やイラスト等を示し、その中から学習課題を発見させる。
 - ・ICTを活用し静止画のズームアップや動画等を提示し学習課題を把握させる。
- など

■平成28年度全国学力・学習状況調査結果から

学習課題に関する児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果です。課題を理解し、課題解決に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成を目指し、授業改善を図りましょう。

【平成28年度全国学力・学習状況調査結果】		「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計(%) ()内は全国値との比較	
学校質問紙調査		小学校(%)	中学校(%)
質 問 事 項		H28	H28
自らが設定する課題や教員から設定された課題を理解して授業に取り組むことができるか		89.6 (-1.3)	87.9 (+0.7)
児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現する等の学習活動を取り入れているか		76.5 (-3.6)	71.9 (-0.7)
児童生徒質問紙調査		小学校(%)	中学校(%)
質 問 事 項		H28	H28
先生から示される課題や、学級やグループの中で自分たちで立てた課題に対して、自分から考え、自分から取り組んでいたと思うか		78.7 (+0.9)	75.6 (+1.8)
学級やグループの中で課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思うか		78.4 (+2.7)	72.5 (+3.2)

国語科における
「といてみたい」「考えてみたい」意欲を高める学習課題を設定する前に…

登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることに課題があるなあ。どう指導すればいいかな。

場面ごとに丁寧に読み取らせたり、サイドラインをどこに引いたか確認したりしているんだけどな。

まずは、学習指導要領には、どのように書いてあるのかを読んでみて、単元を構想してみよう。



「読むこと」の領域ではどんな言語活動を設定すれば力が付くのかな。

物語の指導って、難しいな。どうも解説してしまっ……。

1 学習指導要領解説を確認しましょう

平成28年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例「登場人物を中心に物語を紹介しよう」を参考に、「ごんぎつね」（東京書籍第4学年）について、指導事項の確認から学習課題設定までの例を紹介します。

小学校学習指導要領解説（国語編） 第3学年及び第4学年 【C 読むこと】

- (1) 読むこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。
- ア 内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。
 - イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。
 - ウ **場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。**
 - エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。
 - オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。
 - カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

- ア **物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。**
- イ 記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。
- ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。
- エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。
- オ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

身に付けさせたい力は、指導事項の「登場人物の性格や気持ちの変化などについて、叙述を基に想像して読むこと」だな。ウを重点指導事項にしよう。



言語活動はアから「物語を読み、感想を述べ合うこと」に設定しよう。

2 単元を構想し、指導計画を作成しましょう

単元の指導目標を達成するためにふさわしい言語活動を設定し、目標を実現するためのゴールとなる具体的な姿を児童生徒に明示して見通しを持たせましょう。

単元に位置付ける言語活動の設定

(例)「登場人物を中心に物語の感想を伝え合おう」(全10時間)

- ・第1次 第1時「心に残った登場人物を探しながら『ごんぎつね』を読む」
第2時「複数の物語を読み心に残った登場人物について感想を伝え合う物語を選ぶ」
- ・第2次 第3時・第4時「『ごんぎつね』のあらすじや気持ちの変化を読み取る」
第5時・第6時「選んだ物語のあらすじや気持ちの変化を読み取る」
第7時・第8時「ごんや兵十の行動や会話を基に人物像を捉え感想を伝え合う」
- ・第3次 第9時・第10時「選んだ物語の心に残った人物の人物像をまとめ感想を伝え合う」

3 1 単位時間の目標と学習課題を設定し、指導過程を作成しましょう

(1) 本時の目標の設定

目標は、児童生徒にどのような力を身に付けさせるかを学習指導要領の趣旨を踏まえて設定します。

(例) 第1時「場面の様子がよく分かるように音読できる」(C ア)

(例) 第2時「目的に応じて、いろいろな本や文章を読むことができる」(C カ)

(例) 第7時「登場人物の行動や会話などの叙述を基に、人物像を捉えることができる」

(C ウ)

(例) 第10時「文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる」(C オ)

(2) 学習課題の設定

ここでは、指導目標を達成させるために、児童生徒に自分の学習課題として受け止めさせる工夫が大切です。

(例) 第1時「場面の様子がよく分かるように音読しよう」

(例) 第2時「心に残った登場人物のいる新美南吉の物語を1つ選んで並行読書を始めよう」

(例) 第7時「ごんや兵十の行動や会話などの叙述を基に、人物像を捉えよう」

(例) 第10時「選んだ物語の心に残った登場人物について感想を伝え合おう」

【児童生徒の学習意欲を高めるために、こんな工夫をしてみましょう！】

・身近なことや現実的なことで、日常生活と関連がある学習課題

(例)「叙述を基に〇〇の気持ちを想像して読み〇〇へ手紙を書こう」(書くこと)

・不思議さや驚きがあり知的好奇心をくすぐるような学習課題

(例)「2つの詩が言葉や心を〇〇にたとえている理由を説明しよう」(読むこと)

・既習事項との違いから考えることができる学習課題

(例)「調査結果を複数の資料と比較することで、さらに分かったことを書こう」
(書くこと)

・発展的に考えることができる学習課題

(例)「〇〇を読んで、文章の構成や展開について考えたことを発表しよう」
(読むこと)

・興味深い体験活動を組み入れた学習課題

(例)「資料や機器を効果的に活用して、プレゼンテーションをしよう」
(話すこと・聞くこと)

・作品制作のイメージを持たせる学習課題

(例)「関心のあることから書くことを決めて、学級新聞を作ろう」(書くこと)

「書く活動」や、「学び合い」を取り入れて、児童生徒の考えを引き出していきましょう！



三角形の3つの角の大きさが 180° になることを、どう指導したらいいのかなあ・・・？

導入はどうしよう？
どんな課題を提示しよう？
教科書どおりでいいのかなあ？

学習指導要領には、どのように書いてあるのでしょうか。まず読んでみて、自分の考えをまとめたらどうでしょう。

分かりました。やってみます。

前年度は、どんな学習をしているのか確認しないとイケないな。

子どもたちは、どのくらい理解しているのかな。

1 学習指導要領解説を確認しましょう

小学校学習指導要領解説（算数編） 第5学年【C 図形】C（1）平面図形の性質では、

（1）図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。

ア 多角形や正多角形について知ること。

イ 図形の合同について理解すること。

ウ 図形の性質を見いだし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

エ 円周率について理解すること。

ウ 図形の性質

第5学年では、図形の性質を見いだし、それを用いて図形を調べたり構成したりすることを指導する。

ある図形について、いつでも成り立つような事柄がある。そうしたものを図形の性質という。例えば、三角形については、①どんな三角形でも、三つの角の大きさを加えると 180° になる。これは、三角形のもつ性質である。この性質は、②帰納的に考え、説明することができる。帰納的に考えるとは、幾つかの具体的な例に共通する一般的な事柄を③見いだすことである。

また、四角形については、どんな四角形でも、四つの角の大きさを加えると 360° になる。これは、四角形のもつ性質である。この性質は、三角形の性質（三つの角の大きさを加えると 180° になるという性質）を用いて、②演繹的に考え、説明することができる。

このほかに、これまでに指導してきた図形についても、その図形がもつ性質を見いだし、それを用いて図形を調べたり構成したりできるようにする。性質を見いだすには、③図形を構成したり分解したりする活動を取り入れる必要がある。また、④筋道を立てて考えることに興味をもったり、筋道を立てて考えることのよさに気付いたりできるようにすることが大切である。（学習指導要領解説 P182, 183 からの抜粋）

①どんな三角形でも 180° になることに驚きと不思議さを感じさせたいな。

②数学的な見方や考え方を育み、説明できるようにするためにとてもよい内容だな。

③観察・操作・実験等を通して、子どもたちに見いださせることが大切なんだ。

④数学的な見方や考え方に関心を持たせたり、よさに気付かせたりすることが必要なんだ。

- ① どんな三角形でも三つの角の大きさを加えると 180° であることを、観察・操作・実験等を通して児童自身に発見させ、驚きと不思議さを味わわせること。
- ② 数学的な見方や考え方を育むこと。
- ③ 発見した性質を数学的な表現で筋道立てて説明させること。
- ④ 数学的な見方や考え方（帰納、演繹、類推、特殊化、一般化等）と筋道立てて説明することに関心を持たせたり、よさに気付かせたりすること。



そうですね。では、児童の実態を踏まえて、単元の指導計画や1単位時間の計画を立てましょう。教科書で扱っている学習課題（めあて）や授業展開例の意図を、指導要領から読み取ったポイントと照らし合わせてみることも大事ですよ。



要点をまとめると大事なことはこんな感じでしょうか。

2 1単位時間の目標と学習課題を設定し、指導過程を作成しましょう

（1）本時の目標の設定

目標は、指導者側が児童生徒にどのような力を身に付けさせるかを学習指導要領の趣旨を踏まえて設定します。

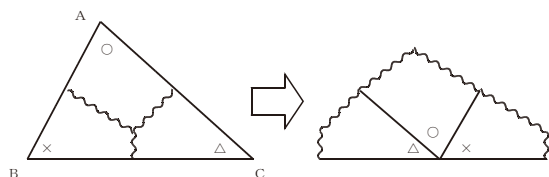
（例）「三角形の三つの角の大きさを加えると 180° になることを見だし、その理由が説明できる。」

（2）学習課題の設定

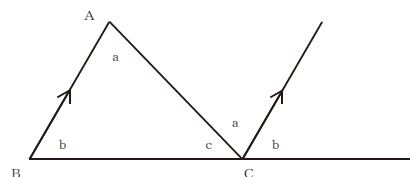
学習課題は、学習指導要領解説の内容と児童生徒の実態を踏まえ、児童生徒自ら考えてみたい、明らかにしたいと思えるようなものにすることが大切です。

（3）学習課題と授業展開において検討しなければならないこと

- ① 三角形の構成要素である角を思考の対象として意識させるための手立て
- ② これまでの授業と今後の授業とのつながり（教材、指導法、学習内容等）
- ③ 小・中の系統性



小学校（3つの角を1箇所に集める）



中学校（平行線の性質を用いて証明）

図形への関心を持たせる

- ・同じ大きさの正方形や長方形で床を敷き詰めることはできるかな？
→実際の敷き詰め模様を見せる。
- ・三角形でもできるかな？

算数的活動

- ・合同な三角形を10枚程度配付して、敷き詰め作業をさせる（グループごとに配付する三角形の形を変える）。
- ・すごい！三角形でもできたね！でも、どうして敷き詰められるんだろうね？
→何か決まりがありそうだという見通しを持たせる。

学習課題の設定

- ・『（敷き詰めた模様から）三角形のきまりを見付けよう！』
※「角」という言葉は出さず児童自身が角に目を向けられるようにする。



学習課題を子どもの実態に合わせて考えたり、模擬授業をしてみたりするとよいですよ。

学習課題を設定するまでの展開を2つ考えてみましたよ！



三角形の共通点の確認

- ・任意の三角形をかかせ、形や大きさが違ってても、辺や角が3つずつあることを確認させる。

意欲を持たせる投げ掛け

- ・「それ以外にも、三角形には、ある決まりがあるんだよ。発見できるかな？」と投げ掛け、探る意欲を持たせる。
→児童の反応を生かし、角に目を向けさせる。

算数的活動

- ・分度器を用いて角度を測ったり、表にまとめたり、三角形を切り取って3つの角を一箇所に集めたりさせる。

学習課題の設定

- ・『（三角形を調べて）三角形の3つのきまりを見付けよう！』

1 学習指導要領からみた学習指導でのICT活用

小・中学校学習指導要領の総則では、「各教科の指導に当たっては、～（中略）～視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること」と記述されています。教師が授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげていくことが重要です。

2 ICTを活用した学習指導とは？

ICTを活用した学習指導とは、主に教科の学習目標を達成するための教師によるICT活用のことです。授業のねらいを示したり、学習課題への興味・関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりする指導方法の一つです。

ICT活用のねらいは、教科の学習目標を達成することです。ICTを用いることが目的ではありません。「黒板や模造紙などを用いて学習課題を提示する」といったこれまでの授業技術も大切にしつつICT活用が有効であると考えられる場面に、適宜取り入れていくことが大切です。授業のスパイスとして、ICTを取り入れましょう。教師の授業技術としてICT活用を位置付けることで児童生徒の学力向上につなげることができます。

3 ICTを活用した学習課題提示の工夫（例）

① 児童生徒に興味・関心を持たせるためのICT活用

プロジェクタや実物投影機等を活用して、教科書や図書資料などの挿絵や写真を拡大して提示したり、学習と関連する生活場面を提示したりします。提示するタイミングや見せ方、関連させて行う発問や指示を工夫して効果を高めることも大切です。

児童生徒が興味・関心を高め、進んで考えたいくなるような提示をしていきましょう。



② 児童生徒一人一人に学習課題を明確に把握させるためのICT活用

プロジェクタや実物投影機等を活用して、教科書の問題文や図表を拡大し、提示します。注目させたい箇所を分かりやすく提示することで児童生徒の視線を集中させることができます。教員が言葉だけで伝える以上に児童一人一人が学習課題を理解しやすくなります。

全ての児童生徒にとって分かりやすい学習課題提示になるようにICTを活用しましょう。



4 MIYAGI Styleについて

宮城県は、「教科指導におけるICT活用」推進の方策として、MIYAGI Style【Miyagi ICT Youth Approach Growing with Innovation Style】を提案しています。MIYAGI Styleでは授業におけるICT活用の第1段階として、教師一人に対しICT機器1台といった環境において、これまでの一斉学習のスタイルを中心に、ICT機器を取り入れやすい場面、有効に活用できる場面に取り入れることを推進しています。その中の1つが、教材や作業を大きく表示し、児童生徒に学習課題を明確に理解させる場面での活用です。

【MIYAGI Styleのポイント】

効果のある場面でのみ活用

－黒板の置き換えではなく、共存する

- ・全ての板書をデジタルで置き換えるのではなく、ICTの活用が効果的なところで、従来の指導法と併用しながら、活用できる。

教材や作業を大きく表示

－分かりやすい提示や演出、活動や思考する時間の確保、教材作成の時間の確保

- ・細かくて見えない物を拡大して表示することで、理解を深めることができる。ICTの活用により板書時間が削減されることで、教員の説明や児童・生徒の活動、思考などの時間がより多く確保できる。

考え方の共有

－言語活動や主体的、協働的に学ぶ学習の充実

- ・児童・生徒の書いたノートやプリントを撮影し、投影することで、児童・生徒の意見や考えを短時間で簡単に共有することができる。

5 MIYAGI Styleを簡単に実現するアプリ「miyagiTouch」

「miyagiTouch」（みやぎタッチ）は、宮城県の学校現場生まれの県教育委員会公認「電子黒板アプリ」です。教材や生徒のノートを撮影し映す、書き込む、保存するなど、授業で必要とする機能が分かりやすく搭載されています。Android版及びiOS版をそれぞれのアプリケーションダウンロードサイトより無料でダウンロードすることができます。（Windows版もH28現在開発中）



主な機能

- ・ペンの色 8 種類
- ・ペンの太さ 4 種類
- ・ペンの濃さ 2 種類
- ・画像の拡大縮小、移動
- ・画像の読み込み、保存等

見せたい部分を拡大したり、書き込んだりして、提示することができる。

撮影した資料や生徒のノートに書き込みながら、学習課題を提示することができる。



画面の保存が可能なので、前時の学習内容の振り返り等を提示することができる。

第1章

児童生徒の学力向上に向けて

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(2) 教師も子供も「本気で取り組む」 みやぎ授業づくりスタンダード

(3) みやぎ授業づくりスタンダードを活用した 学校の声



本時で何を学ばせるのかを考えましょう！

気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！

出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！

説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！

理想の授業，指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！

繰り返し，継続して授業を参観し合い，授業改善に取り組みましょう！

夢中にさせる授業を創造するために，指導方法を工夫しましょう！

「分かる・できる」授業づくりのための基本的なポイントを「みやぎ授業づくりスタンダード」としてまとめました。

どの学校でも，どの教室でも，どの教員も共通の視点を持ちながら，日々の授業改善に向かっていただきたいと思います。

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(2) 教師も子供も「本気で取り組む」みやぎ授業づくりスタンダード



本：本時で何を学ばせるのかを考えましょう！

段階	1 本時の目標（ねらい）を明確にする		
導入	学習課題の把握 見通す		・学習指導要領を踏まえていますか。 ・本時の学習活動を通して身に付けさせたい力は何ですか。 ・目の前の児童生徒の実態を踏まえたものになっていますか。 ・単元全体を見通して、本時の位置付けを捉えていますか。
			
展開	自力解決 集団解決〔比較・検討〕		○ 本時の目標（ねらい）を達成させるために何を指導するのか（教えること、考えさせること）、どのような力を身に付けさせたいのかなどを明確にすることで、指導の方向性が決まってきます。 ○ 教材研究の段階で、単元の系統性を踏まえ、児童生徒にとって何が既習か、どこが未習かなどを的確に捉えることが重要です。 ○ 本時の目標（ねらい）を達成した児童生徒の具体の姿を明確にしておきましょう。
			2 本時の目標達成のために適切な学習課題（めあて）を設定する
			
終末	まとめ・振り返り		○ 児童生徒一人一人が、やってみたい考えてみたいという興味・関心を高めるものを提示し、自分のこととして捉えられるよう問題意識を喚起することが大切です。 ○ 学習問題の提示により、児童生徒の問いを引き出し、つぶやきを拾い上げ、それらを生かした学習課題（めあて）の設定につなげるよう十分な計画を立てましょう。 ○ 「なぜだろう？」「あれっどうして？」という疑問や知的好奇心を引き出すことが、主体的に「考えたい」「解決したい」「友達の考えを聞いてみたい」という意欲につながります。 ○ 本時でどのような力を付けさせたいのかを教材研究によって明らかにしておくことが大切です。問題場面を解決するだけが学習の目標（ねらい）になるではありません。
			3 学習課題と学習のまとめが対応することを意識して設定する
			○ どのようなまとめとなるかを教師が明確にしておくとともに、児童生徒には「学習課題（めあて）に立ち返らせる」ことで、学習活動の目的を意識させましょう。



気：気付きを生かして自分の考えを書かせましょう！

段階		1 自分なりの解決方法で学習課題（めあて）に取り組ませる					
学習課題の把握 入	見通す	 ・児童生徒が自分の考えをもったり、自分の立場を明確にしたりする時間だと意識させていますか。 ・どこまでできて、どこが分からないかを自分で言えるように意識させていますか。 ・ノートをどのように使って何を書くかなど、多様な表現方法で考えを書けるようノート指導を継続して行っていますか。 ・自分の考えが相手に伝わるように理由や根拠を示し、筋道立てて考えるように指導を積み重ねていますか。 ・児童生徒の考えや学習への取組を見取り、意欲を高めるよう積極的に褒めたり、声掛けをしたりしていますか。 ・学習効率だけを考えて、安易にワークシートを活用していませんか。					
		 ○ 学習課題（めあて）を既習事項と関連付け、これまで解決した方法が使えないかと考えさせることが大切です。 ○ サイドラインの引かせ方、グラフや資料の読み方、活用の仕方など、教師が教え、学習活動の中で繰り返し指導して身に付けさせましょう。 ○ 教科書や資料、データ等を基に、自分の考えの理由や根拠を明確に示し、相手に分かりやすく説明できるようにノート指導を充実させる必要があります。書くことで、考えが促されたり、整理されたりします。 ○ 児童生徒に「何をどこまで求めるのか」を教師が明確にしておくことで、自力解決で考えさせる内容、必要な時間、集団解決のもち方（何をさせるのか）などが、おのずと決まってきます。 ○ 一人一人の考えを見取り、賞賛の声掛けや適切な助言をしましょう。					
展開	集団解決（比較・検討）	 ○『学びが見えるノートにしよう！』 学年の発達段階や教科の特性に応じてノートの書き方も異なりますが、学校、教科で共通理解をして指導することが大切です。 ① 板書を視写する（構造的な板書が求められる）。 ② 自分の考えを書く。 ③ 友達への考えや授業のポイントなどを書く。 ④ 学び合い（考えの交流）の後、考えを見直したり、書き加えたりする。 ⑤ 本時の学習を振り返る。 ①②で終わらずに、③④⑤を意識して自分の考えの変容など学びを振り返られるノートに！ ・ノートはできれば授業毎に回収して、評価することで児童生徒の意欲、思考力、表現力を高めます。 ・児童生徒の発達段階等を考慮して、場面絵を描いたり、イラストで描くことなど多様な表現方法を認め、あせらず徐々に段階を踏んで考えさせていくことが重要です。					
		 <table><tr><td>日付</td><td>友達への考え</td></tr><tr><td>学習課題</td><td>※気付き・新たに考えたことなど</td></tr><tr><td>自分の考え</td><td>○まとめ ○振り返り</td></tr></table> 《ノート例》		日付	友達への考え	学習課題	※気付き・新たに考えたことなど
日付	友達への考え						
学習課題	※気付き・新たに考えたことなど						
自分の考え	○まとめ ○振り返り						
まとめ・振り返り	終末						



：出てきた考えを比較・検討させ、深めさせましょう！

段階	学習課題の把握 入		1 ねらいに応じた話合いの方法，形態を工夫する
展 開	自力解決	集団解決 （比較・検討）	チェック - 必要感のある話合いになっていますか。 - 考えの発表で終わっていませんか。 - 児童生徒に話し合う目的や方法を示していますか。 (児童生徒は話合いの目的や方法を理解していますか。) ○ 形だけのペア学習，グループ学習，全体での話合いを行うことではありません。本時のねらいを達成したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けさせたりするために言語活動の充実が必要なのです。 ○ ペア学習やグループ学習を行う目的や方法を児童生徒に示し，継続して指導を行うことで，目的意識や話合いの方法が身に付きます。 ○ 話し合う目的は何か，そのためにどのような話合いの形態がふさわしいのかをよく考えてペア学習やグループ学習を取り入れましょう。
	まとめ・振り返り 末		2 児童生徒間の関わりを意図的に設定する チェック - いつも決まった児童生徒だけの発表になっていませんか。 - 能動的に「聞くこと」「聴き合うこと」を意識させていますか。 - 児童生徒の思いや考えを見取り，褒めたり認めたりするとともに意図的に類型化して取り上げていますか。 - 共通点や相違点を整理して，それぞれの考えを関連付けていますか。 - 教師が全て説明していませんか。 - 児童生徒に説明や関連付けをさせていますか。 ○ 児童生徒の考えを見取り，どの考えをどの順番で取り上げ，関連付けるかを考えておくことが大切です。 ○ 関わらせる目的を明確にし，話し合う必然性を理解させることが大切です。「多様な考えを引き出したい」「友達の考えを理解させたい」「どの考えがよりよい考えか検討させたい」などを明確にするとともに，対立や矛盾などを示すことで，児童生徒の思考を揺さぶり，話合いをする必然性をつくっていきます。 ○ ペア学習，グループ学習では，何を発表させ（説明させ），何を書かせるか（相違点や相手の考えの「なるほど」と思ったところなど）など目的や意味を理解させていくことが大切です。 ○ それぞれの考えを関連付け，共通点や相違点に気付かせたり，考えを比較・検討させたりすることが教師の大切な役割です。考えや気付き，学ぶ姿などに向上的な評価言を添え，自己肯定感を高めさせましょう。 ○ 「なるほど」と思った友達の考え方や新たに気付いたことなどをノートに書き加えることで，学び合うことの意義，考えの深まりを実感させたいものです。



と：説くことでなく、振り返らせることで自ら学びを実感させましょう！

段階	1 本時の学習をまとめる					
導入	学習課題の把握	見通す	- 学習課題（めあて）に対応したまとめになっていますか。 - 形式的に板書を視写するだけになっていませんか。 - 学習したことが共有できていますか。 1時間の学習が一目で分かる板書になっていますか。			
			○ 答えを出した方法を吟味し、よりよい方法を学び、いつでも使える一般的な方法に高めたり、問題を解くポイントをまとめたりすることが大切です。 ○ 本時の学習を通して「何が分かったのか」「どのような力が身に付いたのか」が分かるように、本時の目標（ねらい）や学習課題（めあて）と整合性があるかを意識してまとめましょう。 ○ 板書が構造的で見やすく、分かりやすいものであるか、板書計画を吟味しておきましょう。本時の目標（ねらい）と学習課題（めあて）に整合性があるかを可視化して判断することができます。			
展開	自力解決	集団解決	2 本時の学習を振り返る			
開	比較・検討	- 今日はどのような学習課題（めあて）に向き合い、何をどのように考え、そこからどんなことを理解し、学んだかなどの視点を与えて振り返らせていますか。（書く観点や分量を示した学習感想など） 「～できた」「うまくいかなかった」という結果だけで終わらせていませんか。 - 学んだこと、共有化したことを使って適用問題に取り組ませていますか。 - 友達と学び合うことで新たな発見や気づきが生まれ、考えや理解が深まったことを実感させていますか。（適用問題・小テスト・学習感想など）				
		○ 「何をどのようにしたから分かったのか」あるいは「何が足りなかったのか」「それはなぜか」「学んだことを今後はどう生かしていくか」などの視点を示し、できるようになった過程を振り返り、今後の学習への見通しなどをもたせることも大切です。振り返りのさせ方を工夫し、児童生徒の主体的な学びへつなげていきましょう。 ○ 実際に類似の問題を解いて、よりよく解けるようになったことを実感したり、自分なりに大切だと思ったこと、考えて理解できたこと、新たに気付いたことなどを書いたりすることが大切です。「個」で考えたことを基に「集団」で考えを共有化し、それらを踏まえ「個」にもどって考えさせることが、考えの深まりや学びの自覚につながります。 ○ 児童生徒が本時のねらいを達成できたか、考えを深めることができたかどうかを「適用問題」「学習感想」などで見取るとともに、教師の「授業評価」の方法を工夫し、授業改善に生かしていきましょう。				
まとめ・振り返り	終末	家庭学習につなげる工夫も考えましょう。				



理想の授業，指導力の向上を目指して研究授業の充実を図りましょう！

◎ 教師の授業力を伸ばす・・・「授業づくり～模擬授業のすすめ～」

模擬授業とは ➡ 教師が指導者役と児童生徒役に分かれ，授業場面を実際にやってみること



実際に模擬授業を行ってみると，自分の書いた指導案の展開では授業がうまく流れないことに気付いたり，発問が分かりにくかったり，児童生徒役の先生の反応にうろたえたりと，いろいろな改善点が見えてくるものです。

この模擬授業は，授業のある場面だけを想定して行うことも可能ですので，単位時間（45分間や50分間）をかけなくても実践できます。教師役だけではなく，児童生徒役になることも，児童生徒理解の一助にもなりますし，何よりも，学校や学年の研究への取組に一体感が生まれます。

模擬授業のよさについて ➡ 本時の目標（ねらい）や提案事項を事前に共有化すること



模擬授業は，実際の授業場面を想定して行うので，授業の流れ，発問のよしあし，指示，板書の仕方やタイミング，教師の動き，児童の反応などを具体的に検討できます。普段の授業で迷っていることや疑問に感じていることを提示しながら，その状況を共有し，改善点を見付け出すことができます。

また，授業者の細かい指導技術を学んだり，より効果的な指導技術を見付け出すこともできます。さらに，教師が児童生徒役になってみることによって，児童生徒の反応を多方面から予測することを学べ，授業を考える上でのヒントをいくつも得られます。

1時間の授業をすべて行う必要はありません。研修内容によって，10分間でも20分間でもかまいません。導入の部分だけを取り上げて見ることもできますし，展開の一場面を取り上げてみることも可能です。

模擬授業の方法 ➡ 趣旨説明は端的に，途中解説を入れずに，本番のように行うこと

全体で

研究授業の事前検討会に模擬授業を取り入れている学校もあります。参加者全員で指導過程のポイントとなる部分や，授業者が悩んでいる部分を模擬授業を通して検討することで，より授業改善につながります。

また，打合せの前や職員会議のはじめに，輪番制で10分間の模擬授業を行う方法もあります。気付いたことを付箋紙やメモなどに書き，視点別のシート等に貼って授業者に渡したり，回覧したりする方法です。このように短時間で継続的に行う方法も可能です。



教科ごとで

中学校の教科部会で，研修の一環として，模擬授業を取り入れていく方法です。同一教科担当者が，共通の課題を意識しながら模擬授業を行うことで，教科ならではの研修ポイントを絞って行うことができます。

学年部ごとで

学年部会を活用して模擬授業を行う方法です。同学年担当の教員であることから，児童生徒の実態を理解し合うことが容易で，授業の指導技術だけでなく，広く児童生徒の指導を考えることが可能です。



：繰り返し，継続して授業を参観し合い，授業改善に取り組みましょう！



自分の授業を公開して多くの先生方に参観してもらったり，他の先生の授業を参観したりすることで，授業を互いに見合う機会が増えてきます。模擬授業や研究授業等では，ねらいに応じて，適切な観点を設定したいものです。校内研究の視点や手立てを活用している学校も多いかと思われます。

模擬授業実施の観点例

模擬授業を効果的に行うためには，模擬授業での指導の観点を明確にすることが大切です。観点例を以下に挙げてみます。

（１）授業の進め方について

- ・導入部には，児童生徒を引き付ける工夫が見られるか。
- ・本時の目標（ねらい）が明確であり，本時の目標に沿った学習課題（めあて）が提示されているか。
- ・展開部には，教える場面や考えさせる場面，児童生徒の活動場面が適切に設定されているか。
- ・児童生徒の思考や活動に無理がないように，授業が易から難へと展開するように工夫されているか。
- ・教師は何を学ばせたか，児童生徒は何を学んだかが明確になっているか。

（２）教師の発問や指示について

- ・学習課題（めあて）を達成できるような発問になっているか。
- ・教師の意図に沿って児童生徒が活動できるような指示になっているか。
- ・発問や指示は，ねらいが明確で分かりやすいものか。また，児童生徒の意欲を引き出し，活発に活動させることができるように工夫されているか。
- ・児童生徒の発達段階に即した言葉遣いであるか。

（３）板書について

- ・１時間の授業の流れ，学習の足跡が見える板書になっているか。
- ・文字の大きさや分量，チョークの色使い，提示物は適切であるか。
- ・１時間の授業の「学習課題（めあて）」や「まとめ」は分かりやすくまとまっているか。

（４）児童生徒への配慮や支援について

- ・児童生徒一人一人の発達段階や理解の程度に配慮しながら，意図的な指名ができているか。
- ・児童生徒の実態に応じた手立てや支援は適切であるか。
- ・児童生徒を認め，褒めたり励ましたりすることで，自己肯定感をもたせているか。
- ・机間指導のねらいやタイミングは適切であるか。
- ・児童生徒が学びを実感できる振り返りがなされているか。

（５）資料や教材について

- ・準備された資料や教具は，本時の目標（ねらい）を達成する上で適切であるか。

○ 授業評価の意義

授業評価は、学習指導要領や教育目標を踏まえ、授業のねらいや児童生徒の実態に照らし合わせながら、多面的・多角的に振り返る営みです。授業評価を基に授業改善を図っていくことは、教師一人一人の力量を確かなものにし、授業の質を高めることにつながります。それは、児童生徒一人一人の学力向上にもつながるものです。

○ 今日的な授業評価

授業評価は、「校内研究の目標や仮説に沿っての評価」「単元や学期を通しての総括的な評価」になりがちです。日々の授業については、教師自身の判断で意図的に評価する以外は、学校全体で日常的にあまり行われてこなかったのではないのでしょうか。形成的評価が授業の過程で実施され、授業計画の修正や児童生徒の回復指導などに生かされますが、授業のポイントが明確でなかったり、児童生徒へ適切にフィードバックされていなかったりしている面があります。また、評価方法や観点なども学校として共通に認識されていなかったかもしれません。

学校全体で日々の授業を改善するためには、個々の教師が日々の自分自身の授業を継続的に振り返ることはもちろん、学年部や教科部、全校で互いの授業を気軽に見せ合い、意見を交換し合いながら授業の課題を共有していくことが大切です。

さらに、これからは児童生徒や保護者、地域の方々など様々な評価にも耐えうる授業づくりが一層求められています。時代のニーズに対応できるような授業評価を求め、授業力の向上に努めていく必要があります。

○ 授業評価シートの作成と活用に向けて

学校全体で授業の質を高めていくための授業評価の方法には、教科や児童生徒の発達段階に応じた様々な方法があると思います。まずは評価者が評価項目を共有し、同一の視点から授業を検討する必要があると感じます。課題の共有化や授業改善の糸口の発見が可能になると考えられるからです。

そのためにも、校内で統一した授業評価シートを作成し、**授業者自身が授業を振り返ったり、全校で授業の成果と課題を明らかにしたりして授業改善につなげる**ことがより大切になってきます。評価結果を集約し、これを基に授業検討会を行うことでより活発な話し合いができるかもしれません。

評価シートの観点や項目については、各学校の教育目標や校内研究の目標、授業評価の実態などを踏まえて作成することが大切であると考えます。

〈授業評価シート（例）〉

◎ できる 続ける つながる 3分間の振り返り

※ 評価後、「授業づくりスタンダード」を活用し、授業改善につなげましょう。

No. _____		月 _____ 日 () _____ 時 _____
		授業教科 () _____
A：おおいにあてはまる B：あてはまる C：ややあてはまらない D：あてはまらない		
観点の項目 (参考ページ)	設 問	評 価
授 業 展 開 や 指 導 技 術	本時の目標(ねらい)の明確化 (P 1)	・ 本時の目標 (ねらい) を明確にし、学習課題 (めあて) を板書し、子供に把握させている。
	思考場面 (P 2)	・ 子供が考える場面、書く時間を十分確保している。
	発表や学び合いの工夫 (P 3)	・ 子供が発表できる機会を作っている。 ・ 話し合うねらいを明確にして、適切な形態 (ペアやグループ、全体等) で話し合う場を設定している。
	発問・指示 (P 6)	・ 子供にとって明確で分かりやすい発問や指示をしている。(繰り返さない) ・ 教師が説明し過ぎず、子供から考えを引き出している。
	対応・支援 (P 3) (P 2) (P 6)	・ 意欲の低い子供、発言が少ない子供にも意図的・計画的な指名をし、適切に声掛けしている。 ・ 子供の声に耳を傾け、考えや学ぶ姿を見取り、褒めたり、励ましたりしながら、子供の学習意欲や自己肯定感を高めている。
	板書 (P 6)	・ 授業の内容が構造化され、重要箇所は色チョークを使い、1時間の学びが分かるよう工夫されている。
子 供 の 様 子	評価 (振り返り) (P 4)	・ 授業の最後に、本時の授業を振り返り、学びの実感をもたせている。(適用問題、小テスト、学習感想、自己評価や相互評価等)
	子供の様子で気付いたこと	

※ 授業内容に応じて、項目を増やしたり、絞ったりすることも必要と考えられます。授業評価シートを活用して日々の授業を振り返り、授業改善につなげましょう。



む：夢中にさせる授業を創造するために、指導方法を工夫しましょう！



教師が本気になって「分かる授業・できる授業」づくりに取り組むことは、着実な授業改善、授業力向上につながっていきます。また、「分かる授業・できる授業」が児童生徒の学習意欲を高め、学ぶ楽しさ、できる喜びを実感させることで、学力の向上が図られていくものと考えます。

児童生徒にどのような力を身に付けさせたいのかを明確にして、授業アイデア例を有効に活用したり、授業に工夫を加えたりするなど、できることから始めましょう。

※ 授業アイデア例・・・① 国立教育政策研究所教育課程研究センター
② 本報告書 等

～ 当たり前に行っていることも意図的に！ 基礎的な力， 「書く力」「考える力」等を伸ばす授業のワンポイント工夫例 ～

習熟の工夫，既習事項や新聞等の活用，学習課題（めあて）提示の工夫で子供を鍛える

- (1) 「効率的な漢字練習法で定着率の向上」
- (2) 「習熟を通した定着率の向上」
- (3) 「社説を使った，読む力と書く力の向上」
- (4) 「学習課題（めあて）提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」



(1) 「効率的な漢字練習法で定着率の向上」

◎ノート

一列目
二列目
三列目
四列目

- ① ノートに折り目をつけて四列にする。
- ② 練習したい漢字の読み方をノートの一列目に書く。
- ③ 少し時間をおいてから，その漢字が書けるかどうか
答えを二列目に書いてみる。【1回目】
- ④ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。
- ⑤ 丸が付いたものは覚えた漢字なので1回目で合格。
間違えたり書けなかったりした漢字だけ，読み方を，三列目にもう一度書く。
- ⑥ 間違えたり書けなかったりした漢字だけを，四列目に書いてみる。【2回目】
- ⑦ 自分で赤鉛筆を使って丸付けをする。【後は全部書けるまで繰り返し】

- ・ この「自己テスト法」は，書ける（覚えた）漢字は1回だけ，書けない（覚えていない）漢字は，書けるまで（覚えるまで）何回も練習することになります。
- ・ 例えば，同じ漢字を10回ずつ書いて覚える作業だと，書けるようになっている漢字も10回ずつ書くことになりますので，その分だけ時間が余計にかかります。大切なのは，その漢字を書けるようになったか（覚えたか）どうかですので，このやり方だと，時間を節約しながら，効率的に練習ができます。
- ・ 読み方と漢字と一緒に覚えることになるので，特別な「読み練習」をしなくても，「読む力」も付きます。
- ・ さらに，記憶の「IN PUT」と「OUT PUT」を交互に繰り返すので，漢字だけに限らず，他教科（社会や理科）への波及効果も十分に期待できます。
特に，英単語を覚えるときにも有効な方法です。
- ・ ノートは高学年や中学生であれば，六列に分けてもよいと思われます。

(2)「習熟を通した定着率の向上」

- ① 授業の終末や習熟の時間に適用問題、習熟問題に取り組んで、定着を図ります。
 - ・ 特に、TT指導や少人数指導の場合、終末や習熟の場面で児童生徒一人一人の取組を見取り、丸付け、助言を意図的に行うとより効果的です。
 - ・ 例えば算数で、補充問題、発展問題を事前に何題も準備し（数枚のプリント）、その児童生徒の学習段階に応じて、取り組ませます。みやぎ単元問題ライブラリー等を活用し、予め学年分、単元分を印刷するなどして、いつでも使えるようにしておきます。ファイリングして、できるようになったところ、間違った問題などを自覚させることもできます。
- ② 学習場面で、前時までの既習事項を活用する場面を設定したり、日常場面で意図的に活用させたりしていくこともできます。
 - ・ 例えば、グラフや表などの資料の読み方（データの取り出し）を学んだら、説明する内容の根拠として最も適切な資料を選ぶ学習をします。
 - ・ 複数の資料から必要な情報を取り出すこと、情報が根拠として適切かどうかを判断することを通して、資料の読み方の定着を図ることができます。

(3)「社説を使った、読む力と書く力の向上」

- ① この学習は、10分間で新聞の社説（だいたい1600～2000字程度）を読んで、要旨を100字ちょうどにまとめる、というものです。
- ② 400字詰原稿用紙を使うと、4日分になります。高学年や中学生の夏休みの課題として10日分や20日分をまとめて出して、毎日行くと効果的です。
 - ・ 期待できる学習の効果としては、論説文を読む力が付くと同時に書く力を付けることができます。また語彙を増やすことができます。
 - ・ 10分間で社説を読んで100字ぴったりに書くためには、慣れるまでが大変ですから、児童生徒の実態に合わせて制限時間を変えることもできます。

(4)「学習課題（めあて）提示の工夫で学習意欲・思考力の向上」

学習問題や学習課題（めあて）の提示の仕方を工夫することで、児童生徒の思考が促されます。

- ・ 例えば、連続する2つの整数の2乗の差を提示します。

- A「連続する2つの整数の2乗の差は、その2つの整数の和になります。このことが成り立つことを証明しなさい。」
- B「この計算からどんなことが考えられるでしょうか。」

	$4^2 - 3^2 = 7$
	$9^2 - 8^2 = 17$
	$10^2 - 9^2 = 19$
	$25^2 - 24^2 = 49$
※	$(-7)^2 - (-8)^2 = -15$
※	$(-14)^2 - (-15)^2 = -29$

- ・ AでもBでも証明を行うことには変わりありませんが、Aは「成り立つ」ことが与えられているのであまり必要感を意識せずに証明に取り組めます。一方、Bは、共通点に気付き、予想（仮説）を立てる際に思考が促されます。そこから（自分の予想が成り立つことを証明するという）目的意識をもって主体的に取り組むと考えられます。
- ・ 同じ問題場面でも、学習課題（めあて）の提示の仕方や発問の工夫によって、学習意欲や思考力を高めることにつながります。少しずつ工夫をしていきましょう。

1 みやぎ授業づくりスタンダード

(3) みやぎ授業づくりスタンダードを活用した学校の声

みなさん このように活用していますよ！

☆日常の活用では

- ・増刷りし、全員に配布して、授業づくりや研究授業の際に活用しています。(中学校)
- ・評価シートを使って1日1時間授業を振り返り、授業改善に役立てています。
- ・「学力向上に向けた5つの提言」を増刷りして全員に配布し、職員室にも拡大版を掲示して、いつでも目に留まるようにしています。

☆職員会議では

- ・研究部が、一つずつポイントを提示して共通理解を図っています。

☆校内研究の推進では

- ・授業の進め方や発問、板書、また、評価の仕方等についての理解を深めるとともに、本校の授業の基本的な組立てを作成するのに役立てています。
- ・「授業づくり～模擬授業のすすめ～」(本報告書13, 14ページ)を参考に、校内研究で行っている模擬授業の行い方を見直しました。
- ・授業評価シートを、研究授業の参観の際に活用しています。
- ・研修会の話合いの際に、必携資料として全員が持参して活用しています。
- ・全国と自校の調査結果を重ねて、学習指導や校内研究の成果や課題を確認するのに使っています。

☆学習指導案を作成するときには

- ・県内の学習状況の課題のところを読み、自分の算数科の授業づくりの参考にしました。

☆初任者研修の資料として

- ・初めて学級担任をする職員に、授業の進め方の基本を説明するときに使いました。

☆自校の全国学力・学習状況調査の結果分析では

- ・自校の結果検証のために、研究部が中心となって資料を活用しました。

☆研究紀要の作成では

- ・年度末の研究紀要作成時に、報告書の調査結果データを参考にしました。

☆保護者への働き掛けでは

- ・学校だより等へ一部を引用し、家庭学習への協力をお願いする材料としました。
- ・家庭学習の定着を図るために、家庭学習の質を高める3つのヒントなどを活用しています。

☆児童生徒へ学習を促す資料を作成する際に

- ・今ある「学習のきまり」「家庭学習の手引き」等を改善する作業の資料として役立ちました。

平成25年度宮城県検証改善委員会報告書活用状況調査(H26.6実施)より

「みやぎ授業づくりスタンダード」を活用した学校の声

～ 校内研修会で参考資料として読み合う ～

(研究主任からの説明)

- 年度初めの校内研修会で、「みやぎ授業づくりスタンダード」を読み合いました。自校の実態と照らして話し合ったり、授業研修の手立てとして参考にしたりしました。
- 研究授業の事後検討会では、「みやぎ授業づくりスタンダード」を手元に置いて話し合い、共通理解を図ることができました。



第1章

児童生徒の学力向上に向けて



- 2 教員の教科指導力の向上
- 3 児童生徒の学習習慣の形成
- 4 教育環境基盤の充実



2 教員の教科指導力の向上

平成28年度の調査結果から成果の上がっている内容と課題と考えられる内容

(1) 小学校 国語

①成果と課題、指導改善のポイント例

<話すこと・聞くこと>

成果

- 目的や意図に応じて、情報を関係付けて話し合う。[A[2]]

課題

- △ 話の展開に応じて質問し、必要な情報を得る。[B[1]一二三]

指導改善のポイント例

- * 日常における会話や学習活動における話し合い等において、相手の話を受けて返すという態度を意図的に育てていくことが大切です。具体的には、「～ということは、～ですか。」のように相手の話の内容を言い換えて確認するために質問したり、相手の話の内容と関係付けて質問したりして、主体的に聞くことができるようにしましょう。

<書くこと>

成果

- 目的や意図に応じて、書く事柄を整理する。[A[4]]

課題

- △ 書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する。[A[3]]
- △ 目的や意図に応じて、グラフや表を基に、自分の考えを書く。[B[2]二(1)(2)]
- △ 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして書く。[B[3]三]

指導改善のポイント例

- * 表現をよりよくするために、書いたものを読み合い、助言し合うことが必要です。書く目的や意図に応じた文章構成になっているかどうかについて具体的に助言できるように、書くことの学習過程に位置付け、文章を評価する力を高めていくことが大切です。

(P22「授業アイデア例」参照)

- * 活動報告文に活動に取り組んだ成果や課題などを書く場合は、根拠や理由となる図表やグラフなどを基にして自分の考えをまとめ、それらを用いながら書くことで、読み手への説得力が高まります。児童が、自分の伝えたいことと合う図表やグラフなどを活用することで説得力が生まれることを自覚したり、自分が選んだ図表やグラフは伝えたいことに合っているか考えたりするような学習活動を進めていきましょう。
- * 文章の内容を的確に押さえるためには、何のために、どのようなことが必要かなどを明確にした上で、書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などについて注意して読むことが大切です。また、自分の考えを明確に書くためには、読む目的によって本や文章の活用の仕方が変わり、そのため引用したり要約したりする部分も変化するということを児童が実感できるように学習活動を進めていきましょう。

<読むこと>

成果

- 目的に応じて、文章と図表やグラフなどとを関係付けて読む。[A5]

課題

- △ 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える。[A6]
- △ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する。[B3二]

指導改善のポイント例

- * 登場人物の性格がよく表れている行動や会話などは、複数描かれているため、それらを関係付けながら読むことが必要です。また、複数の場面において描かれている登場人物の性格が分かる叙述に着目することや、シリーズとして刊行されている作品の場合はシリーズ作品を相互に関係付けたり、友達と互いの読みを交流しながら想像を広げて読んだりする学習活動も設定しましょう。
- * 一方の資料の情報を他の資料に当てはめ、調べる内容を確認しながら読む際、中心となる語句に着目して複数の情報を比べたり、同じ課題で多くの本を重ねたりしながら読む学習活動にも取り組みましょう。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

成果

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。[A1ー123]
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く。[A1二3]

課題

- △ 平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりする。[A8123]

指導改善のポイント例

- * 文章の内容を理解するためには、それぞれの文の中で一つ一つの語句がどのような役割をもち、語句相互がどのような関係になって組み立てられているかを理解することが大切です。
- * ローマ字の読み書きについては、五十音表の規則性を押さえ、濁音、半濁音、長音、拗音、促音、撥音などについて、音声と関係付けながら身に付ける指導をすることが大切です。ローマ字の書きの誤答には、「asatte」を「asaate」や「assate」と書いてあるものがあり、促音の表記について正しく理解していないと考えられます。
- * ローマ字を繰り返し読んだり書いたりする機会を増やすとともに、日常生活において必要性を感じるように指導しましょう。以下のような指導も取り入れてみましょう。
 - ・学校名、氏名、住所等をローマ字で書くような場を意図的・計画的に設ける。
 - ・日常生活の中でローマ字がどのように使用されているかを調べ、ローマ字で表記された語句を集める。
 - ・パソコンのキーボードを使って、ローマ字入力に挑戦する。
 - ・ALTや地域に住む外国人と日常使われている簡単な単語をローマ字で書いて紹介する。

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果…A③ ルール説明の表現について助言した内容として、適切なものを選択する。
(正答率：宮城県 65.0% 全国 67.4%)

2 単元名 「伝えよう、委員会活動」(東京書籍 5年)

3 目標

- ・これまでの経験を振り返りながら、必要な情報を整理して、分かりやすいリーフレットを作ろうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・委員会活動の経験を振り返って書く事柄を決め、構成や配置の効果を考えながら、事実・感想・意見などの違いを意識し、目的や意図に応じてこれらを簡単に書いたり詳しく書いたりしてリーフレットを作ることができる。【書くこと】
- ・書いたものを読み合い、表現の工夫に着目して助言し合うことができる。【書くこと】
- ・文や文章には様々な構成があることについて理解し、リーフレットの構成を考えている。【伝 国】

4 授業改善の視点

- (1) 意欲を高める学習課題の工夫
- (2) 「学び合い」の工夫
- (3) 「振り返り」の工夫

必要な情報を整理して書くことや、分かりやすいリーフレットにするための構成・表現の工夫について指導し、それらに基づいて各自が作成したり、互いに助言したりできるようにしましょう。



5 指導過程(第7時)

【単元全体の見通し】 単元のゴールと道筋を学習計画表に明示し、児童に作成の見通しを持たせる。

8	⑦	4~6	3	2	1
・学習を振り返る。 ・友達と読み合い、感想を伝え合う。 ※学び合い③	・リーフレットを見直し、修正する。 ※学び合い②	・リーフレットを作成する。	・構成メモを作成し、大まかな配置を決める。※学び合い① ・必要な資料を収集する。	・教科書の構成メモやリーフレットの書き方や「リーフレット」にまとめる際の工夫について学習する。	・委員会活動をリーフレットにまとめ、四年生や隣の五年生に紹介するという学習課題を確認する。 ・単元の学習計画を立てる。

【学習計画表】

完成したリーフレットを見てもらう対象を自分で選ばせることで、関心・意欲を高める。また、よりよいリーフレットにするための「学び合い」をどこに入れるかについて、児童の意見を取り入れて設定することで、必要感を持って主体的に助言し合えるようにする。

来年から委員会に参加する4年生や隣の〇〇小学校の5年生に、委員会活動について紹介するリーフレットを作ります。
この単元のポイントは、活動報告の書き方と、リーフレット形式のまとめ方です。活動報告の書き方は、他の教科や総合的な学習の時間などにも活用できますね。さて活動報告にはどのような内容が必要でしょうか。先生が作った〇〇の活動報告リーフレットを見ながら考えてみましょう。

【ICT活用】



段階	T：主な発問・指示 S：予想される児童の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 ＊：指導上の留意点
導入	T：学習課題と本時の見通しを提示する。 友達とアドバイスし合い、リーフレットをパワーアップさせよう。 T：もっと分かりやすくして見やすいリーフレットにパワーアップさせるため、観点に沿ってアドバイスをし合い、直す時間です。 T：実は先生も〇〇先生にアドバイスしてもらい、前に見せた町内会の活動報告リーフレットを直しました。前と比べてどこが良くなっているでしょう。 〈ICTを活用し、修正前・後のリーフレットを提示〉 S：〈リーフレットとしての見やすさ〉 見出しが変わりました。前は活動名だけだったけど、直した方では「年2回の草取り参加～その量、何と60キログラム！～」と活動の様子や頑張ったことが分かる言葉が入ったので、読んでみたくなりました。 T：今日は学び合いを2回行います。直した後でもう一度違う友達に見てもらい、パワーアップできたかを確かめます。	＊本時は単元計画を立てる際に話し合っで設定した「学び合い②」の時間であることを確認する。アドバイスし合うことでリーフレットをよりよくすることを伝え、学び合いの必要性や意欲を高める。 (1)意欲を高める学習課題の工夫 【具体例を提示し学習のポイントをつかませる】 パワーアップさせるのは「内容の分かりやすさ」と「リーフレットとしての見やすさ」であることを示す。それらについて修正した具体例を提示し、アドバイスを生かして直す良さに気付かせることで、本時の学習のポイントをつかませ、意欲を高める。 〈活動報告としての内容の分かりやすさ〉 町民運動会の紹介で、吹き出しを使って会話を追加しています。写真に載っている人のせりふだけでなくいろいろな人の一言感想があって、楽しく参加している様子がよく伝わってきます。 ＊本時は「学び合いⅠ→修正→学び合いⅡ」の順に学び合いを2段階で行うことを知らせ、見通しを持たせる。

展 開	T：ポイントのどの観点に沿った気づきかを示しながら、互いにアドバイスしましょう。学び合いⅠ S：活動内容が詳しく書いてあり、〇〇小の人にも分かりやすいと思います。見出しの工夫として、活動名だけでなく、特に紹介したい内容が分かる言葉を入れると、読み手が…。	*「作成→見直し・修正→修正後の確認」の各段階において「活動報告のポイント」「リーフレットの工夫」を一貫して用い、それらに沿って助言させる。 全体の構成が工夫されていて、どこに何が書いてあるか一目で分かります。4年生に向けてなので、特にやりがいのあった活動について様子なども入れて詳しく書くと、感想と結び付いて参考になると思います。
	(2)「学び合い」の工夫 【2段階の「学び合い」を設定する】 ①学び合いⅠ：「友達にアドバイスしよう」（3～4人グループで） ポイントに沿って表現の良さを伝えたり、改善できそうな点を助言したりする。 （アドバイスを受ける側は、ワークシートにメモしながら聞く。） ②付箋を使って修正（各自） 友達からのアドバイスを受け、付箋を使って修正する。 ③学び合いⅡ：「修正して良くなったところを伝えよう」（別の3～4人グループで） 修正のポイントとして気付いたことや、前より良くなった点について伝える。 ④リーフレットの修正（各自） 【アドバイスし合う際のポイントを提示する】 〈活動報告のポイント〉 ①目的に応じて、必要な情報を落とさずに書く。 （活動日、活動場所、活動した人数やメンバー、活動内容、活動の成果など。） ②活動した事実を整理して書く。 （活動の時期、内容や結果を具体的に書く。できるだけ数値を使って表す。） ③活動のまとめや取り組んだ感想を書く。 （活動全体についての振り返りや、特に印象に残った活動の感想等を具体的に書く。） 〈リーフレットの工夫〉 読む人が興味を持ち、分かりやすく読めるように、工夫して書く。 ①キャッチフレーズや見出しを使って、分かりやすく内容を伝える。 ②伝えたい内容をより効果的に伝えるため、写真や図表を取り入れる。 ※ アドバイスされる側がメモとして活用するワークシートも、上記の観点（活動報告としてのポイント、リーフレットの工夫）ごとに分けて記入できるように作成する。	
	T：アドバイスされたことを基に、付箋を使って書き直しましょう。 S：常時活動の他に頑張った児童朝会での劇「掃除の仕方」とクイズ「目と歯の健康を守るために」をもう少し詳しく書こう。 T：どの観点に沿って直したのかを確認し合いながら、修正して良くなったところを伝えましょう。学び合いⅡ S：「数値を使って表す」というポイントだね。呼び掛けを工夫した成果として、ハンカチ・ちり紙検査の結果がどのように変わってきたかが分かりやすくなったよ。 T：友達からもらった意見を参考に、自分でもう一度見直ししながら、リーフレットを修正して完成させましょう。 S：直した意図が伝わって良かった。〇〇さんの見出しが分かりやすかったので、私も…。	*助言された内容を受け、自由に書きながら思考を再構成できるよう、付箋を使ってまとめさせる。また、修正前の記述を消さずに残しておくことで、学び合いⅡで修正後の表現と比較できるようにすることを確認する。 *修正した良さに新たな目線で気付けるよう、学び合いⅠと異なるメンバー3～4人で班を構成する。 学び合いⅠ：班の中でABC(D)を決めておく。 学び合いⅡ：AAA(A)、BBB(B)というように班を構成する。 *修正後の工夫された表現は、自分のリーフレットを見直すヒントにもなることを意識付ける。 *助言された内容に加え、友達のリーフレットを見て取り入れたいと思った良さも生かすよう話す。 *構成を大きく変えたり、修正・追加が多かったりする場合には、切り取って台紙に貼るなどの工夫をさせる。
終 末	T：観点に沿ってアドバイスをすることができたでしょうか。また、友達からのアドバイスを生かし、リーフレットをパワーアップさせることができたでしょうか。両方の立場から振り返って、感想を2～3行で書きましょう。	(3)「振り返り」の工夫 【学習課題との整合性を図って振り返らせる】 アドバイスする側・される側、両方の立場からの気づきや感想等を2～3行で記述させる。

(2) 中学校 国語

①成果と課題、指導改善のポイント例

<話すこと・聞くこと>

成果

- 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。[A7一]
- 互いの発言を検討して自分の考えを広げる。[A7二]

課題

- △ 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す。[A5一]

指導改善のポイント例

- * 自分が伝えたいことを相手に話す際には、相手の立場や状況を考え、話の内容だけではなく、話し方を工夫するように指導しましょう。その際、相手の都合を気遣いながら話し始めるとともに、適切な言葉遣いで話すことが大切です。例えば、依頼や確認の電話をするためのリハーサルを行うなどの具体的な言語活動の場面を設定し、相手や場に応じた言葉遣いなどについて確認する学習活動を行ったり、総合的な学習の時間にインタビューを行う学習で話し方の指導を行ったりする必要があります。

<書くこと>

成果

- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。[A2一]
- 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えて書く。[B2三]

課題

- △ 文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く。[A4一]
- △ 文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く。[B1三]

指導改善のポイント例

- * 調べた内容を相手に分かりやすく伝えるには、国語科に限らず、各教科等の学習など学校生活の様々な場面で必要とされます。2つの内容が混在しているような文章を二文に分けて分かりやすく整理するような学習を取り入れましょう。
- * 表現の工夫は捉えているが、その効果について具体的に書くことができていない誤答が見られました。ちらしやポスター、パンフレットなどを集め、構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりする学習活動が有効です。「必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」という点において、一人一人に「書く活動」を通して考えを持たせ、交流を通して考えを共有させるなどの工夫を行っていきましょう。

(P26「授業アイディア例」参照)

<読むこと>

成果

- 文章の構成や展開について自分の考えを持つ。[A6二]
- 文章の構成を捉える。[B2一]

課題

- △ 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。[A6一]
- △ 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える。[B1一]

指導改善のポイント例

- * 説明的な文章では、文章の構成を捉えるとともに、書き手の論の展開の仕方を理解し、内容を把握することが大切です。例えば、文章中の具体例や引用した部分などの付加的な情報を整理し、それらが文章の中心的な部分をどのように支えているかについて考える学習活動が効果的です。
- * ちらしやポスター、パンフレットなどの実用的な文章を読む際には、目的に応じて中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を的確に捉えることが大切です。例えば、実際に身の回りにあるちらし等を比較しながら読み、それぞれのちらしが誰を対象としているか、どのようなことを伝えようとしているのかについて話し合うなどの学習活動を取り入れましょう。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

成果

- 文脈に即して漢字を正しく読む。[A9二3]
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。[A9三ウ]

課題

- △ 辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える。[A9四イ]
- △ 歴史的仮名遣いを現代的仮名遣いに直して読む。[A9七1]

指導改善のポイント例

- * 漢字には、1つの文字に複数の意味が備わっているものが多くあります。その意味については、漢和辞典を用いて調べる学習活動などを通して、熟語の意味と結び付けながら適切に捉える必要があります。その際、語句の持つ辞書的な意味を確認するだけでなく、文脈に即して意味を捉えたり、適切に用いたりすることができるように指導することが大切です。
- * 古典の学習の際には、小学校での学習を踏まえた上で、音読や朗読を通して古典特有のリズムを味わい、古典に表れたものの見方や考え方に触れ、古典への興味・関心を高めることが重要です。また、本問では、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すこと」を「意味を書くこと」と捉えてしまった誤答が見られたので、現代仮名遣いに直すことについて指導する必要があります。

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果…B③ 三 本や文章などから必要な情報を読み取り，根拠を明確にして自分の考えを書く。
 (正答率 : 宮城県 59.9% 全国 57.7%)
 (無解答率 : 宮城県 21.7% 全国 22.8%)

2 単元名 「観察・分析して論じよう 批評文」 (東京書籍 3年)

3 目 標

- ・批評の対象について，観察・分析したり，比較したりして，自分なりの判断を下そうとしている。【関心・意欲・態度】
- ・論の進め方を工夫し，資料を参考にしたり引用したりして，説得力のある批評文を書いている。【書くこと】
- ・書いた批評文を読み合って評価し，ものの見方や考え方を深めている。【書くこと】
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を，文章の中で使っている。【伝 国】

4 授業改善の視点

- (1) 意欲を高める課題設定の工夫
- (2) 「学び合い」の工夫
- (3) 「振り返り」の工夫

学ぶ意欲が高まるよう，実社会や実生活との関わりを重視した学習課題を設定しましょう。学習を振り返る際には生徒自身が自分の学びを自覚し，説明したり評価したりできることが重要です。



5 指導過程(第5時)

【単元の学習計画表】

	⑤	4	3	2	1
みんなの書いた「批評文」を読み合って交流する学習がすごく楽しみだな。「批評文」についてしっかり学ぼう。	の批評文を読み合って，論の進め方や表現の工夫などを評価し，話し合う。	手順②～⑥に従って「チヨコレート」のポスターA～Cから1つ選び，観察・分析して批評文を書く。	手順⑥批評文の完成例を読み合い，論の進め方や表現の工夫などについて話し合う。	「実用的な言葉の力」整理する力―比較する―を読んで比較の観点について考える。	手順②～⑥を読んで，批評文の書き方を確認する。手順③を用いて，「マイボトル」A～Cのポスターについて観察・分析する。
参考資料とポスターを観察・分析し，批評文を書いて交流しよう。					

段階	T : 主な発問・指示 S : 予想される生徒の反応	(1) (2) (3) : 授業改善の視点 * : 指導上の留意点
導 入	T : 学習課題を提示する。 批評文を読み合い，論の進め方や表現の工夫などを評価し合おう。 S : 学習課題を確認し，見通しを持つ。 今日は「論の進め方」と「表現の工夫」を評価し合うんだな。みんなはどのような構成で書いたのか，読むのが楽しみだな。内容だけでなく表現の工夫も大切なんだな。	* 学習計画表，本時の学習の流れを確認させ，課題解決に向けた見通しを持たせる。 (1) 意欲を高める課題設定の工夫 【批評文を書くポスターを自分で選ぶ】 「正解」が1つではなく，複数の観点から追求し，多様な考え方ができる課題を設定する。内容理解にとどまらず，表現の工夫とその効果について考えさせる課題を設定し，選ばせることによって主体的に学ぶ手立てとする。
	T : 前時まで書き終えた批評文についてグループで評価し合ひましょう。 【ポスター】 A ポリビアの太陽の恵みをお届けします B 黒い宝石，召し上がれ C カラダめざめる カカオ70%	(2) 「学び合い」の工夫 【ジグソー学習】 * 1回目はポスターA～Cごとに4人グループで交流する。選んだポスターは同じなので，「どこが優れている」と根拠を述べているかに着目し，共通点や相違点について交流させる。

展

参考資料の中の「フェアトレード（公正貿易）」という言葉とポスターに描かれた生産者のことを関連させて書いてみたよ。

A1 A2

ポスター A
(担当)

A3 A4

B1 B2

ポスター B
(担当)

B3 B4

C1 C2

ポスター C
(担当)

C3 C4

C2さんは、結論、根拠という構成で書いていたね。私は一番最後に結論を書いたので、最初に結論を書く書き方が分かりやすかったよ。

T：グループを次のように変えて、それぞれのポスターの優れている点について根拠を明確にしながら交流しましょう。

*2回目はポスターA・B・Cを選んだ3人グループで交流する。「論の進め方」と「表現の工夫」に着目し、自分の批評文との共通点や相違点について交流させる。

開

A1 B1

A～Cの
1の生徒

C1

A2 B2

A～Cの
2の生徒

C2

A3 B3

A～Cの
3の生徒

C3

違うポスターを選んだ人の根拠を聞いたら、気付かなかった視点からの根拠で説得力があったな。それぞれのポスターに良さがあるんだなと思ったよ。

S：

B1さんの批評文は「高級」というキーワードを「黒い宝石」という比喻を用いて表現した点を評価する文章だった。C1さんは、ポリフェノールの効果と「カラダめざめる」というコピー、飛び出すような男の子を合わせて「健康」をアピールする批評文で説得力があった。

C3さんはAのポスターについて「ポリフェノール」の効果がもっと表現できればよいと述べていた。私は気付かなかったが、納得する考えだった。

平成27年度・28年度調査において「必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く」という設問に課題が見られた。

そこで、関連する資料を参考にしながら自分の考えを根拠を明確にして書く場面を設定した。【参考資料】を手掛かりにして【ポスター】の優れている点を内容と表現を根拠として適切に取り上げて批評文にまとめることを求めている。

【ワークシート例】

論の進め方	表現の工夫
- CさんはAとBと比較しCの優れている点を接続詞を用いて順序よく書いていた。 - Bさんは、結論を最初に述べて、そのあとそう考えた根拠を述べていた最後に、もう一度結論を述べ、自分の論を強くしていた。	- Cさんは、資料からの引用が効果的に用いられていた。 - Bさんは「高級」というキーワードを「黒い宝石」としたとえた表現を評価していた。

終
末

T：今日の学習課題は「批評文を読み合い、論の進め方や表現の工夫などを評価し合おう」でした。今日、学んだことをノートに3～5行で書きましょう。

(3)「振り返り」の工夫
【学習課題との整合性を図って振り返らせる】

*振り返りの観点(条件)は「①論の進め方」「②表現の工夫」について③3～5行で記述することとしてしっかりと生徒に示す。

※振り返りの記述に求めることを授業者がしっかりと押さえましょう！

△今日の授業ではしっかり話し合えた。(条件①②③を満たしていない)

○比喻を用いたキャッチコピーが工夫されているなど、良さを具体的に示していて分かりやすい批評文が参考になった。(条件②③は満たしている。条件①を満たしていない)

◎C1さんの批評文は優れている点を3つ、接続詞を用いて順序よく説明していた。A1さんは「フェアトレード（公正貿易）」の大切さと「ポリビアの太陽の恵み」という表現を重ね合わせて批評文にまとめていたのがよかった。(条件①②③を満たしている)

(3) 小学校 算数

①成果と課題，指導改善のポイント例

<数と計算>

成果

- 末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができる。[A2](2)]
- 数の大小関係を理解している。[A3](2)]

課題

- △ 除数と被除数に同じ数をかけて(小数)÷(小数)を(整数)÷(整数)に置き換えても，商は変わらないことを理解している。[A1](2)]
- △ 小数の除法「(整数)÷(小数)」の計算をすることができる。[A2](3)]
- △ 示された式に数値を当てはめて，目標のタイムを求めることができる。[B2](2)]

指導改善のポイント例

- * 除数と被除数をそれぞれ10倍すると，商は $1/10$ になると判断してしまう誤答が多く見られます。 $21 \div 7$ の商と $210 \div 70$ の商が同じになることから，除法の性質が成り立つことを確かめ，それを基に， $2.1 \div 0.7$ の商は $21 \div 7$ の商と同じになることを確認するなど，小数の除法を整数の除法に置き換える活動を取り入れましょう。
- * 除数が1より小さいとき，商が被除数より大きくなることを理解できていないための誤答が見られます。例えば，「 $18 \div 0.9$ 」の問題を用いて，「除数が1よりも小さいので，商は18よりも大きくなる」と見積もったり，「 $18 \div 0.9$ をおよその数で捉えて $18 \div 1$ と考え，商は18に近い数になる」と見積もったりするなど，大きな誤りを防ぐために計算の結果を見積もる活動を取り入れましょう。

<量と測定>

成果

- 単位量当たりの大きさの求め方を理解している。[A4]
- 三角形の底辺と高さの関係について理解している。[A5]

課題

- △ 面積が 1 cm^2 小さくなることの説明を解釈し，用いられている考えを別の場面に適用して，その説明を言葉と式を用いて記述することができる。[B1](2)]

指導改善のポイント例

- * 説明の論理が飛躍していたり，与えられた数値を短絡的に用いて計算してしまうなどの誤答が見られます。算数の学習では，前提となる考えや理由などの根拠を明らかにして，論理的に考えたり説明したりすることが大切です。例えば，ある事象に関する「説明」を，「図」と順序よく対応付けて丁寧に解釈する活動を行った上で，更に，条件を変更した場合にどのような結果になるかを，再度，「図」と対応付けながら説明するような活動を取り入れましょう。その際，変わるものと変わらないものなど，様々な視点から検討する活動を取り入れることも有効です。

<図形>

成果

- 図形を構成する角の大きさを基に、示された四角形を並べてできる形を判断することができる。[B5](2)]

課題

- △ 図形の構成要素に着目して、図形を構成することができる。[A6]
- △ 直方体における面と面の位置関係を理解している。[A7]
- △ 正方形に円が内接するときの円の半径について理解している。[B3](3)]

指導改善のポイント例

- * 図形の性質を学習する際は、具体物を用いた活動を位置付けることで、その理解は実感的なものになります。例えば、具体物を用いながら、ある図形の中に、与えられた図形が何枚入るかを予想し、辺の長さや角の大きさに着目して説明する活動を取り入れましょう。
- * 直方体のある面を基準としたときの、平行と垂直の意味の理解ができていないことによる誤答が見られます。立方体や直方体の面に三角定規を当て、面と面の平行や垂直の関係を調べたり、基準になる面を決め、その面に対して平行な面や垂直な面を指摘したりする活動を取り入れましょう。その際、立体と見取図を対応させ、見付けた平行や垂直な面が、見取図のどこに当たるかを確認することを大切にしましょう。
- * 正方形に内接する円をかく活動や、円を用いて二等辺三角形を作図する活動など、図形の性質を基に作図する経験を十分に行うことができるような場を設けるようにしましょう。

<数量関係>

成果

- 単位量当たりの大きさを求めるために、示された資料のほかに必要な情報を判断し、特定することができる。[B4](1)]

課題

- △ 示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことができる。[A9](1)]
- △ 示された情報を基に、ハードルの数とインターバルの数の関係を把握して式に表し、4台目のハードルの位置を求めることができる。[B2](1)]
- △ 示された式に数値を当てはめて、目標のタイムを求めることができる。[B2](2)]

指導改善のポイント例

- * 基準になる人を含めずに、問題文中の数のみを用いて立式している誤答が見られます。数量の関係を適切に捉えるためには、立式する前に問題場面を図にかいたり、必要に応じて具体物を用いたりする活動が有効です。基準になる人の前に○人、後ろには□人などと問題場面を区切って、順序よく図に表現する活動を取り入れましょう。
- * 問題解決においては、問題場面を図に表し、図と式を関連付けることで、問題場면을的確に捉えたり、計算の順序を考えて正しく計算したりできるようにすることが大切です。図を用いて式の妥当性について話し合ったり、計算で求めた結果について、実際の場面に当てはめてその結果が適切かどうか振り返って確かめたりするような活動を取り入れましょう。

(P30「授業のアイディア例」参照)

②授業アイデア例

1 課題が見られた問題の概要と結果・・・B2(1)(2)「数学的な表現の活用と解釈」

正答率：(1) 宮城県 52.1% 全国 56.2%
(2) 宮城県 45.6% 全国 50.5%

2 小単元名 「共通部分に目をつけて」(東京書籍 4年)

3 本時の目標(ねらい)と評価規準

本時の目標(ねらい)	評価規準	
	関心・意欲・態度	数学的な考え方
2つの量の共通部分に着目し、問題の構造を図や式に表して問題を解決することができる。	図や式に表して、問題の構造を簡潔に捉えようとしている。	共通部分に着目して、問題の構造を単純化して捉え、言葉や図、式を用いて解決の手順を説明している。

4 授業改善の視点

- (1) 意欲を高める学習課題の工夫
- (2) 考えを広め深める学び合いの工夫
- (3) ねらいに即した振り返りの工夫

2つの量を図にかいたり、式に表したりしながら共通部分に着目することで、問題の構造が捉えやすくなることに気付かせましょう。



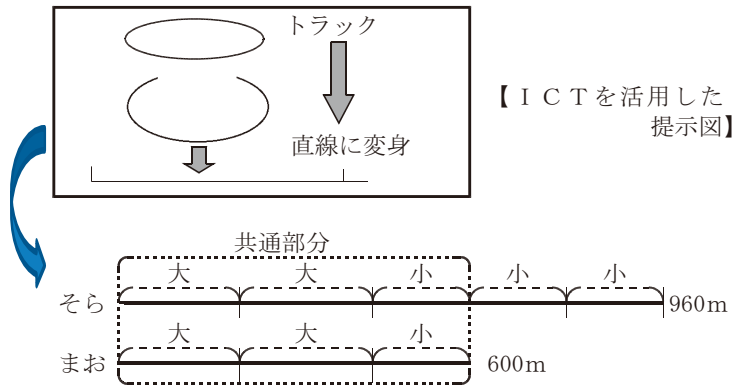
5 指導過程

段階	T：主な発問・指示 S：予想される児童の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 ＊：指導上の留意点																														
学習課題の把握	T：そらさんとまおさんは、朝早く登校し、持久走大会の練習をしました。記録表を見ると、そらさんは大トラックを2周と小トラックを3周で960m、まおさんは大トラックを2周と小トラックを1周で600m走ったことが分かります。【記録表の提示】 T：2人は、毎日1.5km走ることを目標にしているそうです。あと何周走ればよいか教えてあげましょう。 S：1週の長さが分からないと教えてあげられません。 でも、表を見ると、2つのトラックを何周したかによって、走った距離が分かっているよ。 表から分かることを使って、トラック1周分の長さが求められないかな。 T：それでは、記録表を見ながら、それぞれの1週の長さを求める方法を考えてみましょう。 S：図にかいてみたらどうだろう。比べやすいように、線分図に表したらどうだろう。 □を使った式には表せないかな。 T：1週の長さが求められそうなヒントが見つかったね。それでは、今日の学習課題です。 図や□の式を使って、大トラックと小トラックの1週の長さの求め方を考えよう。	<table><tr><td colspan="2">毎日の目標きより</td><td colspan="3">1.5km</td></tr><tr><td>記録表</td><td>名前</td><td>大トラック</td><td>小トラック</td><td>きより</td></tr><tr><td>朝の記録</td><td>そら</td><td>2周</td><td>3周</td><td>960m</td></tr><tr><td>放課後の記録</td><td>まお</td><td>2周</td><td>1周</td><td>600m</td></tr><tr><td></td><td>そら</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>まお</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> (1)意欲を高める学習課題の工夫 問題場面の提示では、身近なことや現実的なことで、日常生活と関連のある問題場面を取り上げたり、条件に過不足がありすぐには判断ができないような問題場面を取り上げたりすることで、児童の興味・関心を引き出すようにする。また、挿絵やICTを活用して、問題内容のイメージを持たせ、題意の理解を図るようにする。 課題設定では、問題場面から児童の疑問を引き出したり、分かっている条件を見付けさせたりしながら、解決への見通しを持たせることで、「解けそうだ」「解いてみたい」という意欲を引き出すようにする。	毎日の目標きより		1.5km			記録表	名前	大トラック	小トラック	きより	朝の記録	そら	2周	3周	960m	放課後の記録	まお	2周	1周	600m		そら					まお			
毎日の目標きより		1.5km																														
記録表	名前	大トラック	小トラック	きより																												
朝の記録	そら	2周	3周	960m																												
放課後の記録	まお	2周	1周	600m																												
	そら																															
	まお																															
自力解決	T：図や□の式を使って、それぞれの長さを求めよう。 S：トラックの図をかいたら、同じところを見付けたよ。 線分図にかいたら、共通しているところがすぐ分かったぞ。 □と○で式をつくろうと思ったら、難しいな。	＊見通しが立たず、解決が滞っている児童には、2つの線分図を見比べさせ、共通部分を線で囲ませるなどしながら、そらが小トラックを2周多く走っていることと(960－600)m分だけ多く走っていることを視覚的に捉えさせたい。																														
集団解決	T：ペアで自分の考え方を友達に説明しましょう。考え方が似ているところはどこか見付けるようにしましょう。 S：トラックの図をかいたら、そらさんが2周多く走っていて、それが2人の長さの差だと分かりました。 線分図に表してみたら、点線で囲んだところが共通していることが分かり、小トラックの長さを求めることができました。	(2)学び合いの工夫 ペアで、それぞれの考えを図や線分図、□を使った式を用いて、解法の根拠を明確にしながらか説明し合うことができる場を設定する。																														

□を大トラック、○を小トラックにして式をつくったら、□+□+○のところがどちらの式にもあって、それが600m分だということが分かったので、式を置き換えてみたら解けました。

トラックの図をかいたり線分図にかいたりしたら、2人に共通しているところが分かりやすくなったね。

□と○の式でも、同じところが見付けられたね。



(2) 学び合いの工夫

考えを伝え合う場面では、それぞれの考え方で共通していることや違っていていることを意識させたり、協力して分かりやすい説明にさせたりするなど、児童の学習状況に応じた学び合いの視点を示すことで、学び合いの目的を明確にする。また、ペアやグループでの学び合いが、ねらいやその後の学習につながる必然的な活動として設定されるよう吟味する。

* ICTを活用し、図や線分図、□を使った式を対比させながら、それぞれに共通部分があることや、それを置き換えることで問題を簡単に表すことができることに気付かせたい。

T : 考え方を発表しましょう。

S : 【全体での発表】

T : みんなの考えを聞いて、気付いたことは何ですか。

S : 図にかいたら問題が分かりやすくなった。

図や式にかいてみたら、同じ(共通している)ところを見付けられた。

分からないところを□や○にして式にすると考えやすくなった。

図をかいたら、2人の違うところも分かりやすくなった。

図や式から同じところに目をつけて、その部分をなくしたり、置き換えたりすると、問題が簡単になった。

T : みんなの考えをもとに、今日の学習のまとめをしましょう。

【考えやすさのポイント】

- ・ 図をかいたり、□を使った式に表したりしてみる。
- ・ 同じところやちがうところに目をつける。

T : 1周分の長さが分かったから、2人にあと何周走ればよいか教えてあげよう。【適用問題】

そらさんとまおさんが毎日の目標としている1.5kmを達成するためには、それぞれ大トラックと小トラックをあと何周ずつ走らなければならないか、2人に教えてあげよう。放課後にクラブ活動があるので、できるだけ1.5kmに近い距離になるようにしてあげよう。

T : 今日の学習で新しく気付いたことや考えたことを、まとめの言葉を使ってノートに書きましょう。【授業感想】

S : 図をかいたり、式に表したりすると、同じところが見えやすくなりました。

同じところを見付けたら、問題が簡単になりました。

* 全体発表では、ICTを活用して児童のノートを全体に提示するようにする。

(3) 振り返りの工夫

振り返りでは、「結果の振り返り」だけでなく、「方法の振り返り」も大切にする。自分の解決方法と他者の解決方法とを照らし合わせ、よりよい解決方法に気付かせることで、理解を深めるようにする。

適用問題では、本時の課題解決から得られた気付きやよりよい方法を活用させるなどしながら、学びの成果を実感させるようにする。

(2) 学び合いの工夫

適用問題の解法場面でも、グループでの学び合いの場を設け、考え方の根拠を明確にして説明し合う活動を設定し、数学的な思考力や表現力の育成を図るようにする。

* 振り返りでは、本時で得た新たな学びや自分の変容に気付けるように、書く視点を示して記述させる。

(4) 中学校 数学

①成果と課題、指導改善のポイント例

<数と式>

成果

- 計算の過程を振り返って考え、数当てゲームの新しい手順を完成することができる。

[B6](3)]

課題

- △ 分数と小数の乗法の計算ができる。[A1](1)]
- △ 自然数の意味を理解している。[A1](2)]
- △ 具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形できる。

[A2](4)]

指導改善のポイント例

- * 分数を小数に直して計算した際に、正答と異なる位置に小数点を書いている誤答が見られます。意図的に誤答を示し、計算過程を振り返りながら、どこに誤りがあるかを見だし、乗数と被乗数を小数や分数にそろえる方法や小数の位取りに着目して、正しい計算の仕方を確認する活動を取り入れましょう。
- * 自然数には0が含まれると捉えている誤答が多く見られます。新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、様々な数の中から自然数や整数を判断したり、0は整数に含まれるが、自然数には含まれないことを確認したりする活動を取り入れましょう。
- * 2つ以上の文字を含む等式を、ある文字について解く場面を設定し、正しく変形できるよう指導することが大切です。その際、変形して得られた式を具体的な場面で利用することのよさを実感できるような活動も取り入れましょう。

<図形>

成果

- 対称移動した図形をかくことができる。[A4](2)]
- 証明の必要性と意味を理解している。[A8]

課題

- △ 空間における直線と直線との位置関係（ねじれの位置）を理解している。[A5](1)]
- △ 円錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい円柱の体積の $1/3$ であることを理解している。[A5](4)]

指導改善のポイント例

- * ねじれの位置と平行を混同している誤答が見られます。見取図から直線や平面の位置関係を読み取ることができるようにするためには、立体の模型などの具体物を用いた観察や操作を取り入れることが大切です。立体の模型に対し、直線と見立てた鉛筆などを各辺に当てたり、平面と見立てた下敷きなどを各面に当てたりして、考察の対象を顕在化させた上で、直線や平面の位置関係を捉えられるような活動を取り入れましょう。
- * 柱体の体積と錐体の体積の関係を予想し、その予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる活動を通して、柱体と錐体の体積の関係を理解できるように指導しましょう。

<関数>

成果

- 与えられた条件を基に、表から2つの数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることができる。[B2](1)]

課題

- △ 具体的な事象における2つの数量の関係が、反比例の関係になることを理解している。[A9](3)]
- △ 一次関数のグラフの特徴について、表と関連付けて理解している。[A10](1)]
- △ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。[B3](3)]

指導改善のポイント例

- * 「 x の値が増えると y の値が減るから、 y は x に反比例する」、「わり算が使われる場合は反比例する」と誤って捉えている生徒がいると考えます。2つの数量の関係を式に表し、式の形からどのような関数かを判断する活動を取り入れましょう。その際、数量の関係を言葉の式や線分図などで表したり、表をつくって具体的な数値を基に変化の様子を調べたりする活動を通して、問題場面の理解を深められるように指導しましょう。
- * 一次関数の表からグラフの傾きや切片を読み取り、その符号や絶対値によって直線の傾き具合や、 y 軸との交点の座標を判断する活動を取り入れましょう。
- * 問題解決の過程を振り返る場面を設定し、解決の方法や手順を説明し合い、お互いの説明を比較検討する活動を取り入れましょう。そのような活動を通して、グラフを用いれば求めるおよその値が一目で分かることや式を用いれば正確な値が求められるなど、数学を活用することのよさを実感できるようにすることが大切です。(P34「授業のアイデア例」参照)

<資料の活用>

成果

- 同じ試行を繰り返し行う場面において、「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解している。[A13](1)]

課題

- △ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。[A12](1)]
- △ 簡単な場合について、確率を求めることができる。[A13](2)]

指導改善のポイント例

- * 「最頻値」の意味理解に課題があると考えます。目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れ、資料の代表値を求めることができるように指導しましょう。例えば、ある学年の1か月間に読んだ本の冊数のデータを収集して整理し、表やヒストグラムなどに表し、代表値を用いて資料の傾向を説明する活動を取り入れましょう。その際、読んだ本の冊数の最頻値とは、何冊読んだ人が一番多いのかを表すものであり、その人数ではないことを、具体的な作業を通して確認する場面を設定するようにしましょう。
- * 硬貨を投げる試行において、起こり得る場合に表と裏があり、それぞれの場合が同様に確からしいことから、樹形図を用いて、3回目までに表と裏がどのように出ても、その出方は4回目の表と裏の出方に影響しないことを確認する場面を設定しましょう。また、トランプを用いて、偶数のカードをひく確率や絵札をひく確率を求める活動を取り入れましょう。

②授業アイデア例

- 1 課題が見られた問題の概要と結果… B3 (3)「事象の数学的な解釈と問題解決の方法の説明」
(正答率：宮城県 27.5% 全国 30.3%)
- 2 小単元名「1次関数の利用」(東京書籍 2年)
- 3 本時の目標(ねらい)と評価規準

本時の目標(ねらい)	評価規準	
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方
具体的な事象を1次関数で捉え、表、式、グラフを用いて問題を解決し、自分の考えを説明することができる。	使用年数と総費用の関係を1次関数で捉えることに関心を持ち、表、式、グラフを用いて問題を解決しようとしている。	使用年数と総費用の関係を1次関数で捉え、表、式、グラフを用いて問題を解決する方法を説明することができる。

4 授業改善の視点

- (1) 意欲を高める学習課題の工夫
- (2) 考えを広め深める学び合いの工夫
- (3) ねらいに即した振り返りの工夫

具体的な事象の考察場面において、目的に応じて必要な情報を適切に選択し、表、式、グラフを用いて表現することで、自分の考えを説明する際によりどころとなることに気付かせましょう。



5 指導過程

段階	T：主な発問・指示 S：予想される生徒の反応	(1)(2)(3)：授業改善の視点 ＊：指導上の留意点														
学習課題の把握	T：このクラスの担任の太田先生が、車を新しく買い替えることを考えているらしいよ。 S：「どんな車かな？」 T：みんなだったら、どんな車がいい？ S：「カッコいい車」「外車」「スポーツカー」「赤い車」 T：みんな、いろいろな考えや好みがあるんだね。さて、みんなに太田先生からメッセージが届いています。 新しい車を買いたいと思っていますが、ガソリン車Aとハイブリッド車Bのどちらを買うか悩んでいます。みなさんアドバイスをお願いします。	(1)(2)(3)：授業改善の視点 ＊：指導上の留意点 ＊生徒とのやり取りから、自由な思考や発言を促し、発想を豊かにすることで、課題解決に向かう情意面の高まりを目指す。 ＊モニターで太田先生からのお願いメッセージの映像を映すとともに、2台の車の写真を提示する。 A車 B車   ＊問題を模造紙で黒板に提示														
	T：問題の提示 2年3組の担任の太田先生は新車の購入を考えています。ガソリン車Aとハイブリッド車Bにかかる総費用についてどちらの方が安くなるか検討しています。 右の表は、それぞれにかかる費用や燃費などを比べたものです。 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>ガソリン車A</th><th>ハイブリッド車B</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>購入費用</td><td>200万円</td><td>240万円</td></tr> <tr> <td>燃費</td><td>15km/L</td><td>30km/L</td></tr> <tr> <td>1年間の走行距離</td><td>1万5000km</td><td>1万5000km</td></tr> <tr> <td>1年間のガソリン代(1L120円として)</td><td>12万円</td><td>6万円</td></tr> </tbody> </table> S：「先生。総費用とは何ですか？」 T：総費用とはどういうものでしょう。わかる人いますか。 S：「購入費用とガソリン代の合計じゃないですか。」 T：そうですね。今回は総費用にしばって考えてみましょう。		ガソリン車A	ハイブリッド車B	購入費用	200万円	240万円	燃費	15km/L	30km/L	1年間の走行距離	1万5000km	1万5000km	1年間のガソリン代(1L120円として)	12万円	6万円
	ガソリン車A	ハイブリッド車B														
購入費用	200万円	240万円														
燃費	15km/L	30km/L														
1年間の走行距離	1万5000km	1万5000km														
1年間のガソリン代(1L120円として)	12万円	6万円														
見通す	T：学習課題の提示 あなたならどちらの車を太田先生にすすめますか。使用年数と総費用の関係をj用いて説明しよう。 T：必要なものや困ったことがあったら先生に言ってね。 (机間指導しながら進行状況を把握) 「表を作ろうとしているね。」 「グラフで考えているね。」 「式を作って進めているね。」															

自力解決	T：では、表やグラフや式を使って使用年数と総費用の関係を調べてみよう。 S： ○表を用いた考え方 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用年数 (年)</th><th colspan="2">総費用 (万円)</th></tr> <tr> <th>A車</th><th>B車</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>200</td><td>240</td></tr> <tr><td>1</td><td>212</td><td>246</td></tr> <tr><td>2</td><td>224</td><td>252</td></tr> <tr><td>3</td><td>236</td><td>258</td></tr> <tr><td>4</td><td>248</td><td>264</td></tr> <tr><td>5</td><td>260</td><td>270</td></tr> <tr><td>6</td><td>272</td><td>276</td></tr> <tr><td>7</td><td>284</td><td>282</td></tr> <tr><td>8</td><td>296</td><td>288</td></tr> </tbody> </table> ○グラフを使った考え方	使用年数 (年)	総費用 (万円)		A車	B車	0	200	240	1	212	246	2	224	252	3	236	258	4	248	264	5	260	270	6	272	276	7	284	282	8	296	288	*見通しが立たず解決が進んでいない生徒には、ヒントカード(表の作り方)の提示や、グラフ用紙を配布して、自力解決させたい。 ○式を用いた考え方 総費用は使用年数の1次関数となるから、使用年数をx年、総費用をy万円とすると、 A車：$y = 12x + 200$ B車：$y = 6x + 240$ 上の2つの式を連立方程式として解くと、2台の車の総費用が同じになるのは$x = 20/3$となる。
使用年数 (年)	総費用 (万円)																																	
	A車	B車																																
0	200	240																																
1	212	246																																
2	224	252																																
3	236	258																																
4	248	264																																
5	260	270																																
6	272	276																																
7	284	282																																
8	296	288																																
集団解決	T：太田先生にアドバイスできるよう、自分の説明を確かなものにしてもらいます。自分と同じ考え方をした仲間と小グループを作り、考え方のよさをアピールしながら、より説得力のあるものに仕上げましょう。 S： ○表を用いた考え方 6年まではA車、7年からはB車の方が総費用が安くなることが分かります。だから、長く乗るならB車の方が総費用が安くなります。 ○グラフを使った考え方 6年と7年の間で総費用がおよそ280万円のところでグラフが交わっています。だから、6年までならA車、7年以上乗るならB車が安くなります。 T：グループで話し合った結果を発表してもらいます。 S：(表、グラフ、式の3つのグループが発表) T：それぞれの発表を聞いて気付いたことや、考え方のよいところについて、小グループごとに話し合ってみましょう。 S：表を使うと、1年ごとの総費用が分かります。 グラフを見ると、総費用の変化の様子が一目で分かるし、逆転するところも分かりやすいです。 式を使うと、総費用が逆転する使用年数を、計算ではっきり求めることができます。	(2) 学び合いの工夫 説明に使用する表、式、グラフごとに3・4人の小グループを編成し、使用年数と総費用の関係と、その考え方の良さを伝える学び合いを行い、自分の説明を再検討し、更に説得力あるものに仕上げることができるようにする。 ○式を用いた考え方 使用年数xは、$x = 20/3$の時にA車とB車の総費用が同じになることが分かります。$20/3$ということは、6と$2/3$年です。だから、6年8か月を超え9か月目からはB車の方が総費用が安くなり、お得になることが分かります。 *任意の小グループごとの学び合いを促す。 (1) 意欲を高める学習課題の工夫 日常生活の事象を数学的に捉え、表、式、グラフ等を判断の根拠として説明し合うことで、多様な表現の良さや、面白さに気付かせる課題になるよう工夫する。																																
まとめ・振り返り	T：今日の授業で分かったことをもとにして、太田先生がどちらの車を買ったらよいか、アドバイスするための提案書をつくりましょう。 S： グラフと式の計算から分かるように、使用年数によって総費用がお安くなる車は変わります。6年以内の短期間乗ろうと考えているならガソリン車A、6年8か月以上乗るつもりなら、ハイブリッド車Bを買うことを提案します。 T：今日学習したことを生かして、次の問題を家で考えてみましょう。(家庭学習課題提示) 「平成28年度全国学力・学習状況調査問題B3」	(3) 振り返りの工夫 本時の学習内容を再確認し、自分の学習とするために、「学習感想」ではなく、一人一人に「提案書」と称したまとめを書かせ、学習内容の定着に努める。 また、終末時の振り返りとして全国学力・学習状況調査の問題を活用することも有効である。 *課題プリントを用意し、学習内容の定着と家庭での学習習慣の確立に努める。																																

3 児童生徒の学習習慣の形成

■ 平成 28 年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果

「家で、学校の宿題をしていますか」という質問については、小学校では 97.6%の児童が、中学校では 90.2%の生徒が肯定的な回答をしており、昨年度よりも増加している。しかし、「家で、学校の授業の予習（復習）をしていますか」については、小学校で 49.7%（32.0%）の児童が、中学校で 55.2%（36.4%）の生徒が「あまりしていない」「全くしていない」と回答している。昨年度と比較すると、肯定的な回答の割合は減少しており、どの児童生徒も家庭学習の習慣化が図られるように、家庭学習に取り組めないでいる要因を把握し、学校と家庭が協力して取り組む必要がある。また、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問について、小学校で 67.3%の児童が、中学校で 52.2%の生徒が肯定的な回答をしており、こちらも昨年度より減少している。家庭学習について、自分で計画を立て、主体的に取り組めるような指導を継続していくことが大切である。

上段：宮城県 下段：全国

校 種	小学校				中学校			
	1	2	3	4	1	2	3	4
質問紙項目	回答類型							
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	29.6	37.7	25.2	7.5	17.2	35.0	34.2	13.5
	26.7	35.5	28.8	9.0	16.0	32.4	36.7	14.8
家で、学校の宿題をしていますか	89.3	8.3	1.8	0.6	65.5	24.7	7.5	2.2
	88.0	9.0	2.4	0.6	68.1	22.0	7.4	2.4
家で、学校の授業の予習をしていますか	20.8	29.5	34.6	15.1	16.1	28.6	35.3	19.9
	16.7	26.6	37.6	19.0	11.9	22.3	37.1	28.5
家で、学校の授業の復習をしていますか	33.7	34.3	22.9	9.1	26.6	37.0	25.5	10.9
	23.5	31.7	30.5	14.2	18.5	32.7	31.7	17.1

1 している 2 どちらかといえはしている 3 あまりしていない 4 全くしていない

■ 家庭学習の指導

家庭学習は「学んだことを定着させる」という重要な役割がある。児童生徒が自主的・主体的に家庭学習に取り組む態度は、教師の適切な指導によって育成されるため、以下の点を大切にしたい。

「家庭学習」のあり方について全職員で共通理解を図る。

- (1) 学校としての家庭学習の方針や目的
- (2) 児童生徒の家庭学習の実態と目標
- (3) 課題の内容と量

- 授業と関わる課題で、児童生徒が自分の力で取り組める内容
- 課題が明確で取り組む内容が把握できる（予習、復習、自主課題等）
- 児童生徒が意欲的に取り組める分量
(小学校では担任が把握し、適切な一定量を実施する。中学校では教科担任間の連絡・調整を図る。)

- (4) 家庭学習の意欲の維持のさせ方

- 家庭学習についての適切な評価と指導（やらせっぱなしにしない）
- 努力を認める声掛けや励まし
- よい取組の他の児童生徒への紹介

- (5) 児童生徒への家庭学習の指導

家庭へ協力を依頼する。

- (1) 家庭学習の具体的内容、方法について「家庭学習の手引き」等で具体的に示す。
- (2) 学校が家庭学習について説明したり、保護者から家庭学習に関する相談を受けたりする場を設定する。
- (3) 発達の段階に応じて、「家庭学習カード」等で保護者にも家庭学習の点検と励ましをお願いする。

4 教育環境基盤の充実

◎指導体制の工夫

■ 小学校における教科担任制

平成28年度学校教育の方針と重点（宮城県教育委員会）の中で、「教員の得意分野や教科の特性を生かした小学校における教科担任制の実施」について明記されている。平成28年度全国学力・学習状況調査によると、本県小学校では、算数の授業で前年度までに教科担任制を実施していた割合は、一昨年度（7.6%）、昨年度（9.2%）と少しずつ増加し、今年度は1割を超える状況がみられた。今後とも、各学校において、目的や効果を考えて吟味・検討を継続していくことが必要である。

上段：宮城県 下段：全国

校 種		小学校		
質問紙項目	回答類型	1	2	その他・無回答
調査対象学年の児童に対する算数の授業では、前年度までに、教科担任制を実施していましたか		11.2	88.8	0.0
		8.9	90.9	0.2

1 実施していた 2 実施していなかった

■ 少人数指導

「少人数指導」「ティーム・ティーチング」「小学校における教科担任制」など指導体制を工夫し、個に応じた指導の充実を図ることが求められている。本県においては、平成13年度から少人数指導加配を行っているが「少人数指導を行えば必ず学力向上に結び付く」ということではない。少人数で編制した全ての学習集団が教科の目標を達成できるように指導を工夫・改善しなければならない。少人数指導に当たっては、以下の点に留意したい。

指導体制

- (1) 少人数指導の目的についての共通理解を図り、全教職員で取り組む。
- (2) 担当教員間の情報交換等を大切にして取り組む。特に、評価規準について共通理解を図る。
- (3) 互いに尊重し合う雰囲気にあふれる学年・学級経営を大切にして取り組む。
- (4) 教育機器や学習教材等の確保を図るなど、少人数指導に使う教室の環境を整備する。

指導方法と指導形態

- (1) 少人数指導のよさと課題を把握し、よさを生かした指導を行う。第一のよさは児童生徒の実態や学習状況に応じたきめ細かな指導ができることである。児童生徒の反応やつまづきなどを予測し、それに応じた指導・助言や手立てを準備しておく。
- (2) 児童生徒や学校の実態、学習指導のねらい、教科の特性等に応じて、指導形態と指導方法を検討する。

- 学習集団の質の検討 <等質分割にするか、習熟度別の分割にするか。>
- 分割する母集団と集団の数の検討
<一つの学級を分割するか、複数学級を分割するか、いくつの集団に分割するか。>
- 少人数指導を取り入れる場合の検討
<年間を通して取り入れるか、単元全体の中の一部の時間に取り入れるか、単位時の一部の時間（前半部や後半部）に取り入れるか。>
- 組合せの検討<上記の内容をどのように組み合わせで行うのが有効か。>

第2章

全国学力・学習状況調査結果



1	全国学力・学習状況調査結果の概要	P38
1.	調査の目的	
2.	調査実施日	
3.	調査対象等	
4.	調査結果の概況	
5.	今後の対応	
2	各教科の調査の結果	P43
1.	小学校（国語） 主として「知識」に関するA問題	
2.	小学校（国語） 主として「活用」に関するB問題	
3.	小学校（算数） 主として「知識」に関するA問題	
4.	小学校（算数） 主として「活用」に関するB問題	
5.	中学校（国語） 主として「知識」に関するA問題	
6.	中学校（国語） 主として「活用」に関するB問題	
7.	中学校（数学） 主として「知識」に関するA問題	
8.	中学校（数学） 主として「活用」に関するB問題	
3	類似問題の経年比較	P59
4	過去の調査との同一問題の正答率の比較	P64
5	児童生徒質問紙調査結果	P65
6	学校質問紙調査結果	P67
7	平均正答率の高い県との比較	P69
8	質問紙調査と学力のクロス分析	P73
1.	「学力向上に向けた5つの提言」について	
2.	志教育	
3.	学校生活	
4.	学習習慣	
5.	各教科の学習状況	
6.	主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善の取組状況	

1 全国学力・学習状況調査結果の概要

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査実施日

平成28年4月19日（火）

3. 調査対象等

対象※	調査事項		参加状況	
	教科に関する調査	質問紙調査	公立実施校	参加児童生徒数
小学校6年生	国語，算数	学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等	383校	18,934名
中学校3年生	国語，数学		206校	19,593名
学 校		指導方法，教育条件の整備状況等	上記の全ての学校	

※対象となる児童生徒が在籍する特別支援学校を含む。

4. 調査結果の概況

(1) 平成25年度から平成28年度までの教科に関する調査結果一覧（公立）

			「知識」に関するA問題				「活用」に関するB問題			
			問題数	宮城県 平均正答率	全国 平均正答率	全国平均 との比較	問題数	宮城県 平均正答率	全国 平均正答率	全国平均 との比較
小 学 校	国 語	H28	15	72	73	-1	10	56	58	-2
		H27	14	70	70	0	9	64	65	-1
		H26	15	74	73	+1	10	54	56	-2
		H25	18	61	63	-2	10	48	49	-1
	算 数	H28	16	77	78	-1	13	46	47	-1
		H27	16	74	75	-1	13	43	45	-2
		H26	17	77	78	-1	13	57	58	-1
		H25	19	76	77	-1	13	57	58	-1
中 学 校	国 語	H28	33	77	76	+1	9	68	67	+1
		H27	33	76	76	0	9	66	66	0
		H26	32	80	79	+1	9	52	51	+1
		H25	32	78	76	+2	9	69	67	+2
	数 学	H28	36	60	62	-2	15	44	44	0
		H27	36	63	64	-1	15	41	42	-1
		H26	36	66	67	-1	15	59	60	-1
		H25	36	62	64	-2	16	40	42	-2

※ 平均正答率については、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

【結果の分析・公表について】

文部科学省からの次の配慮依頼を受け、平均正答率は整数値とする。

「平均正答率について、小数点以下第1位の数値を公表することが、数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する一つの要因として考えられる。細かい桁における微小な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないと考えられることから平均正答率は整数値で公表とする。」

（２）教科に関する調査の結果

- 国語については、小学校では全国平均正答率を下回っているものの、中学校については全国平均正答率を上回った。
- 算数・数学については、小学校算数では全国平均正答率を下回っているものの、中学校数学のＢ問題では全国平均正答率と同じとなっている。

＜平成 25 年度の小学 6 年生に関する 3 年後の結果＞

		「知識」に関する A 問題				「活用」に関する B 問題			
		問題数	宮城県 平均正答率	全 国 平均正答率	全国平均 との比較	問題数	宮城県 平均正答率	全 国 平均正答率	全国平均 との比較
国語	H25 小 6	18	61	63	-2	10	48	49	-1
	H28 中 3	33	77	76	+1	9	68	67	+1
算数 数学	H25 小 6	19	76	77	-1	13	57	58	-1
	H28 中 3	36	60	62	-2	15	44	44	0

- 平成 25 年度に小学 6 年生であった児童が、今年度は中学 3 年生になっており、その結果を見ると、国語の A 問題と B 問題、さらに数学の B 問題について伸びが見られ、この 3 年間で力を付けてきていることがうかがえる。

（３）質問紙調査の結果

＜児童生徒質問紙調査＞

- 小・中学生ともに、朝食を毎日食することなど、基本的な生活習慣に関する質問については、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
- 長時間（3 時間以上）携帯電話やスマートフォンを使用している割合は、小・中学生ともに全国値を下回っている。
- 家庭で授業の予習、復習をしている割合は、小・中学生ともに全国値を上回っている。なお、これらの項目について肯定的な回答をしている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。
- 学校の授業以外で平日に小学生が 1 時間以上、中学生が 2 時間以上学習する割合は、小学生が全国値を上回っているものの、中学生は下回っている。なお、これらの項目について、肯定的な回答をしている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。

＜学校質問紙調査＞

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導に取り組んでいる学校の割合は、小学校では全国値を上回っており、中学校では同程度である。
- 全国調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善

や指導計画等への反映を行うことについては、小・中学校ともに全国値を上回っている。

- 「主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善」に関する質問では、全国値を下回る項目が多い。なお、これらの項目について、肯定的な回答をしている児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。
- 教員研修について、校外において研修に参加できるようにしている割合が小・中学校ともに全国値を上回っているものの、「主体的・対話的で深い学び」に関する研修を実施している割合は全国値を下回っている。
- 教育課程表の作成や地域の外部の資源の活用など、カリキュラム・マネジメントに関する項目については、小・中学校ともに肯定的な回答の割合が全国値を上回っている。
- 近隣の小・中学校で教育目標や課題の共有を行うなどの連携については、小・中学校とも全国値を下回っている。
- 学習評価に関する項目では、多面的な評価や児童生徒自身が資質・能力の伸びを把握できるような形成的評価などについて、中学校は全国値を上回っている。

5. 今後の対応

- 今後、分析結果を基に、宮城県検証改善委員会において報告書として具体的な対応策を取りまとめ、各学校の授業改善が図られるよう発信するとともに、指導主事学校訪問や学力向上サポートプログラム事業の訪問等で支援していく。
- 「よいところを認めてくれる」と回答している児童生徒の方が教科の平均正答率が高い傾向が見られる一方、授業の中で目標を明示し、授業の最後に振り返る活動を行うことと同様、児童生徒と教師の意識の間に隔たりが見られることから、学力向上に向けての基盤となる「5つの提言」について、今後も全ての学校でさらに徹底するよう働き掛けていく。
- 課題である算数・数学の学力向上については、「解いてみたい」「いろいろな方法を考える」「授業の内容がよく分かる」と回答している児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られることから、これまで示している学力向上対策を各学校において確実に実施するよう研修会等で促していく。
- 近隣の小・中学校で課題を共有することなどの連携について課題が見られることから、学力向上と生徒指導の両面から9年間を見通した小中連携が促進されるよう、市町村教育委員会と連携しながら働き掛けていく。

児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査結果のポイント

〈児童生徒質問紙調査の結果〉

1 基本的な生活習慣について

○基本的な生活習慣関連項目（7項目）について

質 問 事 項	小学校	中学校
肯定的な回答が全国値を上回る項目数	5項目	6項目
肯定的な回答が全国値と等しい項目数	0項目	0項目
肯定的な回答が全国値を下回る項目数	2項目	1項目

※各項目の下段は、全国との比較を表す。

質 問 事 項	小学校 (%)									中学校 (%)								
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 朝食を毎日食べていますか	96.3 +0.8	96.3 +0.7	96.8 +0.8	96.7 +0.4	96.6 +0.5	97.4 +1.0	96.6 +0.6	96.3 +0.9	96.2 +1.0	94.5 +1.2	94.6 +1.1	94.6 +1.1	94.7 +0.9	94.4 +0.8	94.5 +1.2	94.0 +1.6	93.6 +1.7	93.3 +1.7
2 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	83.0 +2.9	82.7 +3.2	81.7 +2.5	80.6 +1.7	79.0 +1.6	77.4 +1.9	75.4 +0.3	73.2 +0.5	73.5 +1.6	79.3 +4.1	79.3 +4.1	77.5 +3.4	78.0 +3.7	76.2 +2.2	74.8 +3.8	72.5 +3.1	71.5 +3.3	70.1 +3.2
3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.7 +0.9	91.3 +0.3	90.9 0	90.4 -0.5	90.0 -0.6	90.1 -0.2	89.3 -0.9	88.2 -0.8	88.7 +0.2	92.8 +0.5	92.7 +0.6	92.9 +0.8	92.6 +0.3	92.4 +0.5	92.5 +1.3	91.8 +0.9	91.3 +0.9	89.9 +1.0
4 普段（月～金曜日）、何時頃に寝ますか（H26とH27は設問なし）（小：10時前、中：11時前）※	55.2 +5.6			53.1 +6.0	53.5 +7.5	49.6 +5.8	51.1 +7.8	48.4 +7.0	49.4 +7.3	39.4 +2.5			37.4 +3.5	37.3 +3.4	35.5 +3.1	34.3 +2.5	32.4 +3.0	33.8 +4.0
5 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビ等を見たり、聞いたりしますか（3時間以上）※	34.3 +1.5	35.6 -0.5	39.6 +1.6	41.9 +3.3	47.8 +5.1	47.2 +3.9	51.1 +5.4	51.7 +5.6	38.0 +3.7	23.2 -0.9	27.0 -3.5	30.3 -1.2	29.7 0	33.3 +0.8	38.1 +1.6	40.4 +2.4	43.0 +3.4	35.9 +2.8
6 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか（2時間以上）※	15.1 -0.9	15.9 -1.1	17.4 +0.4	16.1 +1.2	13.7 +1.1	12.6 +1.3	13.0 +1.4	14.0 +2.1	9.8 +0.9	17.2 -1.7	18.6 -1.9	19.8 -0.5	14.3 0	10.5 -0.9	10.2 -0.6	10.5 0.1	10.4 -0.1	10.5 -0.2
7 普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（3時間以上）※	5.0 -0.8	4.6 -1.1	4.8 -0.2							14.1 -2.5	15.5 -2.7	18.8 -1.0						

※4～7については、数値が高いほど、また、全国との比較の値が大きいかほど改善の必要性が高い。

2 家庭での学習習慣や生活について

質 問 事 項	小学校 (%)									中学校 (%)								
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
8 家で、自分で計画を立てて勉強していますか	67.3 +5.1	68.1 +5.3	65.7 +4.7	61.3 +2.4	61.1 +3.1	64.7 +6.4	55.5 +0.8	51.5 -0.5		52.2 +3.8	53.7 +4.9	50.4 +3.8	48.5 +4.0	45.6 +2.7	44.3 +2.5	40.1 +2.2	35.8 +1.6	
9 家で、学校の授業の予習をしていますか	50.3 +7.0	50.5 +7.1	50.2 +7.0	47.6 +6.3	45.6 +5.1	48.6 +8.2	42.6 +5.1	39.1 +3.7	36.6 +3.7	44.7 +10.5	50.0 +14.7	46.7 +12.5	48.3 +14.8	39.3 +10.0	43.9 +13.0	42.1 +12.6	41.0 +12.6	39.3 +9.8
10 家で、学校の授業の復習をしていますか	68.0 +12.8	67.0 +12.5	66.1 +12.1	61.9 +10.5	59.9 +9.7	61.2 +11.6	54.9 +8.9	50.8 +7.4	45.8 +5.7	63.4 +12.4	65.4 +13.4	63.0 +12.6	60.8 +12.2	56.8 +11.3	54.4 +10.9	49.7 +9.2	48.4 +8.8	45.8 +6.6
11 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：1時間以上、中学校：2時間以上）	64.4 +1.9	64.8 +2.1	64.1 +2.1	64.8 +1.6	61.2 +1.7	61.5 +3.3	56.9 -0.3	52.9 -3.2	53.8 -4.0	28.9 -5.3	29.7 -6.0	29.6 -5.5	30.7 -5.8	30.0 -5.3	28.5 -7.2	29.1 -6.6	29.8 -5.9	27.4 -8.0
12 学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾や家庭教師含む、小学校：2時間以上、中学校：3時間以上）	21.1 -3.1	21.2 -3.3	22.0 -2.0	20.9 -4.3	19.5 -4.3	20.5 -3.0	17.9 -4.9	16.3 -6.4	15.4 -7.6	15.4 -1.2	16.6 -1.1	15.6 -1.3	15.5 -1.7	15.0 -1.2	12.9 -2.9	13.5 -1.9	13.6 -1.5	11.8 -3.1
13 家で、予習や復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	75.7 +11.1									76.3 +8.1								
14 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（30分以上）	37.2 +0.7	37.6 -0.1	38.2 0	37.1 +0.5	35.7 +0.9	37.0 +1.1	36.2 +1.0	36.6 -0.2	26.8 -1.1	30.2 +2.0	32.5 +1.9	35.7 +4.3	33.2 +3.7	31.3 +3.2	31.2 +3.9	31.0 +4.4	31.7 +3.8	32.1 +2.4
15 家の人と学校での出来事について話をしますか	80.5 +1.3	80.0 +0.5	81.5 +1.1	77.8 +1.3	77.6 +1.7	77.0 +2.8	71.0 +0.1	70.9 +1.7	70.0 +1.6	75.9 +1.8	76.3 +2.6	74.2 +1.6	67.6 +1.0	66.7 +1.0	65.1 +1.4	61.1 +1.3	60.0 +2.1	60.0 +2.2
16 家の手伝いをしていますか（H26とH27は設問なし）	86.4 +3.6			80.3 -0.2	84.0 +3.3	83.8 +3.6	82.0 +3.5	81.0 +3.5	81.1 +2.7	71.5 +4.3			69.3 +4.8	71.1 +5.1	69.7 +4.9	68.3 +5.3	65.9 +5.3	67.9 +4.6

3 学習に関する関心・意欲・態度

質 問 事 項	小学校 (%)									中学校 (%)								
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
17 授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか	87.2 -0.4	84.1 -2.2	77.5 -4.5	78.1 -4.4						84.9 0	78.3 -1.4	67.7 -3.8	65.0 -3.1					
18 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	74.5 -1.5	73.6 -1.7	68.0 -3.9	73.3 -3.4						63.8 +0.7	60.2 +0.9	53.0 -0.3	52.9 +1.6					
19 国語の授業の内容はよく分かりますか	80.3 -0.4	80.9 -1.1	78.8 -1.3	78.4 -1.5	83.7 +0.6	82.3 0	80.1 +0.1	77.6 -0.4	78.7 +0.7	75.4 +1.3	75.8 +1.5	74.5 +2.5	74.3 +2.4	74.7 +3.5	71.5 +1.6	70.1 +1.3	69.6 +2.8	67.5 +2.1
20 解答を文章で書く問題に、最後まで解答を書こうと努力しましたか（国語）	74.0 -1.1	76.8 -0.9	74.2 -1.9	67.9 -1.9	72.4 -1.9	71.7 -0.9	65.5 +2.1	66.0 -1.5		73.7 +2.0	77.0 +0.6	71.1 +0.9	73.7 +0.7	71.8 +1.2	66.4 +1.2	70.1 +0.7	64.6 +1.3	
21 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	79.6 -0.6	80.9 -0.1	78.2 -1.4	78.6 -1.6	79.5 +0.4	78.0 +0.8	80.2 +1.0	79.2 +0.8	77.9 +0.8	67.7 -1.7	71.2 -0.4	71.4 -0.1	70.5 0	64.1 -0.8	64.8 -0.9	62.4 -2.5	64.5 -1.0	61.5 -2.1
22 解答を言葉や数、式を使って説明する問題に、最後まで解答を書こうと努力しましたか（算数・数学）	70.7 -1.3	72.7 -0.6	77.7 -2.0	72.9 -1.5	70.8 -1.6	60.5 -1.5	66.4 -1.6	65.9 -1.1		48.0 -2.0	50.0 -1.3	56.7 +0.6	42.9 -2.0	45.8 -0.1	45.6 +0.1	48.4 +0.4	42.2 -0.5	

〈学校質問紙調査の結果〉

質問事項	小学校 (%)										中学校 (%)									
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19		
1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか	86.2 +11.6	84.0 +11.6	86.6 +14.6	78.6 +7.1	77.6 +6.3	72.3 +1.7	68.1 -1.4	62.1 -4.1		97.1 0	96.6 +0.2	96.0 +1.8	99.0 +4.5	97.3 +2.0	94.1 -2.1	96.8 +0.9	95.9 0			
2 授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れたか	98.7 -0.1	98.7 +0.6	95.2 -1.7	96.1 -0.4						98.6 +0.8	97.5 +1.8	94.1 +0.1	95.4 +2.8							
3 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたか	94.0 -0.9	91.8 -2.1	91.6 0	91.4 -0.6						92.7 -0.3	91.2 +0.3	91.6 +2.4	90.9 +2.8							
4 全国調査の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有したか	99.7 +1.0	99.0 +0.9	97.5 +0.4							99.0 +1.6	98.0 +1.1	97.1 +1.8								
5 全国調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な指導の改善や指導計画等への反映を行っているか	95.5 +2.3	95.9 +4.0	81.2 -7.7							94.1 +4.1	94.1 +6.2	80.2 -4.3								
6 教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成しているか	90.3 +4.7									80.6 +2.8										
7 教育課程表について、指導事項の系統性が分かるように作成しているか	88.0 +3.4									91.3 +6.0										
8 指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか	93.7 +2.3									71.3 0										
9 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど積極的に評価したか	98.7 +0.3	97.2 +0.5	96.2 -0.7							97.5 +0.3	94.6 -1.2	97.5 +1.0								
10 国語や算数・数学において、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等の多様な活動に取り組ませることにより、ペーパーテストの結果に留まらない、多面的な評価を行ったか	91.1 -0.3									91.3 +4.4										
11 国語や算数・数学において、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、児童生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、児童生徒自身が把握できるような評価を行ったか	74.4 -1.7									79.1 +5.7										
12 近隣等の小・中学校と、教育目標を共有する取組を行ったか	38.4 -16.1									41.3 -20.2										
13 近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行ったか	45.1 -17.4									55.8 -16.7										
14 近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行ったか	28.5 -18.6									36.4 -18.5										
15 平成27年度の全国調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有したか	37.6 -11.9									48.1 -5.8										
16 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っているか	79.4 -13.6	78.4 -14.9	77.5 -15.0	77.6 -15.1	78.1 -13.9	78.4 -13.8	73.7 -18.2	75.0 -17.1	70.1 -10.1	67.0 -19.0	65.2 -20.6	71.8 -13.0	65.2 -19.2	66.6 -17.3	71.1 -11.3	66.4 -16.2	59.0 -23.9	63.6 -16.5		
17 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしているか	98.7 +2.5	99.2 +2.1	97.7 +1.5	97.8 +1.4	98.5 +1.7	99.3 +2.8	98.4 +2.2	99.1 +3.0	98.5 +2.2	95.7 +2.8	97.6 +4.3	94.0 +1.3	95.5 +3.3	96.5 +4.9	94.0 +3.3	93.6 +2.6	93.6 +2.7	94.7 +4.4		
18 児童生徒自らが課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか	63.2 -9.7									63.2 -0.4										
19 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか	97.6 +1.7	97.0 +1.2	95.2 -0.3	93.6 -1.2	92.4 -2.0	95.8 +2.1	95.7 +1.6	96.9 +3.0		94.7 +2.8	94.1 +1.8	93.1 +2.3	88.9 -0.5	93.1 +3.2	88.9 +2.8	90.0 +3.2	89.5 +2.9			
20 児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思うか	89.6 -1.3									87.9 +0.7										
21 児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか	57.2 -4.0									52.4 -7.3										
22 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか	76.5 -3.6	73.8 +0.8								71.9 -0.7	66.1 +2.8									

※示している数値は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合計した割合

2 各教科の調査の結果

1. 小学校国語A問題

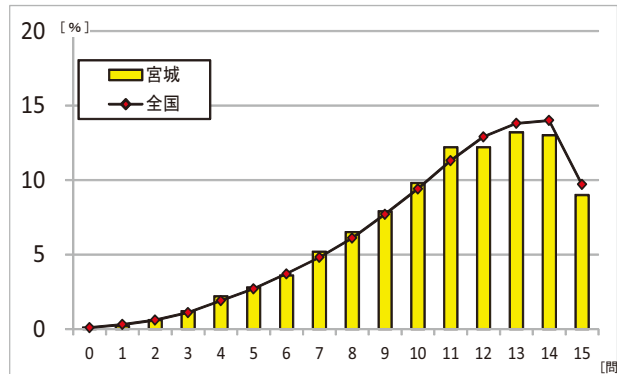
(1) 結果の概要

- 平均正答率は72%で、全国平均正答率を下回っている。

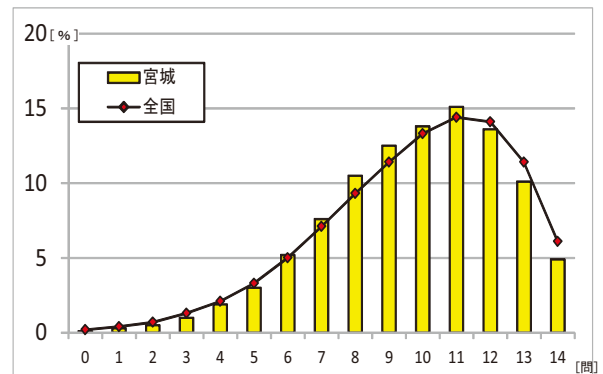
(2) 正答数分布状況

- 全国と比較して、12問（80%程度）以上正答している児童の割合が全国と比べて低く、正答数が7～11問（50～75%程度）の児童の割合が全国より高くなっている。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域全てにおいて、全国平均正答率を下回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合 計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)
H28	78.8	79.2	-0.4	71.3	72.8	-1.5	77.5	78.5	-1.0	70.4	71.1	-0.7	72	73	-1
H27	49.2	53.0	-3.8	87.1	86.0	1.1	53.3	55.2	-1.9	77.5	77.2	0.3	70	70	0
H26	69.5	72.4	-2.9	70.2	72.2	-2.0	68.5	68.5	0.0	75.5	73.7	1.8	74	73	+1
H25	45.4	43.3	2.2	50.1	53.0	-2.9	60.7	60.1	0.6	60.8	62.6	-1.8	61	63	-2
H24	79.8	79.4	0.4	55.0	57.5	-2.5	82.5	82.1	0.4	86.8	86.3	0.5	82	82	0
H22	82.7	83.2	-0.5	66.0	67.7	-1.7	73.6	74.1	-0.5	86.0	86.8	-0.8	83	83	0
H21	65.2	68.0	-2.8	84.9	85.4	-0.5	67.2	68.7	-1.5	60.9	64.2	-3.3	67	70	-3
H20	76.4	76.1	0.3	50.7	53.3	-2.6	44.1	44.5	-0.4	64.0	65.2	-1.2	64	65	-1
H19	54.5	56.6	-2.1	83.3	85.3	-2.0	67.0	67.3	-0.3	86.0	86.8	-0.8	81	82	-1

(4) 設問別調査結果

- 全国との差が大きい（±3ポイント以上）設問等
（◇：差がプラス ◆差がマイナス，[]内の記号は設問番号）

【話すこと・聞くこと】

なし

【書くこと】

なし

【読むこと】

なし

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

なし

- 無解答率の高い設問等
 - ・漢字を書く（シタしい友人と出かける）[1 二 2]
 - ・ローマ字を書く（りんご）[8 - 1]
 - ・ローマ字を書く（あさって）[8 - 2]
 - ・ローマ字を読む（hyaku）[8 - 3]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県（公立）	全国（公立）	宮城県（公立）	全国（公立）		
1ー1	漢字を読む （今日は全国的に快晴だ）				5・6 (1) ウ (ア)		○		80.6	79.3	5.0	5.2	1.3	-0.2
1ー2	漢字を読む （お年玉を <u>貯金</u> する）				5・6 (1) ウ (ア)		○		98.9	98.5	0.2	0.3	0.4	-0.1
1ー3	漢字を読む （むだを <u>省</u> くようにする）				5・6 (1) ウ (ア)		○		82.3	81.0	5.3	5.0	1.3	0.3
1ニ1	漢字を書く （アサガオの <u>たね</u> をまく）				5・6 (1) ウ (ア)		○		87.0	87.5	5.1	4.5	-0.5	0.6
1ニ2	漢字を書く （ <u>し</u> たい友人と出かける）				5・6 (1) ウ (ア)		○		71.9	73.8	13.3	10.4	-1.9	2.9
1ニ3	漢字を書く （先生に <u>そう</u> だんする）				5・6 (1) ウ (ア)		○		66.3	64.2	6.3	5.0	2.1	1.3
2	全校集会で歌う歌を決めるために、どのように話し合っているのか、話し合いの説明として適切なものを選択する	5・6 ア				○			78.8	79.2	0.2	0.2	-0.4	0.0
3	ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する		5・6 カ			○			65.0	67.4	0.1	0.2	-2.4	-0.1
4	委員会を紹介するパンフレットを作るため、追加の取材をした理由として適切なものを選択する		5・6 ア			○			77.6	78.2	0.3	0.3	-0.6	0.0
5	公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する			5・6 ウ		○			92.8	93.1	0.1	0.3	-0.3	-0.2
6	『おばあさんの飛行機』を読んで、登場人物の人物像を説明するために、根拠となる表現として適切なものを選択する			3・4 ウ		○			62.3	63.9	1.2	1.4	-1.6	-0.2
7アイ	毛筆で書いた（一）と（二）を書き直した際、注意した点として適切なものを選択する（永久）				5・6 (2) ア	○			79.8	81.2	0.7	0.9	-1.4	-0.2
8ー1	ローマ字を書く （りんご）				3・4 (1) ウ (ア)		○		51.6	53.2	14.8	11.9	-1.6	2.9
8ー2	ローマ字を書く （あさって）				3・4 (1) ウ (ア)		○		39.0	41.8	16.0	13.7	-2.8	2.3
8ー3	ローマ字を読む （h y a k u）				3・4 (1) ウ (ア)		○		46.8	50.7	24.6	20.0	-3.9	4.6

2. 小学校国語B問題

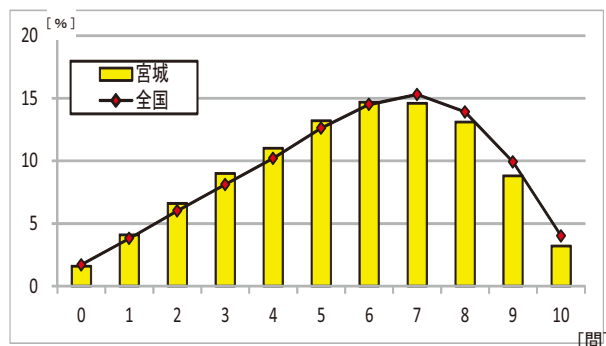
(1) 結果の概要

- 平均正答率は56%で、全国平均正答率を下回っている。

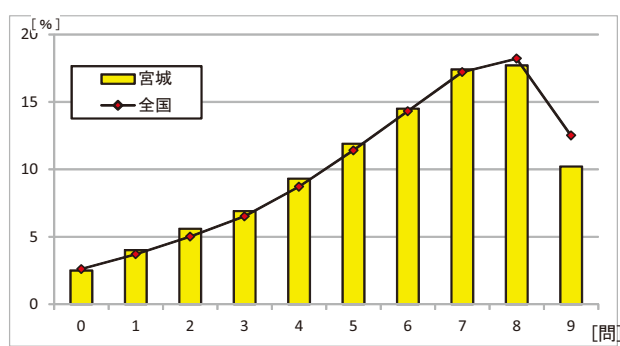
(2) 正答数分布状況

- 全国と比較して、7問(70%程度)以上正答している児童の割合が低い状況が見られる。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域全てにおいて、全国平均正答率を下回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合 計		
	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)
H28	48.8	51.1	-2.3	51.7	53.4	-1.7	67.9	69.3	-1.4				56	58	-2
H27				59.7	61.1	-1.4	66.3	68.1	-1.8				64	65	-1
H26	50.9	51.2	-0.3	32.5	34.4	-1.9	55.7	57.3	-1.6	68.6	69.8	-1.2	54	56	-2
H25	63.1	64.8	-1.7	41.7	43.8	-2.1	46.1	47.9	-1.8	63.7	63.8	-0.1	48	49	-1
H24	62.6	63.0	-0.4	47.0	46.8	0.2	5.6	55.7	-0.1	54.7	55.2	-0.5	56	56	0
H22	75.0	75.4	-0.4	92.2	91.6	0.6	73.1	73.4	-0.3	72.3	73.0	-0.7	78	78	0
H21	61.1	61.3	-0.2	12.7	14.5	-1.8	55.6	56.5	-0.9	58.5	59.7	-1.2	50	51	-1
H20	72.7	73.0	-0.3	48.0	49.1	-1.1	46.6	48.3	-1.7				49	51	-2
H19	67.6	70.9	-3.3	60.5	61.7	-1.2	56.5	57.7	-1.2	79.4	77.0	2.4	61	62	-1

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい（±3ポイント以上）設問等
（◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス，[]内の記号は設問番号）

【話すこと・聞くこと】

なし

【書くこと】

なし

【読むこと】

なし

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

なし

- 無解答率の高い設問等
・「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く [3三]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県（公立）	全国（公立）	宮城県（公立）	全国（公立）		
1ー	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを作成した際の工夫した点として当てはまらないものを選択する	5・6エ				○			49.7	51.8	0.2	0.3	-2.1	-0.1
1二	スーパーマーケットの店長への質問の意図として適切なものを選択する	5・6エ				○			48.8	51.1	0.4	0.5	-2.3	-0.1
1三	スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く	5・6エ	5・6ウ					○	48.0	50.4	9.3	7.8	-2.4	1.5
2ー	「早ね早起き」活動の成果について、〈図1〉の結果を基に書いた内容として適切なものを選択する		5・6エ			○			41.6	43.4	1.0	1.2	-1.8	-0.2
2二（1）	「早ね早起き」活動の課題について、〈図2〉の結果を基に書く		5・6エ					○	50.7	51.4	7.0	6.7	-0.7	0.3
2二（2）	「早ね早起き」活動の課題に対する解決方法について、〈表2〉の結果を基に書く		5・6エ					○	62.5	64.2	8.3	7.7	-1.7	0.6
2三	「早ね早起き」活動の報告文で課題を取り上げた効果として適切なものを選択する		5・6イ			○			56.8	58.3	4.4	4.2	-1.5	0.2
3ー	「パン職人」に関する本を選んだ目的の説明として適切なものを選択する			5・6カ		○			76.5	77.2	2.5	2.9	-0.7	-0.4
3二	「パン職人」に関する複数の資料の内容を関係付けてまとめたものとして適切なものを選択する			5・6イ		○			76.5	77.9	2.9	3.4	-1.4	-0.5
3三	「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く		5・6ウ	5・6ウ				○	50.6	52.9	11.7	11.5	-2.3	0.2

児童質問紙										宮城県	全国	かい離
質 問 事 項												
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した									72.9	75.1	-2.2
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった									23.0	20.5	2.5
	3 書く問題は全く解答しなかった									2.8	2.4	0.4
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	1 時間が余った									47.6	52.6	-5.0
	2 ちょうどよかった									36.1	32.6	3.5
	3 やや足りなかった									14.1	12.2	1.9
	4 全く足りなかった									2.1	2.1	0.0
調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	1 時間が余った									30.6	36.2	-5.6
	2 ちょうどよかった									38.1	35.4	2.7
	3 やや足りなかった									25.2	22.5	2.7
	4 全く足りなかった									6.0	5.5	0.5

3. 小学校算数A問題

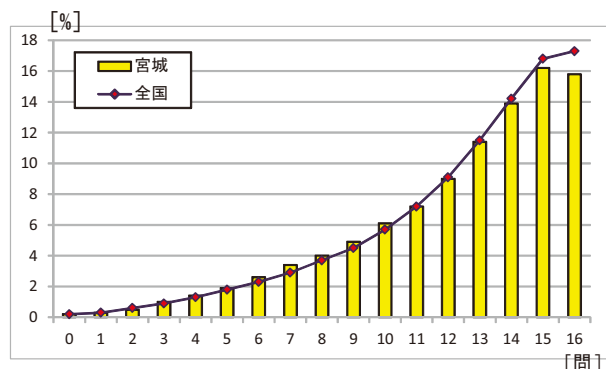
(1) 結果の概要

- 平均正答率は77%で、全国平均正答率を下回っている。

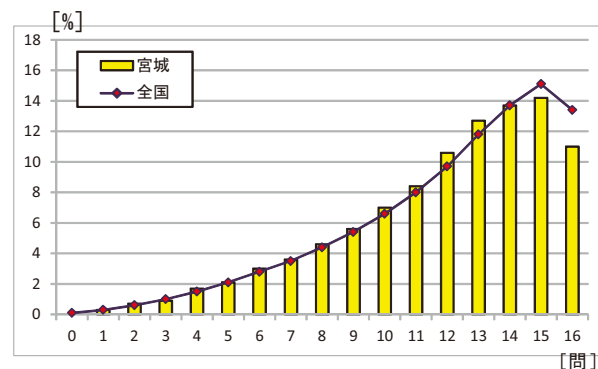
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られるが、全問正答の割合が全国と比べやや低くなっている。
- 全国と比較して、15問（90%程度）以上正答している児童の割合が低い。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「量と測定」の領域において全国平均正答率を上回り、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域において下回っている。

年度	数と計算			量と測定			図 形			数量関係			合 計		
	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)
H28	78.8	80.5	-1.7	78.7	77.0	1.7	76.9	78.8	-1.9	67.1	68.5	-1.4	77	78	-1
H27	79.6	80.1	-0.5	70.4	71.3	-0.9	62.4	64.5	-2.1	84.1	84.9	-0.8	74	75	-1
H26	81.7	81.8	-0.1	74.7	74.8	-0.1	69.5	71.8	-2.3	79.6	81.3	-1.7	77	78	-1
H25	80.0	80.2	-0.2	66.7	68.3	-1.6	70.9	72.5	-1.6	82.7	83.4	-0.7	76	77	-1
H24	74.6	75.0	-0.4	71.0	71.7	-0.7	73.0	72.6	0.4	71.9	74.4	-2.5	73	73	0
H22	75.0	74.1	0.9	72.0	74.1	-2.1	83.7	83.1	0.6	63.4	65.7	-2.3	74	74	0
H21	81.2	82.8	-1.6	77.4	78.5	-1.1	81.1	81.3	-0.2	63.0	64.2	-1.2	78	79	-1
H20	76.2	76.8	-0.6	56.1	56.2	-0.1	71.6	72.7	-1.1	69.8	72.4	-2.6	71	72	-1
H19	79.6	81.5	-1.9	85.1	86.1	-1.0	86.3	86.1	0.2	74.0	75.4	-1.4	81	82	-1

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい（±3ポイント以上）設問等
 (◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス、[]内の記号は設問番号)

【数と計算】

- ◆ 2.1÷0.7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く [1 (2)]
- ◆ 18÷0.9を計算する [2 (3)]
- ◆ 前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く [9 (1)]

【量と測定】

なし

【図形】

なし

【数量関係】

なし

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1 (1)	$\square \div 0$ 、8の商の大きさについて、正しいものを選ぶ	5A (3)アイ				○			62.6	64.8	1.1	1.3	-2.2	-0.2
1 (2)	2、 $1 \div 0$ 、7を、除数が整数になるように工夫して計算するとき、ふさわしい数値の組み合わせを書く	4A (3)エ 5A (3)イウ					○		63.7	68.5	0.3	0.4	-4.8	-0.1
1 (3)	小数の除法の結果を、乗法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	3A (4)イ 4A (3)エ 5A(3) イウ					○		87.5	87.9	1.1	1.1	-0.4	0.0
2 (1)	$905-8$ を計算する	3A (2)ア					○		90.4	90.9	0.4	0.4	-0.5	0.0
2 (2)	$4.65+0.3$ を計算する	4A (5)イ					○		77.5	77.1	0.5	0.5	0.4	0.0
2 (3)	$18 \div 0.9$ を計算する	5A (3)イ					○		73.0	77.7	1.2	1.1	-4.7	0.1
2 (4)	$(2 \div 9) \times 3$ を計算する	5A (4)ウカ					○		84.8	87.0	2.5	1.9	-2.2	0.6
3 (1)	二つの数の大小関係を表す不等号を書く	2A (1)イ 3A (1)					○		96.5	96.7	0.6	0.6	-0.2	0.0
3 (2)	7、1、7、7、01の中で一番小さい数と、一番大きい数を書く	4A (5)ア					○		74.9	74.1	0.4	0.4	0.8	0.0
4	8m ² に14人座っているシートについて、1m ² 当たりの人数を求める式を書く		5B (4)ア				○		72.9	72.0	4.5	4.3	0.9	0.2
5	三角形の底辺に対応する高さを選ぶ		5B (1)ア			○			84.6	82.0	1.0	1.1	2.6	-0.1
6	4枚の三角定規でつくることができる形を選ぶ			1C(1) 2C(1)イ 3C(1) アイ 4C(1)イ		○			78.6	79.6	0.9	1.0	-1.0	-0.1
7	直方体において、示された面に垂直な面を選ぶ			4C (2)アイ		○			75.2	78.0	2.5	2.5	-2.8	0.0
8	テープ全体の長さを基にしたときの赤い部分の長さの割合が、一番大きいものを選ぶ				5D (3)	○			73.9	74.4	1.9	2.1	-0.5	-0.2
9 (1)	前に10人、後ろに19人並んでいることを基に、列に並んでいる全体の人数を求める式と答えを書く	1A (1)イ 1A (2)ア			1D (1)		○		76.9	80.2	4.4	4.2	-3.3	0.2
9 (2)	定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表すとき、当てはまる数値の組み合わせを書く				5D (3)		○		50.5	50.9	5.5	5.7	-0.4	-0.2

4. 小学校算数B問題

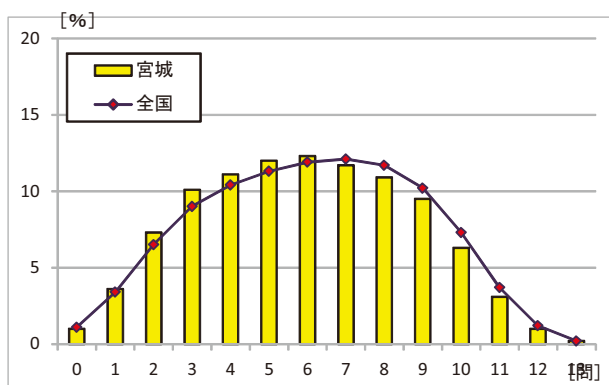
(1) 結果の概要

- 平均正答率は46%で、全国平均正答率を下回っている。

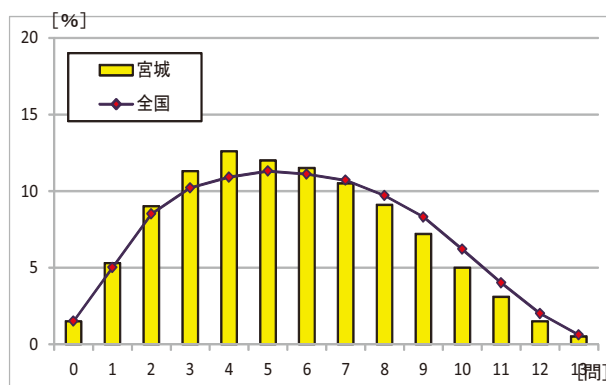
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は、全国の分布と同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、正答数が3～6問（20%～45%程度）の児童が多く、8問（60%程度）以上正答している児童が少ない。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域全てにおいて、全国平均正答率を下回っている。

年度	数と計算			量と測定			図形			数量関係			合計		
	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	全国との比較 (%)
H28	42.1	44.4	-2.3	43.4	43.7	-0.3	36.1	36.3	-0.2	41.0	42.9	-1.9	46	47	-1
H27	39.4	42.4	-3.0	40.2	41.7	-1.5	43.8	45.6	-1.8	39.9	43.0	-3.1	43	45	-2
H26	59.7	61.3	-1.6	55.5	56.5	-1.0	65.8	65.7	0.1	54.4	56.2	-1.8	57	58	-1
H25	46.7	48.3	-1.6	54.0	56.0	-2.0	78.2	79.3	-1.1	52.9	54.9	-2.0	57	58	-1
H24	52.5	54.0	-1.5	60.2	60.8	-0.6	63.2	63.3	-0.1	48.1	49.5	-1.4	58	59	-1
H22	54.8	55.8	-1.0	30.6	33.3	-2.7	40.3	42.0	-1.7	52.8	54.3	-1.5	48	49	-1
H21	55.0	55.8	-0.8	58.7	59.9	-1.2	54.6	56.4	-1.8	57.1	56.8	0.3	54	55	-1
H20	64.3	65.2	-0.9	51.9	53.3	-1.4	59.9	61.2	-1.3	43.8	44.9	-1.1	50	52	-2
H19	55.0	58.9	-3.9	55.7	58.0	-2.3	71.0	72.5	-1.5	63.9	65.5	-1.9	61	64	-3

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい（±3ポイント以上）設問等
 （◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス、[]内の記号は設問番号）

【数と計算・数量関係】

- ◆ 40mハードル走の目標タイムを求める式に8.1と4をあてはめて、まなみさんの目標タイムを求める式と答えを書く[2 (2)]

【量と測定】

なし

【図形】

なし

【数量関係】

- ◆ ハードルとハードルの間が5mのコースの、スタート地点から4台目のハードルを、巻き尺の何mのところに置けばよいか書く[2 (1)]

- 無回答率の高い設問等

- ・ 目標タイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く [2 (3)]
- ・ 縦39cm、横54cmの長方形の厚紙から、1辺9cmの正方形を24個切り取ることができるわけを書く [3 (2)]
- ・ A小学校とB小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く [4 (3)]
- ・ 示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く [5 (1)]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1 (1)	1 辺が 9 cm の正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く	3A (3) アイ	4B (1) イ				○		92.0	92.6	0.5	0.4	-0.6	0.1
1 (2)	正方形の縦の長さを 2 cm 短くし、横の長さを 2 cm 長くすると面積が 4 cm ² 小さくなることの説明を書く		4B (1) アイ					○	42.6	45.2	4.9	4.0	-2.6	0.9
2 (1)	ハードルとハードルの間が 5 m のコースの、スタート地点から 4 台目のハードルを、巻き尺の何 m のところに置けばよいを書く				3D (2)ア 4D (2)ア		○		52.1	56.2	3.6	3.1	-4.1	0.5
2 (2)	40 m ハードル走の目標のタイムを求める式に 8、1 と 4 を当てはめて、まなみさんの目標のタイムを求める式と答えを書く	3A (5)イ 5A (3)ア			4D (2)ア		○		45.6	50.5	5.0	4.2	-4.9	0.8
2 (3)	目標のタイムを求める式の中の 0、4 や 0、3 が表す意味を書く	3A (5)イ 5A (3)ア						○	13.5	15.6	22.8	18.6	-2.1	4.2
3 (1)	三つの式について、それぞれの式が何を計算しているかの説明文を選ぶ	2A (3)ア 3A (4)ア 4A (5)ウ				○			60.0	62.6	1.0	1.0	-2.6	0.0
3 (2)	縦 39 cm、横 54 cm の長方形の厚紙から、1 辺 9 cm の正方形を 24 個切り取ることができるわけを書く	2A (3)ア 3A (4)ア					○		36.0	38.4	20.3	17.4	-2.4	2.9
3 (3)	1 辺が 9 cm の正方形に内接する円をかくために、コンパスの鉛筆の先を合わせる位置を選ぶ			3C (1)ウ 5C (1)ア		○			76.2	76.5	1.5	1.9	-0.3	-0.4
4 (1)	学校ごとの 1 人当たりの本の貸出冊数を求めるために、学校ごとの貸出冊数の合計のほかに調べる必要のある事柄を選ぶ		5B (4)ア		3D (3)	○			50.1	48.3	1.6	1.9	1.8	-0.3
4 (2)	示された二つの表だけでは判断できないものを選ぶ				3D (3)	○			68.2	70.7	2.2	2.5	-2.5	-0.3
4 (3)	A 小学校と B 小学校の図書委員が表したグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について、正しくないわけを書く				4D (4)イ		○		24.1	24.9	14.3	13.2	-0.8	1.1
5 (1)	示された形をつくることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く	3A (4)ア	4B (2) アイ	3C (1)ア 5C (1) アウ	3D (1)		○		5.8	6.9	20.4	18.7	-1.1	1.7
5 (2)	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ		4B (2) アイ	3C (1)イ 5C (1) アウ		○			26.4	25.4	8.0	8.9	1.0	-0.9

児童質問紙

質	問 事 項	宮城県	全国	かい離
今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたか、どのように解答しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	70.7	72.0	-1.3
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあった	26.2	24.6	1.6
	3 書く問題は全く解答しなかった	2.2	2.2	0.0
調査問題の解答時間は十分でしたか (算数 A)	1 時間が余った	52.3	53.9	-1.6
	2 ちょうどよかった	33.9	32.4	1.5
	3 やや足りなかった	11.1	10.6	0.5
	4 全く足りなかった	2.5	2.6	-0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか (算数 B)	1 時間が余った	27.3	29.2	-1.9
	2 ちょうどよかった	28.7	28.1	0.6
	3 やや足りなかった	33.7	31.7	2.0
	4 全く足りなかった	10.1	10.5	-0.4

5. 中学校国語A問題

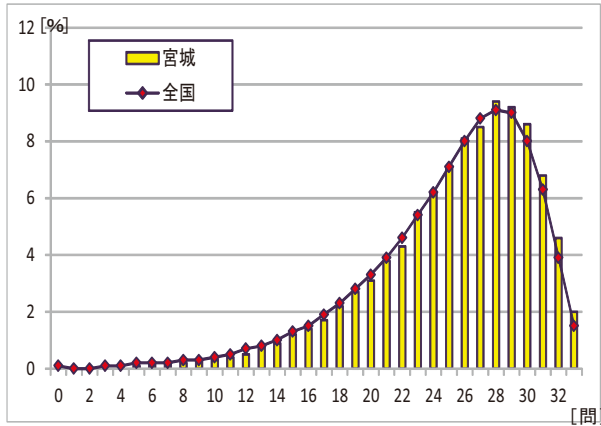
(1) 結果の概要

- 平均正答率は77%であり、全国平均正答率を上回っている。

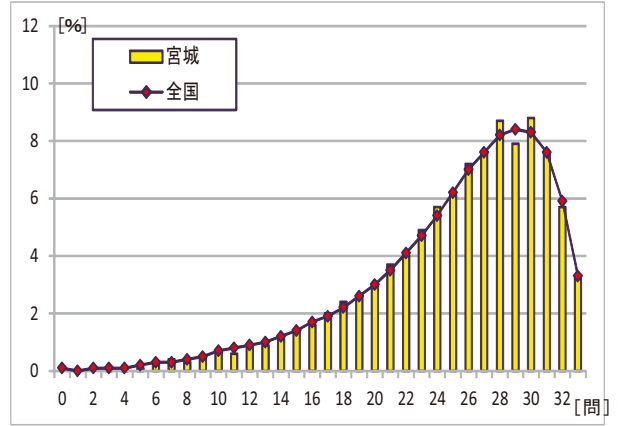
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は、正答数が28問以上の層では全国をやや上回っている。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域全てにおいて、全国平均正答率を上回っている。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合 計		
	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)
H28	80.3	78.9	1.4	74.8	73.7	1.1	79.9	78.6	1.3	75.2	73.9	1.7	77	76	+1
H27	80.2	79.7	0.5	74.3	73.6	0.7	86.7	86.1	0.6	73.0	72.9	0.1	76	76	0
H26	74.1	72.3	1.8	84.4	83.4	1.0	83.8	82.9	0.9	79.3	78.7	0.6	80	79	+1
H25	78.6	77.6	1.0	66.1	64.5	1.6	81.6	80.0	1.6	78.6	77.5	1.1	78	76	+2
H24	89.4	87.7	1.7	89.0	88.1	0.9	66.7	65.4	1.3	74.7	73.7	1.0	76	75	+1
H22	75.6	74.2	1.4	71.6	71.1	0.5	77.9	76.6	1.3	76.8	75.8	1.0	76	75	+1
H21	87.0	86.8	0.2	65.8	64.6	1.2	76.7	75.7	1.0	77.4	76.0	1.4	78	77	+1
H20	80.3	80.1	0.2	55.8	55.2	0.6	71.2	71.0	0.2	75.4	75.2	0.2	74	74	0
H19	90.3	90.1	0.2	74.1	73.4	0.7	79.9	80.6	-0.7	78.2	80.3	-2.1	81	82	-1

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい(±3ポイント以上)設問等
(◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス、[]内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】

なし

【書くこと】

なし

【読むこと】

なし

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

◇ 漢字を読む（目上の人を敬う）[9二③]

◇ 適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけて育てる）[9三ウ]

- 無解答率の高い設問等

・ 漢字を書く（今までにないドクソウ的な考えだ）[9－2]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率の かい離	無解答率の かい離
		話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県（公立）	全国（公立）	宮城県（公立）	全国（公立）		
1ー	聞き手をどのように想定して話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	2 イ				○			81.7	80.7	0.1	0.1	1.0	0.0
1二	絵本のページを提示した意図として適切なものを選択する	2 ウ				○			78.7	78.1	0.2	0.2	0.6	0.0
2ー	パンフレットの見出しを他の見出しの書き方を参考にして書く		2 ウ				○		79.9	78.1	2.8	3.5	1.8	-0.7
2二	文章の一部を別の項目に移す理由として適切なものを選択する		1 イ			○			74.5	73.2	0.2	0.3	1.3	-0.1
3ー	「ライスカラー」の名に値する」の意味として適切なものを選択する			1 ア		○			85.3	84.7	0.1	0.2	0.6	-0.1
3二	「私」にとつてのライスカラーを説明したものとして適切なものを選択する			2 イ		○			91.2	90.0	0.1	0.2	1.2	-0.1
4ー	答えの文章を直した意図として適切なものを選択する		2 エ			○			65.0	64.7	0.3	0.6	0.3	-0.3
4二	質問に対する答えが明確になるように適切な言葉を書く		1 ウ				○		79.8	78.7	8.6	8.7	1.1	-0.1
5ー	電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く	1 ウ					○		93.4	93.1	3.4	3.7	0.3	-0.3
5二	伝えたいことを明確にするために付け加える言葉として適切なものを選択する	1 イ				○			89.7	88.7	0.2	0.3	1.0	-0.1
6ー	「不思議な機能」の説明として適切なものを選択する			1 イ		○			81.7	81.3	0.2	0.4	0.4	-0.2
6二	文章について説明したものとして適切なものを選択する			1 エ		○			69.6	67.3	0.4	0.6	2.3	-0.2
7ー	相手の発言をどのように聞いているのかを説明したものとして適切なものを選択する	2 エ				○			72.8	70.6	0.3	0.5	2.2	-0.2
7二	話合いを踏まえた発言として適切なものを選択する	2 オ				○			65.4	62.0	0.4	0.6	3.4	-0.2
8ー	奥付の特徴を説明したものとして適切なものを選択する			1 カ		○			88.0	86.1	1.0	1.3	1.9	-0.3
8二	資料集を活用するときの留意点を説明したものとして適切なものを選択する			1 カ		○			63.3	62.4	1.4	1.6	0.9	-0.2
9ー1	漢字を書く（大学で歴史のケンキュウをする）				2(1) ウ(イ)		○		83.1	83.5	6.1	5.8	-0.4	0.3
9ー2	漢字を書く（今までにないドクソウ的な考えだ）				2(1) ウ(イ)		○		29.4	26.1	11.6	11.4	3.3	0.2
9ー3	漢字を書く（家の庭に花をウえる）				2(1) ウ(イ)		○		90.4	89.9	5.5	5.2	0.5	0.3
9二1	漢字を読む（封鑑を開ける）				2(1) ウ(ア)		○		97.7	97.6	1.0	1.3	0.1	-0.3
9二2	漢字を読む（長年の努力が報われた）				2(1) ウ(ア)		○		96.4	94.8	1.3	2.0	1.6	-0.7
9二3	漢字を読む（目上の人を敬う）				2(1) ウ(ア)		○		88.5	82.6	3.2	4.8	5.9	-1.6
9三ア	適切な語句を選択する（彼は、忙しい仕事の合間を縫って、私に会いに来てくれた）				1(1) イ(ウ)	○			93.1	91.0	0.4	0.6	2.1	-0.2
9三イ	適切な語句を選択する（厳しい挑戦だということは、もちろん分かっていきます）				1(1) イ(ウ)	○			98.6	97.9	0.3	0.5	0.7	-0.2
9三ウ	適切な語句を選択する（弟子を手塩にかけ育てる）				1(1) イ(ウ)	○			65.6	59.3	0.7	1.1	6.3	-0.4
9三エ	適切な敬語を選択する（私がプリントを集めて、先生にお届けします）				2(1) イ(ア)	○			94.8	94.3	0.4	0.6	0.5	-0.2
9三オ	適切な語句を選択する（会長候補として、白羽の矢が立つ）				1(1) イ(ウ)	○			57.3	54.0	0.6	0.8	3.3	-0.2
9四ア	漢和辞典の「意味」の中から、「賛美」の「美」の意味として適切なものを選択する				1(1) イ(イ)	○			61.8	60.3	0.8	1.0	1.5	-0.2
9四イ	漢和辞典の「意味」の中から、「優美」の「美」の意味として適切なものを選択する				1(1) イ(イ)	○			60.2	62.8	0.8	1.0	-2.6	-0.2
9五	文章を書き直した意図として適切なものを選択する				2(1) イ(ウ)	○			50.8	50.8	1.2	1.3	0.0	-0.1
9六	題名の下書きをどのように書き直したのかを説明したものとして適切なものを選択する				1(2) ア	○			37.5	36.4	1.0	1.2	1.1	-0.2
9七1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（追ひし）				1(1) ア(ア)		○		77.3	80.2	4.3	4.4	-2.9	-0.1
9七2	「忘れがたき」の意味として適切なものを選択する				2(1) ア(イ)	○			95.8	94.9	1.5	1.7	0.9	-0.2

6. 中学校国語B問題

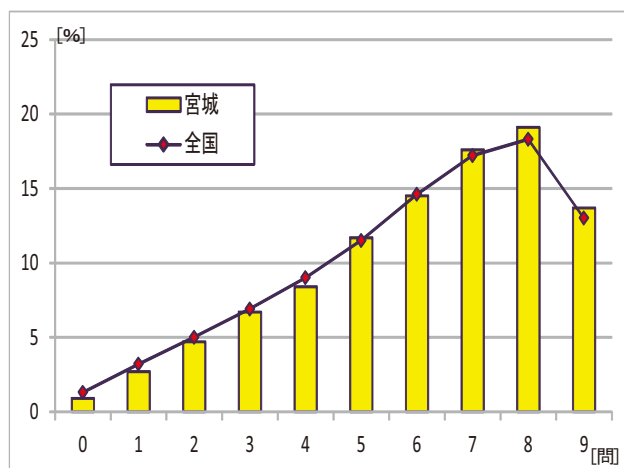
(1) 結果の概要

- 平均正答率が68%であり、全国平均正答率を上回っている。

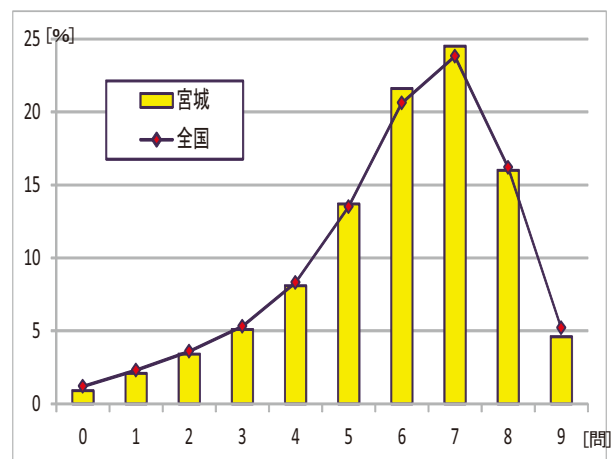
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 正答数が4問(45%程度)以下の生徒の割合が全国と比べて低く、6問から7問(70%～80%程度)正答した生徒の割合が高い傾向が見られる。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「書くこと」「読むこと」の領域において、全国平均正答率を上回った。

年度	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			合 計		
	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 較 (%)
H28				59.8	58.3	1.5	67.9	66.5	1.4				68	67	+1
H27	73.0	72.2	0.8	35.9	36.7	-0.8	62.8	62.6	0.2				66	66	0
H26				43.1	41.0	2.1	50.5	49.2	1.3	57.6	56.8	0.8	52	51	+1
H25				63.9	62.7	1.2	69.2	67.8	1.4	64.2	64.6	-0.4	69	67	+2
H24	61.9	59.9	2.0	59.1	57.4	1.7	64.0	61.5	2.5				66	63	+3
H22	47.5	45.6	1.9	62.8	60.2	2.6	68.8	67.5	1.3				67	65	+2
H21				75.0	72.5	2.5	76.4	74.5	1.9				76	75	+1
H20				48.1	46.7	1.4	61.8	60.8	1.0	63.1	60.5	2.6	62	61	+1
H19	81.8	81.3	0.5	63.4	64.4	-1.0	69.8	70.6	-0.8	67.4	68.5	-1.1	71	72	-1

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい(±3ポイント以上)設問等
(◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【話すこと・聞くこと】

(設問なし)

【書くこと】

なし

【読むこと】

なし

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

(設問なし)

- 無解答率の高い設問等
 - ・ 図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く [33]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式	短答式	記述式	宮城県（公立）	全国（公立）	宮城県（公立）	全国（公立）		
1 一	ちらしの表と裏から分かる「暮らしの中の伝統文化展」が開かれるねらいとして適切なものを選択する			1 イ		○			76.8	76.2	0.1	0.2	0.6	-0.1
1 二	関連イベントの「～職人の技を見てみよう～」に参加することができる日付として適切なものを選択する			1 カ		○			84.6	83.3	0.1	0.2	1.3	-0.1
1 三	ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く		2 ウ	2 ウ				○	68.8	68.0	6.2	7.8	0.8	-1.6
2 一	雑誌の記事の説明として適切なものを選択する			1 エ		○			67.1	64.9	0.1	0.2	2.2	-0.1
2 二	情報カードにまとめる内容として適切なものを選択する			1 イ		○			64.7	64.0	0.1	0.3	0.7	-0.2
2 三	宇宙エレベーターについて疑問に思ったことと、それを調べるために必要な本の探し方を書く		1 ア	1 カ				○	50.7	49.2	4.8	6.0	1.5	-1.2
3 一	物語の展開に沿って巳之助の様子を並べ替える			1 ウ			○		72.3	71.1	1.0	1.2	1.2	-0.2
3 二	物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることとして適切なものを選択する			1 カ		○			65.9	64.7	0.5	0.8	1.2	-0.3
3 三	図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分とその部分についてどのようなことが分かったのかを書く		1 ウ	1 カ				○	59.9	57.7	21.7	22.8	2.2	-1.1

生徒質問紙

質 問 事 項		宮城県	全国	かい離
今回の国語の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	73.7	71.7	2.0
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた	22.2	23.0	-0.8
	3 書く問題は全く解答しなかった	2.9	3.6	-0.7
調査問題の解答時間は十分でしたか （国語 A）	1 時間が余った	57.0	62.6	-5.6
	2 ちょうどよかった	36.1	30.7	5.4
	3 やや足りなかった	5.3	4.8	0.5
	4 全く足りなかった	1.2	1.3	-0.1
調査問題の解答時間は十分でしたか （国語 B）	1 時間が余った	42.0	48.8	-6.8
	2 ちょうどよかった	41.2	35.8	5.4
	3 やや足りなかった	14.0	12.4	1.6
	4 全く足りなかった	2.5	2.4	0.1

7. 中学校数学A問題

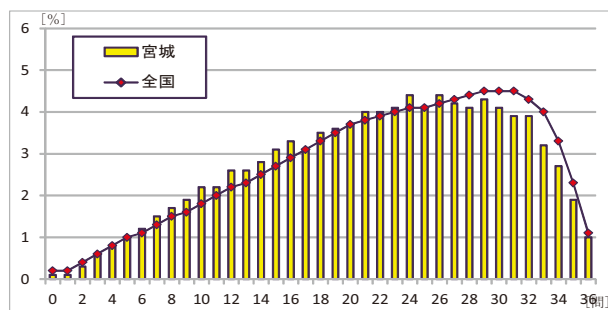
(1) 結果の概要

- 平均正答率は60%で、全国平均正答率を下回っている。

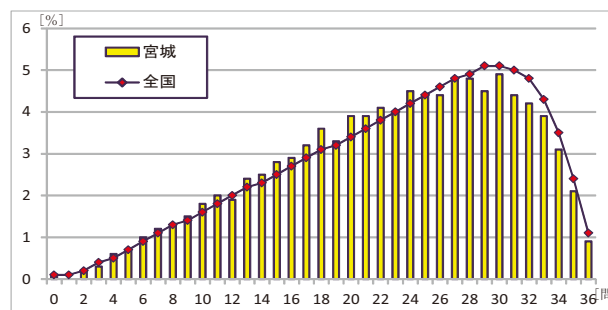
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、27問(75%程度)以上正答している生徒の割合が低く、7問～16問(20%～45%程度)正答している生徒の割合が高くなっている。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 4領域全てにおいて、全国平均正答率を下回っている。

年 度	数と式			図形			関数			資料の活用			合 計		
	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 (%)	県平均 正答率 (%)	全国平均 正答率 (%)	全国との 比 (%)
H28	63.6	65.9	-2.3	66.0	67.1	-1.1	50.0	52.0	-2.0	55.0	56.5	-1.5	60	62	-2
H27	65.9	67.7	-1.8	62.8	63.4	-0.6	59.9	61.7	-1.8	62.0	63.0	-1.0	63	64	-1
H26	75.5	77.4	-1.9	65.2	66.4	-1.2	56.0	58.0	-2.0	56.7	59.1	-2.4	66	67	-1
H25	71.7	72.7	-1.0	63.2	64.6	-1.4	57.0	58.7	-1.7	45.1	46.8	-1.7	62	64	-2
	数と式			図形			数量関係						合 計		
H24	66.1	67.5	-1.4	66.2	66.7	-0.5	50.3	52.1	-1.3						
H22	74.7	75.2	-0.5	63.8	64.3	-0.5	54.6	54.3	0.3						
H21	66.0	67.3	-1.3	64.8	64.6	0.2	55.7	56.2	-0.5						
H20	65.4	68.0	-2.6	61.6	62.7	-1.1	57.3	58.6	-1.3						
H19	72.4	74.4	-2.0	73.7	75.5	-1.8	64.4	65.9	-1.5						

(4) 設問別の調査結果

- 全国とのかい離が大きい(±3ポイント以上)設問等
(◇：かい離がプラス ◆かい離がマイナス、[]内の記号は設問番号)

【数と式】

- ◆ 分数と小数の乗法の計算 [1 (1)]
- ◆ 自然数を選ぶ [1 (2)]
- ◆ 等式 $S = ah$ を h について解く [2 (4)]

【図形】

- ◆ 三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く [5 (1)]
- ◆ 円柱の体積が 600cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める [5 (4)]

【関数】

- ◆ 反比例を表した事象を選ぶ [9 (3)]
- ◆ 反比例のグラフから式を選ぶ [9 (4)]

【資料の活用】

- ◆ 読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める [12 (1)]
- ◇ 1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ [13 (1)]

- 無解答率の高い設問等

- ・ある数を3でわると、商が a で余りが2になるとき、ある数を a を用いた式で表す [2 (1)]
- ・縦と横の長さの比が $5:8$ の長方形の看板について、縦の長さが 45cm のときの横の長さ x cm を決めるための比例式をつくる [3 (3)]
- ・円柱の体積が 600cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める [5 (4)]
- ・ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す [7 (2)]
- ・比例 $y = 2x$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める [9 (2)]
- ・反比例のグラフから式を求める [9 (4)]
- ・一次関数の式から変化の割合を求める [10 (2)]
- ・一次関数のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める [10 (3)]
- ・一次関数の事象を式で表す [11]
- ・読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める [12 (1)]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1 (1)	$\frac{2}{5} \times 0.6$ を計算する	小6 (1) イ					○		60.9	66.9	5.6	5.0	-6.0	0.6
1 (2)	-5, 0, 1, 2, 5, 4の中から自然数を全て選ぶ	1 (1) ア				○			34.4	40.6	0.1	0.2	-6.2	-0.1
1 (3)	$-3 + (-7)$ を計算する	1 (1) ウ					○		90.0	91.6	0.6	0.7	-1.6	-0.1
1 (4)	今日の水位が1週間前の水位からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ	1 (1) ア, エ				○			68.6	69.0	0.2	0.3	-0.4	-0.1
2 (1)	ある数を3でわると、商が a で余りが2になるとき、ある数を a を用いた式で表す	1 (2) エ					○		30.5	32.2	14.7	12.5	-1.7	2.2
2 (2)	$(2x + 5y) + 3(x - 2y)$ を計算する	2 (1) ア					○		83.5	84.0	2.5	2.5	-0.5	0.0
2 (3)	ある数 a について、不等式 $a > 5$ と表せる事柄を選ぶ	1 (2) エ				○			77.2	78.2	0.2	0.3	-1.0	-0.1
2 (4)	等式 $S = ah$ を h について解く	2 (1) ウ					○		64.2	67.9	9.8	8.2	-3.7	1.6
3 (1)	一元一次方程式 $x + 12 = -2x$ を解く	1 (3) ウ					○		70.7	71.3	5.4	5.1	-0.6	0.3
3 (2)	一元一次方程式 $2x = x + 3$ の解について、正しい記述を選ぶ	1 (3) ア				○			44.6	47.2	0.4	0.5	-2.6	-0.1
3 (3)	縦と横の長さの比が $5 : 8$ の長方形の看板について、縦の長さが 4.5cm のときの横の長さ $x\text{cm}$ を決めるための比例式をつくる	1 (3) ウ					○		49.5	52.3	17.9	15.4	-2.8	2.5
3 (4)	方程式 $2x + y = x - y = 3$ から、 x と y の値を求めるための連立方程式を完成させる	2 (2) イ, ウ					○		89.2	89.7	5.5	5.4	-0.5	0.1
4 (1)	与えられた方法で作図された直線についていえることを選ぶ	1 (1) ア				○			29.6	30.9	0.7	0.8	-1.3	-0.1
4 (2)	$\triangle ABC$ を、直線 l を軸として対称移動した図形をかき	1 (1) イ					○		73.4	71.8	1.7	2.0	1.6	-0.3
5 (1)	三角柱において、与えられた辺とねじれの位置にある辺を書く	1 (2) ア					○		72.3	75.5	2.6	2.6	-3.2	0.0
5 (2)	四角形をその面に垂直な方向に一定の距離だけ平行に動かしてできる立体の名称を書く	1 (2) イ					○		72.5	74.0	6.0	5.6	-1.5	0.4
5 (3)	立方体の見取図を読み取り、2つの角の大きさの関係について、正しい記述を選ぶ	1 (2) イ				○			78.3	78.8	0.4	0.6	-0.5	-0.2
5 (4)	円柱の体積が 600cm^3 のとき、その円柱と底面の円が合同で高さが等しい円錐の体積を求める	1 (2) ウ					○		46.0	49.9	15.1	14.2	-3.9	0.9
6 (1)	平行線や角の性質を用いて $\angle APB$ の大きさを求める	2 (1) ア					○		72.9	74.8	5.5	4.5	-1.9	1.0
6 (2)	多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ	2 (1) イ				○			69.1	69.3	0.6	0.8	-0.2	-0.2
7 (1)	$\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が合同であるための条件として、正しいものを選ぶ	2 (2) ア				○			68.9	70.8	0.5	0.8	-1.9	-0.3
7 (2)	ひし形の対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表す	2 (2) イ, ウ					○		73.4	74.7	12.3	11.4	-1.3	0.9
7 (3)	図形に成り立つ性質の逆の事柄を完成する	2 (2) イ					○		73.0	72.3	8.1	7.7	0.7	0.4
8	証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ	2 (2) イ, ウ				○			63.1	61.9	1.0	1.2	1.2	-0.2
9 (1)	比例の表を完成させる			1 (1) エ			○		87.3	87.9	3.0	3.2	-0.6	-0.2
9 (2)	比例 $y = 2x$ について、 x の値が1から4まで増加したときの y の増加量を求める			1 (1) エ			○		38.2	39.4	13.4	12.1	-1.2	1.3
9 (3)	反比例を表した事象を選ぶ			1 (1) イ		○			37.9	42.0	1.2	1.3	-4.1	-0.1
9 (4)	反比例のグラフから式を求める			1 (1) エ			○		29.4	34.5	17.8	14.8	-5.1	3.0
10 (1)	一次関数の表からグラフを選ぶ			2 (1) イ		○			59.2	61.9	1.5	1.6	-2.7	-0.1
10 (2)	一次関数の式から変化の割合を求める			2 (1) イ			○		54.1	54.6	23.7	22.3	-0.5	1.4
10 (3)	一次関数のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める			2 (1) イ			○		42.8	43.0	20.8	18.9	-0.2	1.9
11	一次関数の事象を式で表す			2 (1) ア			○		50.8	53.0	15.0	14.1	-2.2	0.9
12 (1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める				1 (1) ア		○		37.4	45.5	22.0	17.4	-8.1	4.6
12 (2)	ある郵便物の重さについて、デジタルはかりで表示された値を基に、真の値の範囲を選ぶ				1 (1) イ	○			35.0	34.7	2.6	2.5	0.3	0.1
13 (1)	1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ				2 (1) ア	○			69.7	66.0	1.9	1.9	3.7	0.0
13 (2)	1から13までの数字が書かれた13枚のカードから5または11のカードをひく確率を求める				2 (1) ア		○		78.0	79.6	9.2	8.5	-1.6	0.7

8. 中学校数学B問題

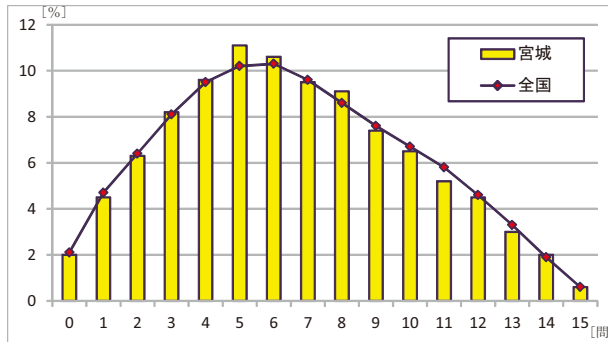
(1) 結果の概要

- 平均正答率は44%で、全国平均正答率と同程度である。

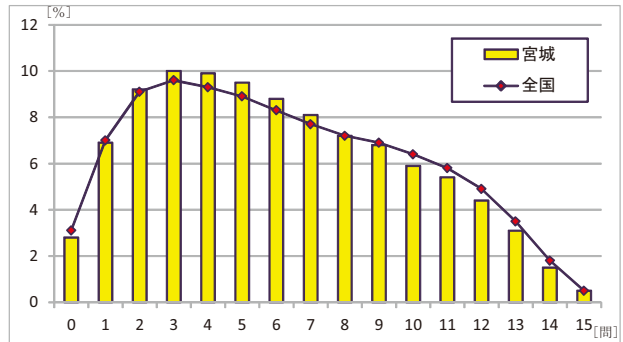
(2) 正答数分布状況

- 正答数の分布は全国とはほぼ同様の傾向が見られる。
- 全国と比較して、9問～13問（60%～87%程度）正答した生徒の割合が低く、5問～8問（33%～53%程度）正答している生徒の割合が高くなっている。

【平成28年度正答数度数分布グラフ】



【平成27年度正答数度数分布グラフ】



(3) 領域別の平均正答率

- 「数と式」「図形」「関数」の領域において全国平均正答率を下回り、「資料の活用」の領域において上回っている。

年度	数と式			図形			関数			資料の活用			合計		
	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)	全国との比較(%)
H28	51.1	51.5	-0.4	32.7	33.3	-0.6	40.7	41.4	-0.7	40.4	39.3	1.1	44	44	0
H27	62.4	63.2	-0.8	38.0	39.0	-1.0	29.7	30.7	-1.0	30.1	31.2	-1.1	41	42	-1
H26	54.7	56.9	-2.2	57.4	58.6	-1.2	65.7	64.4	1.3	55.4	55.9	-0.5	59	60	-1
H25	36.1	41.7	-5.6	45.8	44.8	1.0	39.2	40.0	-0.8	42.7	42.2	0.5	40	42	-2
H24 H22 H21 H20 H19	数と式			図形			数量関係			資料の活用			合計		
	41.4	40.9	0.5	61.8	59.7	2.1	30.9	39.8	0.1				51	49	+2
	43.5	43.2	0.3	41.1	40.2	0.9	46.2	45.5	0.7				44	43	+1
	61.6	61.4	0.2	58.8	57.5	1.3	54.7	54.1	0.6				58	57	+1
	53.8	54.2	-0.4	59.2	57.6	1.6	44.2	44.7	-0.5				49	49	0
	45.5	48.2	-2.7	54.0	53.1	0.9	67.0	67.9	-0.9				59	61	-2

(4) 設問別調査結果

- 全国とのかい離が大きい(±3ポイント以上)設問等
(◇: かい離がプラス ◆かい離がマイナス, []内の記号は設問番号)

【数と式】

なし

【図形】

なし

【関数】

◇一次関数の表から $x = 4$ のときの y の値を求める [2 (1)]

【資料の活用】

なし

- 無解答率の高い設問
 - ・葉月さんの提案を取り入れたとき、1試合の時間を求めるための方程式をつくる [1 (2)]
 - ・式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する [3 (3)]
 - ・2つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する [4 (1)]
 - ・ $DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する [4 (2)]
 - ・24.5cmの靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する [5 (1)]
 - ・24.5cmの靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く [5 (2)]
 - ・最初に決めた数が5のとき、手順通りに求めた数を書く [6 (1)]
 - ・文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する [6 (2)]

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域				問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		正答率のかい離	無解答率のかい離
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式	短答式	記述式	宮城県(公立)	全国(公立)	宮城県(公立)	全国(公立)		
1 (1)	1 試合の時間を 1 6 分とすると、1 回の休憩の時間を求める	1 (3)ウ					○		79.1	79.3	1.1	1.2	-0.2	-0.1
1 (2)	葉月さんの提案を取り入れたとき、1 試合の時間を求めるための方程式をつくる	1 (3)ウ					○		32.1	33.4	21.0	19.3	-1.3	1.7
1 (3)	1 試合の時間を 1 0 分とすることができるかについて正しい記述を選び、その理由を式を基に説明する	1 (3)ウ						○	50.9	51.4	2.2	2.3	-0.5	-0.1
2 (1)	一次関数の表から $x=4$ のときの y の値を求める			2 (1)イ			○		62.2	59.1	9.0	8.7	3.1	0.3
2 (2)	$x=4$ のとき $y=9$ になるように、 x と y の間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する			1 (1)エ				○	17.7	20.6	8.4	8.2	-2.9	0.2
3 (1)	A 車を購入して 1 0 年間使用するときの総費用を求める			2 (1)イ、エ			○		66.2	67.4	3.1	3.4	-1.2	-0.3
3 (2)	B 車の使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、グラフの傾きが表すものを選ぶ			2 (1)イ、エ		○			30.1	29.8	0.5	0.7	0.3	-0.2
3 (3)	A 車と B 車について、式やグラフを用いて、2 つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する			2 (1)イ、エ				○	27.5	30.3	13.4	12.1	-2.8	1.3
4 (1)	2 つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する		2 (2)イ、ウ					○	29.1	29.4	21.5	22.3	-0.3	-0.8
4 (2)	$DA : DC = 1 : 2$ のときの $\triangle DEC$ がどのような三角形になるかを説明する		2 (2)ウ					○	36.4	37.3	32.3	30.5	-0.9	1.8
5 (1)	2 4 . 5 cm の靴を最も多く買うという考えが適切ではない理由を、グラフの特徴を基に説明する							○	48.1	47.6	18.6	19.3	0.5	-0.7
5 (2)	2 5 . 5 cm の靴が貸し出された回数の相対度数を求める式を書く						○		32.7	31.1	32.9	33.5	1.6	-0.6
6 (1)	最初に決めた数が 5 のとき、手順通りに求めた数を書く	小 4 (4)					○		76.4	76.4	13.2	12.8	0.0	0.4
6 (2)	文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する	2 (1)イ、ウ						○	14.9	15.4	44.4	41.5	-0.5	2.9
6 (3)	当てる方法を変えるとき、新しい数当てゲームの手順について当てはまる言葉を選ぶ	2 (1)ウ				○			53.1	52.9	4.8	4.5	0.2	0.3

生徒質問紙

質	問 事 項	宮城県	全国	かい離
今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	48.0	50.0	-2.0
	2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中で諦めたりしたものがあつた	45.5	42.7	2.8
	3 書く問題は全く解答しなかった	5.4	6.1	-0.7
調査問題の解答時間は十分でしたか (数学 A)	1 時間が余った	48.4	57.2	-8.8
	2 ちょうどよかった	38.0	32.0	6.0
	3 やや足りなかった	10.9	8.2	2.7
	4 全く足りなかった	2.4	2.0	0.4
調査問題の解答時間は十分でしたか (数学 B)	1 時間が余った	28.2	34.0	-5.8
	2 ちょうどよかった	29.4	28.9	0.5
	3 やや足りなかった	30.7	26.7	4.0
	4 全く足りなかった	11.4	9.7	1.7

3 類似問題の経年比較（H25小とH28中の類似問題の比較）

（1）中学校国語

- A ①
- ・ 聞き手の立場を想定し、話の中心的部分と付加的な部分との関係に注意して話すこと
 - ・ 目的に応じて資料を効果的に活用して話すこと

平成25年度小学校調査では「スピーチの表現を工夫することができるかどうかをみる」問題（正答率45.4%）に課題が見られた。これを踏まえて出題された、「聞き手の立場を想定し、話の中心的部分と付加的な部分との関係に注意して話す」問題では、正答率は81.7%であり、改善の傾向にある。

H 2 5 小 国 A ⑦

7

次は、去年の選抜高等学校野球大会開会式での【選手宣誓の一部】です。
の表現は、話し手がどのようなふうをすることで、どのような効果を生み出そうとしていますか。その説明として最もふさわしいものを、あとの1から5までの中から二つ選んで、その番号を書きましょう。
（解答の順序は、問いません。）

【選手宣誓の一部】

宣誓。東日本大震災から一年、日本は復興の真つ最中です。被災をされた方々の中には、苦しくて心の整理がつかず、今も当時のことや、亡くなられた方を忘れられず、悲しみに暮れている方がたくさんいます。

人はだれでも答えのない悲しみを受け入れることは、苦しくてつらいことです。しかし、日本が一つになり、その苦難を乗り越えることができれば、その先に必ず大きな幸せが待っていると信じています。だからこそ、

日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう。日本の底力、絆を。

（宣誓が続く）

写真

▲選手宣誓の様子

（第84回選抜高等学校野球大会開会式選手宣誓による。）

- ※1「宣誓」…多くの人の前でちかいを述べること。
※2「復興」…もとのように再び盛んになること。
※3「絆」…人と人との強いつながり。

- 1 人や物、出来事を、ほかの何かにたとえることで、想像しやすくしようとしている。
2 伝えたい内容を短い言葉で区切って並べることで、思いを明確にしようとしている。
3 同じ言葉を何度もくり返して使うことで、伝えたいことを強調しようとしている。
4 動きや音声を言葉で表すことで、その場の様子を分かりやすくしようとしている。
5 言葉の順番をくふうすることで、聞き手に伝えたいことを印象づけようとしている。

（全国） 43.2%

（県） 45.4%

1

石川さんは、学級でおすすめの本を紹介するスピーチをします。次は、絵本の【表紙】、【スピーチの内容】、絵本のページ【A】、【B】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【スピーチの内容】の□は、その箇所で提示するものを表します。）

絵本の【表紙】

シエル・シルヴァスタイン著 倉橋由美子訳
『ぼくを探しに』による



石川さん

【スピーチの内容】

私は、『ぼくを探しに』という絵本を紹介します。

この絵本は、完全な丸ではない「ぼく」が主人公です。これが「ぼく」です。
【表紙】「ぼく」は、転がりながら自分に足りない「かけら」を探して進んでいきます。

ストーリーも魅力的なのですが、この絵本の面白いところはページの構成にもあります。例えば、このページを見てください。【A】「びったりのかけらを見つけたと思ったのもつかのまで」、「しっかりはめておかなかったで」と文の途中まで示すことで読者の興味を引き、次のページで、【B】「落

してしまった」とその続きを示しています。

また、地面を表す横線の上を、左から右に主人公の「ぼく」が進むようにページを構成することで、読者は主人公と一緒に「かけら」を探すような気持ちになつて読み進めることができるように工夫されています。こういった工夫は、次のページをめくる際のわくわくした気持ちを一層かき立てます。

絵本を読むときは、絵やストーリーを楽しむことが多いと思いますが、ページの構成についても意識してみると、また違った発見ができるかもしれません。ぜひ『ぼくを探しに』を読んで、様々な工夫を探してみてください。

一 石川さんは、聞き手をどのように想定して話していますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 中学生になつてからは絵本を読まなくなった人が多いだろう。
- 2 ページの構成まで意識せず絵本を読んでいる人が多いだろう。
- 3 「ぼくを探しに」のストーリーを知っている人が多いだろう。
- 4 ストーリーよりも絵を楽しんで絵本を読んでいる人が多いだろう。

二 石川さんが、絵本のページ【A】【B】を提示した意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 絵本の最初と最後のページを示すことで、聞き手がストーリーの面白さをより味わうことができるようにした。
- 2 スピーチの内容と異なるページを示すことで、聞き手が様々なものの方や考え方をすることができるようにした。
- 3 自分の考えの具体例となるページを示すことで、聞き手がスピーチの内容をより理解することができるようにした。
- 4 主人公の気持ちが変わっているページを示すことで、聞き手が主人公の性格を捉えることができるようにした。

(全国) 80.7%

(県) 81.7%

紹介やスピーチなどをする際には、自分が伝えたい内容を明確にした上で、聞き手にも様々な立場や考えがあることを踏まえて話すように指導することが大切である。その際、聞き手の意見を具体的に予想し、話の中心となる事柄が効果的に伝わるように話の構成や展開を工夫することが重要である。例えば、ペアやグループで工夫した点について事前に意見を交換したり、スピーチの後にその効果について話し合ったりするなどの学習活動が有効である。

A 4 文章を推敲する

平成25年度小学校調査では「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかを見る」問題（正答率19.0％）に課題が見られた。これを踏まえて出題された、「文章を読み返し、文の使い方などに注意して書く」問題では、正答率は65.0％にとどまっており、引き続き課題があると考えられる。

H 2 5 小 国 A 3 二 (1)

3

次の「文章の一部」は、六年生の高島さんが五年生のときから続けている放送委員の仕事について書いたものです。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の一部】

放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任されることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

一 「文章の一部」の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの五文字を丸で囲みましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

二 「文章の一部」の中の――部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから」に続く七文字を書きましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

新しく委員になった五年生は、（中略）
 （中略）
 。だから、
 （中略）
 教えてあげたいと思った。

(2) ―部を二つの内容に分けると、「だから」と同じような意味の別の言葉を使うとすると、どのような言葉がふさわしいですか。次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 しかし
- 2 また
- 3 ところで
- 4 それで

(全国) 23.4%

(県) 19.0%

4

山田さんのグループでは、北極と南極について調べたことを、「Q & A」(Question and Answer: 質問と、それに対する答え)の形式でまとめています。次は、「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか?」というQ (質問) に対して作成している「山田さんの答え」と「鈴木さんの答え」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【山田さんの答え】

南極点です。

1年間の平均気温は、南極点では約 -50°C ですが、北極点では約 -18°C です。一般的に、海と陸とを比べると、陸の方が冷たくなりやすいという性質があります。また、②(なります)標高が高い方が気温が低くなり—実際に、南極点は大陸にありますが、北極点には海や氷が広がっています。そして、南極点の高さは約2800mですが、北極点はほぼ海面と同じです。

【鈴木さんの答え】

北極点は「海」にあり、南極点は「大陸」にあります。一般的に、海より陸の方が冷たくなりやすいという性質があります。また、南極点は北極点より標高が高く、標高が高い方が気温が低くなります。1年間の北極点の平均気温は約-18℃ですが、南極点は約-50℃です。

- 1 時間の流れに沿って内容を並べ替えて分かりやすくするため。
 - 2 引用と自分の意見とを区別して分かりやすくするため。
 - 3 異なる二つの内容を整理して分かりやすくするため。
 - 4 専門的な語句を一般的な語句に言い換えて分かりやすくするため。
- 二 「北極点と南極点では、どちらの平均気温が低いのか？」というQ（質問）に対する答えが明確になるように、【鈴木さんの答え】の□に当てはまる言葉を、文のつながりを考えて二十五字以内で書きなさい。

(全国) 64.7%

(県) 65.0%

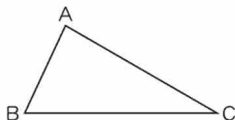
書いた文章を推敲する際には、自分が伝えたい内容が明確になっているかについて、読み手の立場から見直すように指導する必要がある。例えば、読み手に分かる語句や文の使い方になっているか、取り上げた事例は読み手にとって分かりやすいかなど、具体的な観点を示して指導することが大切である。また、書き直す意図や適否について互いに検討し合う学習活動も有効である。

(2) 中学校数学

A7 (1) 三角形の合同条件を理解しているかどうかをみる。

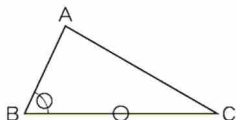
H25 小学校 算数 A 6

下の三角形ABCと合同な三角形をかくために、三角形ABCのどの辺の長さや角の大きさを測ればよいかを考えます。

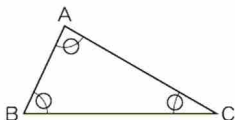


次の 1 から 4 は、辺の長さや角の大きさを測るところに○の印をつけたものです。三角形ABCと合同な三角形をかくことができるものを1つ選んで、その番号を書きましょう。

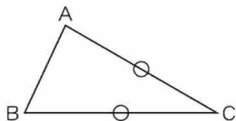
1



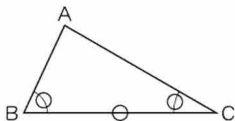
2



3



4



(全国) 60.7%

(県) 58.1%

平成25年度小学校調査では「三角形ABCと合同な三角形をかくことができる条件を選ぶことをみる」問題(正答率58.1%)であった。これに関連して出題された「△ABCと△DEFが合同であるための条件として、正しいものを選ぶことをみる」問題では、正答率は68.9%にとどまっており、引き続き課題があると考えられる。

誤答傾向を見ると、「イ $\angle A = \angle D$, $\angle B = \angle E$, $\angle C = \angle F$ 」を選択した生徒が多く、16.2%(全国15.1%)の反応率であった。この中には、3組の角がそれぞれ等しい2つの三角形は合同であると捉えている生徒がいると考えられる。

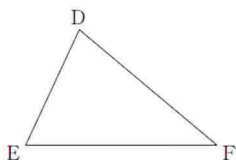
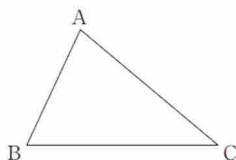
授業の中では、2つの三角形についてどのような条件があればそれらが合同になるのかを考察する場面を設定し、辺や角に着目して三角形の合同条件を理解できるように指導することが大切である。

例えば、選択肢アからエまでのそれぞれの条件において合同な三角形をかくことができるかどうかを確認する活動を取り入れることが考えられる。その際、「イ $\angle A = \angle D$, $\angle B = \angle E$, $\angle C = \angle F$ 」を取り上げ、3つの角の大きさを定め、それを満たす三角形を生徒がかき、グループの中で互いに比較する活動を取り入れ、協働的な学習の中で2つの三角形は必ずしも合同になるとはいえないことを確認する場面を設定することが考えられる。

なお、第3学年の学習において、合同な2つの図形は相似比1:1の相似な図形であることについても確認する必要がある。

H28 中学校 数学 A 7 (1)

次の図の△ABCと△DEFが合同であるかどうかを調べます。このとき、対応する辺や角について、どのようなことがわかれば合同であるといえますか。正しいものを下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。



ア $\angle B = \angle E$, $BC = EF$

イ $\angle A = \angle D$, $\angle B = \angle E$, $\angle C = \angle F$

ウ $AC = DF$, $BC = EF$

エ $\angle B = \angle E$, $\angle C = \angle F$, $BC = EF$

(全国) 70.8%

(県) 68.9%

4 過去の調査との同一問題の正答率の比較

- 今年度の調査では、過去の全国学力・学習状況調査との同一問題は6問出題されている。
- このうち、平成23年度（未実施）との同一問題（2問）を除いた4問について、過去の正答率と比べて、3ポイント以上高いものが3問、3ポイント未満の変化のものが1問、3ポイント以上低いものが0問となっている。

	過去の調査と比べて 3ポイント以上高い 問題の数	過去の調査と比べて 3ポイント未満の 変化の問題の数	過去の調査と比べて 3ポイント以上低い 問題の数	合計
小学校調査	1問	0問	0問	1問
中学校調査	2問	1問	0問	3問

※各年度で問題の全体構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意が必要

【小学校国語】

問題番号	問題の概要	今年度県正答率 (全国正答率)	過去の調査の正答率（実施年度）
A ¹ ー3	漢字を読む（省く）	82.3% (81.2%)	未実施（平成23年度・A ¹ ー(3)）
A ¹ 二3	漢字を書く（そうだん）	66.3% (64.4%)	58.3%（平成19年度・A ¹ 二(2)）

【小学校算数】

該当なし

【中学校国語】

問題番号	問題の概要	今年度県正答率 (全国正答率)	過去の調査の正答率（実施年度）
A ⁹ 二3	漢字を読む（敬う）	88.5% (83.1%)	未実施（平成23年度・A ⁹ 二3）
A ¹ 三ウ	適切な語句を選択する （弟子を手塩に <u>かけて</u> 育てる。）	65.6% (60.0%)	62.3%（平成24年度・A ⁷ 三ウ）

【中学校数学】

問題番号	問題の概要	今年度県正答率 (全国正答率)	過去の調査の正答率（実施年度）
A ⁶ (2)	多角形の外角の和について、正しい記述を選ぶ	69.1% (69.8%)	66.7%（平成21年度・A ⁶ (2)）
A ¹³ (1)	1枚の硬貨を投げたときの確率について、正しい記述を選ぶ	69.7% (66.4%)	65.5%（平成24年度・A ¹⁴ (1)）

5 児童生徒質問紙調査結果

1. 結果の概要

- 基本的な生活習慣等に関する項目では、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
- 家庭での学習状況等に関する項目では、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多いが、家庭学習の時間については長時間になるほど全国値を下回る傾向が見られる。
- 学習に対する関心・意欲・態度に関する項目では、全国と比べて国語科に関する内容と主体的・対話的で深い学びに関する内容で肯定的な回答をしている項目が多い。
- 自尊意識・規範意識等に関する項目では、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が少ない。

2. 質問事項別の状況

(1) 基本的な生活習慣、家庭でのコミュニケーション、社会への関心等

- 「家の手伝いをする」と回答した小・中学生の割合は、全国値を上回った。
- 住んでいる地域の行事に参加していると回答した小学生の割合は、全国値を上回った。

※表の下段は全国値との比較

	質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	朝食を毎日食べていますか	96.3 +0.8	96.3 +0.7	96.8 +0.8	96.7 +0.4	96.6 +0.5	97.4 +1.0	96.6 +0.6	96.3 +0.9	96.2 +1.0	94.5 +1.2	94.6 +1.1	94.6 +1.1	94.7 +0.9	94.4 +0.8	94.5 +1.2	94.0 +1.6	93.6 +1.7	93.3 +1.7
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	83.0 +2.9	82.7 +3.2	81.7 +2.5	80.6 +1.7	79.0 +1.6	77.4 +1.9	75.4 +0.3	73.2 +0.5	73.5 +1.6	79.3 +4.1	79.3 +4.1	77.5 +3.4	78.0 +3.7	76.2 +2.2	74.8 +3.8	72.5 +3.1	71.5 +3.3	70.1 +3.2
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.7 +0.9	91.3 +0.3	+90.9 0.0	+90.4 -0.5	+90.0 -0.6	+90.1 -0.2	+89.3 -0.9	+88.2 -0.8	+88.7 +0.2	92.8 +0.5	92.7 +0.6	92.9 +0.8	92.6 +0.3	92.4 +0.5	92.5 +1.3	91.8 +0.9	91.3 +0.9	89.9 +1.0
5	普段(月～金)、何時頃に寝ますか(小学生:10時より前, 中学生:11時より前)	55.2 +5.6			53.1 +6.0	53.5 +7.5	49.6 +5.8	51.1 +7.8	48.4 +7.0	49.4 +7.3	+39.4 +2.5			37.4 +3.5	37.3 +3.1	35.5 +2.5	34.3 +2.5	32.4 +3.0	33.8 +4.0
4	家の人と学校での出来事について話をしていますか	80.5 +1.3	80.0 +0.5	81.5 +1.1	77.8 +1.3	77.6 +1.7	77.0 +2.8	71.0 +0.1	70.9 +1.7	70.0 +1.6	75.9 +1.8	76.3 +2.6	74.2 +1.6	67.6 +1.0	66.7 +1.0	65.1 +1.4	61.1 +1.3	60.0 +2.1	60.0 +2.2
5	家の手伝いをしますか	86.4 +3.6			80.3 -0.2	84.0 +3.3	83.6 +3.5	82.0 +3.5	81.0 +3.5	81.1 +2.7	71.5 +4.3			69.3 +4.8	71.1 +5.1	69.7 +4.9	68.3 +5.3	65.9 +5.3	67.9 +4.6
6	今住んでいる地域の行事に参加していますか	76.0 +8.1	75.8 +8.9	76.0 +8.0	73.1 +9.2	73.2 +10.0	74.4 +12.8	73.0 +10.6	71.6 +11.7	72.6 +10.6	44.8 -0.4	46.4 +1.6	44.2 +0.7	41.3 -0.3	37.9 +0.2	39.5 +5.2	40.9 +3.1	39.8 +2.8	39.7 +2.2

(2) 家庭での学習状況等

- 家庭で授業の予習、復習をしている割合や計画を立てて学習していると回答した割合は、小・中学生ともに全国値を上回った。
- 平日に家庭学習を1時間以上2時間以内すると回答した小学生の割合は、全国値を上回った。また、土日など休日の1日当たりの勉強時間(小:2時間以上, 中:3時間以上)については、小・中学生ともに全国値を下回った。
- 携帯電話やスマートフォンを使って通話やメール、インターネットを3時間以上すると回答した割合は、小・中学生とも全国値を下回った。

		質問事項	小学校（％）									中学校（％）								
			H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1		家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	67.3 +5.1	68.1 +5.3	65.7 +4.7	61.3 +2.4	61.1 +3.1	64.7 +6.4	55.5 +0.8	51.5 -0.5		52.2 +3.8	53.7 +4.9	50.4 +3.8	48.5 +4.0	45.6 +2.7	44.3 +2.5	40.1 +2.2	35.8 +1.6	
2		家で学校の授業の予習をしていますか	50.3 +7.0	50.5 +7.1	50.2 +7.0	47.6 +6.3	45.6 +5.1	48.6 +8.2	42.6 +5.1	39.1 +3.7		36.6 +3.7	44.7 +10.5	50.0 +14.7	46.7 +12.5	48.3 +14.8	39.3 +10.0	43.9 +13.0	42.1 +12.6	
3		家で学校の授業の復習をしていますか	68.0 +12.8	67.0 +12.5	66.1 +12.1	61.9 +10.5	59.9 +9.7	61.2 +11.6	54.9 +8.9	50.8 +7.4	45.8 +5.7	63.4 +12.4	65.4 +13.4	63.0 +12.6	60.8 +12.2	56.8 +11.3	54.4 +10.9	49.7 +9.2	48.4 +8.8	45.8 +6.6
4		普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか	30分以上	90.7 +2.8	91.1 +3.1	90.6 +3.4	90.1 +2.4	89.1 +3.5	88.7 +3.9	86.1 +2.5	83.5 +1.1	83.5 -0.4	85.9 +0.3	86.0 0.0	85.9 +0.7	85.4 +0.2	84.7 +1.4	83.1 0.0	81.7 -0.2	81.4 -0.7
	1時間以上		64.4 +1.9	64.8 +2.1	64.1 +2.1	64.8 +1.6	61.2 +1.7	61.5 +3.3	56.9 -0.3	52.9 -3.2	53.8 -4.1	66.2 -1.7	67 -2.0	66.1 -1.8	66.4 -2.2	65.8 -0.6	63.7 -2.5	62.2 -3.1	59.9 -2.3	59.9 -5.1
	2時間以上		20.5 -5.0	20.1 -5.6	21.4 -4.4	22.0 -5.1	21.3 -4.3	20.8 -4.9	19.7 -6.0	18.8 -6.7	18.3 -7.2	28.9 -5.3	29.7 -6.0	29.6 -5.5	30.7 -5.8	30.0 -5.3	28.5 -7.2	29.1 -6.6	29.8 -5.9	27.4 -8.0
	3時間以上		6.1 -4.7	6.1 -5.0	6.8 -4.4	7.0 -4.5	7.0 -4.1	6.8 -4.6	6.3 -5.3	6.1 -5.3	5.6 -5.3	6.4 -3.0	6.8 -3.6	6.9 -3.5	7.1 -3.4	6.6 -3.3	6.3 -3.9	6.6 -3.6	7.0 -3.2	6.2 -3.5
5		土日など学校が休みの日に1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか（小学生2時間以上、中学生3時間以上）	21.1 -3.1	21.2 -3.3	22.0 -2.0	20.9 -4.3	19.5 -4.3	20.5 -3.0	17.9 -4.9	16.3 -6.4	15.4 -7.6	15.4 -1.2	16.6 -1.1	15.6 -1.3	15.5 -1.7	15.0 -1.2	12.9 -2.9	13.5 -1.9	13.6 -1.5	11.8 -3.1

	質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
6	普段1日にどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか(3時間以上)	34.3	35.6	39.6	41.9	47.8	47.2	51.1	51.7	38.0	23.2	27.0	30.3	29.7	33.3	38.1	40.4	43.0	35.9
		+1.5	-0.5	+1.6	+3.3	+5.1	+3.9	+5.4	+5.6	+3.7	-0.9	-3.5	-1.2	0.0	+0.8	+1.6	+2.4	+3.4	+2.8
7	普段1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか(3時間以上)	15.1	15.9	17.4	16.1	13.7	12.6	13.0	14.0	9.8	17.2	18.6	19.8	14.3	10.5	10.2	10.5	10.4	10.5
		-0.9	-1.1	+0.4	+1.2	+1.1	+1.3	+1.4	+2.1	+0.9	-1.7	-1.9	-0.5	0.0	-0.9	-0.6	+0.1	-0.1	-0.2
8	普段1日にどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットしますか(3時間以上)	5.0	4.6	4.8							14.1	15.5	18.8						
		-0.8	-1.1	-0.2							-2.5	-2.7	-1.0						

(3) 学習に対する関心・意欲・態度

- 「授業の中で目標が示されていた」「授業の最後に学習内容を振り返る活動を行った」と回答した割合は、小・中学生とも昨年度から増加している。
- 「国語の授業の内容がよく分かる」と回答した中学生は、調査開始以来、全国値を上回る状況が続いている。
- 「国語の授業で文章のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいる」「自分の考えを理由が分かるように気を付けて書いている」と回答した小・中学生の割合は、全国値を上回った。
- 「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたか」など、主体的・対話的な深い学びの視点による学習指導の項目については、小・中学生ともに全国値を上回った。

	質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	授業の中で目標(ねらい・めあて)が示されていたと思いますか	87.2	84.1	77.5	78.1						84.9	78.3	67.7	65.0					
		-0.4	-2.2	-4.5	-4.4						0.0	-1.4	-3.8	-3.1					
2	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	74.5	73.6	68.0	73.3						63.8	60.2	53.0	52.9					
		-1.6	-1.7	-3.9	-3.4						+0.7	+0.9	-0.3	+1.6					
3	国語の授業の内容はよく分かりますか	80.3	80.9	78.8	78.4	83.7	82.3	80.1	77.6	78.7	75.4	75.8	74.5	74.3	74.7	71.5	70.1	69.6	67.5
		-0.4	-1.1	-1.3	-1.5	+0.6	0.0	+0.1	-0.4	+0.7	+1.3	+1.5	+2.5	+2.4	+3.5	+1.6	+1.3	+2.8	+2.1
4	算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	79.6	80.9	78.2	78.6	79.5	78.0	80.2	79.2	77.9	67.7	71.2	71.4	70.5	64.1	64.8	62.4	64.5	61.5
		-0.6	-0.1	-1.4	-1.6	+0.4	+0.8	+1.0	+0.8	+0.8	-1.7	-0.4	-0.1	0.0	-0.8	-0.9	-2.5	-1.0	-2.1
6	国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか	79.2	76.8	74.8	72.4	74.9	74.9	70.6	71.7		73.9	73.1	70.6	67.7	68.5	66.7	63.3	65.6	
		+1.1	-0.4	-1.0	-0.9	-0.2	+1.5	-0.2	-0.2		+2.6	+2.5	+3.1	+3.2	+2.9	+3.0	+2.6	+4.1	
7	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書きますか	75.3	73.9	71.6	68.9	72.0	72.8	66.7	67.2		71.7	71.6	65.2	66.5	63.3	62.1	58.6	61.4	
		+1.3	+1.2	+0.9	0.0	+0.7	+3.6	+0.5	+0.1		+5.0	+5.9	+4.9	+6.1	+3.9	+4.4	+3.5	+5.9	
8	算数・数学の問題の解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか	80.8	78.5	77.0	75.4	78.1	77.4	77.6	76.2	75.0	72.1	70.7	70.5	68.2	65.7	68.7	64.9	64.7	63.6
		-0.2	-1.1	-1.1	-2.0	-1.0	+0.1	+0.8	+0.2	+0.3	0.0	+0.9	+0.2	+0.9	-0.3	+1.6	+0.1	+1.1	0.6
9	算数・数学の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	85.0	82.3	82.0	81.0	81.1	79.4	77.6	80.3		81.1	80.0	80.2	80.6	76.8	78.9	76.8	78.3	
		+0.2	-1.5	-1.4	-1.5	-1.5	-1.4	-1.9	-1.1		0.0	+0.4	+0.2	+0.8	-0.5	+0.7	+0.0	+1.3	
10	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか	78.4	75.5								72.5	68.4							
		+2.7	+1.3								+3.2	+2.7							
11	学級の友との間で話し合う活動では、話し合う内容をしっかり理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか	77.7									75.5								
		+0.6									+3.1								
12	自分の考えを発表する場合は、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組立てなどを工夫し発表していたと思いますか	66.2									62.7								
		+2.4									+5.0								

(4) 自尊意識・規範意識等

- 「自分にはよいところがある」と回答した小・中学生の割合は、昨年度より増加している。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、小・中学生ともに昨年度より増加し、全国値に達した。

	質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	自分には、よいところがあると思う	73.9	72.5	74.0	72.2	76.4	73.6	72.9	71.4	68.6	68.2	66.2	65.3	65.6	67.7	63.8	61.6	61.8	59.8
		-2.4	-3.9	-2.1	-3.5	-0.4	-0.8	-1.7	-2.0	-2.9	-1.1	-1.9	-1.8	-0.8	-0.5	+0.7	+0.4	+1.0	-0.7
2	ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがありますか	93.4	93.6	93.8	93.4	94.8	94.5	93.8	93.2	93.2	94.1	93.8	94.2	93.7	93.4	93.6	92.9	92.9	92.4
		-1.0	-0.9	-0.6	-0.9	+0.3	+0.4	0.0	-0.3	+0.1	-0.2	-0.4	+0.3	0.0	+0.2	+0.9	+1.0	+1.0	+0.4
3	将来の夢や目標を持っていますか	85.6	87.5	86.6	86.4	86.5	86.5	85.6	84.0	83.6	71.2	72.4	72.5	73.7	73.8	72.6	71.3	72.0	72.2
		+0.3	+1.0	-0.1	-1.3	-0.2	-0.3	-0.7	-0.7	-0.1	+0.1	+0.7	+1.1	+0.2	+0.6	+0.9	+0.3	+1.3	+1.5
4	学校のきまり(規則)を守っていますか	91.7	90.0	89.9	89.6	91.2	89.4	87.6	85.7	85.2	94.1	93.9	92.5	92.2	91.2	90.5	89.3	88.0	86.0
		+0.2	-1.1	-0.6	-1.0	-0.1	+0.2	-0.9	-0.6	-1.0	-0.6	-0.5	-0.5	-0.3	-1.1	+0.4	+0.7	+0.6	+0.3
5	友達との約束を守っていますか	97.0		97.0	96.2	96.8	96.9	96.0	96.3	95.8	97.0		97.0	97.1	96.5	97.0	96.2	96.4	95.6
		-0.2		-0.3	-0.8	-0.3	+0.2	-0.5	-0.1	-0.2	-0.2		-0.1	+0.1	-0.1	+0.4	+0.1	+0.3	0.0
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	96.8	95.6	95.7	97.0	95.3	94.3	95.1	95.0	94.7	93.7	92.6	92.5	92.8	92.9	90.8	90.7	89.8	87.8
		+0.2	-0.6	-0.7	-0.9	-0.1	-0.7	+0.2	+0.3	+0.0	+0.1	-1.1	-0.9	-0.7	-0.1	-0.3	+0.4	+0.3	-0.1
7	人の役に立つ人間になりたいと思う	92.7	91.4	92.3	91.7	94.7	92.5	91.8	92.0	91.4	91.8	92.6	92.8	92.6	93.7	91.5	90.4	90.6	89.4
		-1.1	-2.3	-1.7	-1.9	0.0	-0.9	-0.7	-0.4	-0.5	-1.0	-1.1	-1.2	-0.7	-0.2	-0.6	0.0	+0.1	-0.2

6 学校質問紙調査結果

1. 結果の概要

- 指導方法や学習評価、学力向上に向けた取組等に関する質問では、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が多い。
- 小中連携や主体的・対話的で深い学びの視点に関する質問では、全国と比べて肯定的な回答をしている項目が少ない。

2. 質問事項別の状況

(1) 指導方法等

- 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行ったと回答した割合は、小学校で全国値を上回った。
- 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れた」と回答した割合は、改善傾向が見られ、中学校で全国値を上回っている。
- 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」と回答した割合は、小・中学校ともに全国値を下回った。

※ 表の下段は全国との比較

質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしたか	86.2	84.0	86.6	78.6	77.6	72.3	68.1	62.1		97.1	96.6	96.0	99.0	97.3	94.1	96.8	95.9	
	+11.6	+11.6	+14.6	+7.1	+6.3	+1.7	-1.4	-4.1		0.0	+0.2	+1.8	+4.5	+2.0	-2.1	+0.9	+0.0	
2 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れているか	98.7	98.7	95.2	96.1						98.6	97.5	94.1	95.4					
	-0.1	+0.6	-1.7	-0.4						+0.8	+1.8	+0.1	+2.8					
3 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れているか	94.0	91.8	91.6	91.4						92.7	91.2	91.6	90.9					
	-0.9	-2.1	0.0	-0.6						-0.3	+0.3	+2.4	+2.8					

(2) 学習評価等

- 「一人一人のよい点や可能性を見付け、積極的に評価していた」と回答した割合は、小・中学校ともに全国値を上回った。
- 生徒自身が資質・能力が伸びているかを把握できる形成的評価を行ったと回答した割合は、小学校では全国値を下回ったが、中学校では全国値を上回った。

質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 学校では、前年度までに、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童生徒に伝えるなど、積極的に評価していた	98.7	97.2	96.2							97.5	94.6	97.5						
	+0.3	+0.5	-0.7							+0.3	-1.2	+1.0						
2 国語や算数において、一人一人の学びの多様性に応じて、学習の過程における形成的な評価を行い、生徒の資質・能力がどのように伸びているかを、生徒自身が把握できるような評価を行った	74.4									79.1								
	-1.7									+5.7								

(3) 学力向上に向けた取組

- 「放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した」と回答した割合は、小・中学校ともに全国値を上回ったが、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、中学校で全国値を下回った。
- 「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した割合は、小学校では全国値を上回り、中学校では全国値を下回った。
- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えた」と回答した割合は、小学校では全国値を上回り、中学校では下回った。

質問事項	小学校 (%)									中学校 (%)								
	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施したか	78.3	71.8	76.4	74.0	70.2	78.5	76.8	58.6	61.0	83.5	79.8	88.5	88.9	85.2	84.0	85.9	63.6	61.8
	+18.1	+13.7	+14.1	+12.3	+8.4	+16.5	+15.9	+16.7	20.1	+2.0	-0.9	+1.7	2.9	-1.5	-1.5	+2.7	+6.4	+6.4
2 長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施したか	70.2	67.9	62.1	61.8	53.3	53.5	46.6	43.0	41.2	67.0	73.5	74.3	74.7	74.5	73.7	68.6	70.0	68.9
	+6.1	+5.1	-4.0	-3.2	-10.1	-5.1	-10.3	-7.0	-6.6	-12.6	-6.3	-10.0	-9.4	-9.6	-6.7	-11.6	-7.0	-6.1
3 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったか	92.2	92.1	93.6							76.7	75.5	76.2						
	+3.4	+5.0	+8.2							-5.4	-3.0	-0.7						
4 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を与えたか	85.1	82.2	82.2	74.6	75.5					66.0	73.1	68.8	58.6	61.3				
	+3.0	+2.7	+4.4	-0.5	+0.8					-2.8	+7.0	+4.6	-0.7	+1.4				

(4) カリキュラム・マネジメント

- 「教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連がわかるように作成している」と回答した割合は、小・中学校ともに全国値を上回った。
- 「言語活動の実施状況や課題について全教職員が話し合っている」と回答した割合は、小学校では全国値を下回り、中学校では上回っている。

質 問 事 項		小学校（％）									中学校（％）								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連がわかるように作成している	90.3									80.6								
		+4.7									+2.8								
2	学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている	88.2	81.9	86.1							84.0	81.4	80.2						
		-2.6	-6.7	-2.1							+2.5	+3.8	+4.3						

(5) 小学校教育と中学校教育の連携

- 近隣等の小・中学校と教育目標の共有や、授業研究に関する研修会の合同開催、教員同士の交流を行っている」と回答した割合は、小・中学校ともに全国値を下回った。
- 近隣の小、中学校と教育課程に関する共通の取組や学力調査で把握した成果と課題を共有した」と回答した割合は、小中学校とも全国値を下回った。

質 問 事 項		小学校（％）									中学校（％）								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	近隣等の小・中学校と、教育目標を共有する取組を行った	38.4 -16.1									41.3 -20.2								
2	近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った	45.1 -17.4									55.8 -16.7								
3	近隣等の小・中学校と、意見を交換し合うなど、教員同士の交流を行った	67.9 -12.1									74.8 -10.3								
4	近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った	28.5 -18.6									36.4 -18.5								
5	平成２７年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した	37.6 -11.9									48.1 -5.8								

(6) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善

- 話し合い活動に関する児童生徒の学習状況について肯定的に捉えている割合は、小・中学校とも全国値を下回った項目が多い。
- 主体的・対話的で深い学びに関する児童生徒の学習状況について肯定的に捉えている割合は、小・中学校とも全国値を下回った項目が多い。

質 問 事 項		小学校（％）									中学校（％）								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている	68.1	71.0	66.4	63.3						73.3	69.7	65.3	59.1					
		-6.5	-0.9	-3.6	-4.5						0.0	+0.4	-0.3	-4.5					
2	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり広げたりすることができている	64.0	66.7	61.5							66.1	66.7	68.3						
		-5.2	+0.6	-2.3							-4.4	-0.5	+4.5						
3	児童・生徒は、自らが設定する課題や教員から設定された課題を理解して授業に取り組むことができている	89.6									87.9								
		-1.3									+0.7								
4	児童・生徒は授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている	57.2									52.4								
		-4.0									-7.3								
5	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れている	76.5	73.8								71.9	66.1							
		-3.6	+0.8								-0.7	+2.8							

(7) 教員研修

- 組織的、継続的な校内研修を実施していると回答した割合は、小・中学校とも全国値を上回った。
- 主体的・対話的で深い学びの視点による学習活動を学ぶ校内研修の実施について行っていると回答した割合は、小・中学校ともに全国値を下回った。

質 問 事 項		小学校（％）									中学校（％）								
		H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19	H28	H27	H26	H25	H24	H22	H21	H20	H19
1	校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っているか	99.7									98.5								
		+0.5									+0.8								
2	児童・生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っているか	63.2									63.2								
		-9.7									-0.4								

7 平均正答率の高い県との比較

宮城県全体の課題を明確に把握するため、質問紙調査の結果について、平成19年度の調査開始以来、平均正答率の高い県（以下、高位県）と比較している。

なお、比較に当たっては児童生徒質問紙調査から自尊意識、将来の夢や目標、基本的な生活習慣等、学校質問紙調査から職場体験等、特徴的な11項目を選択している。

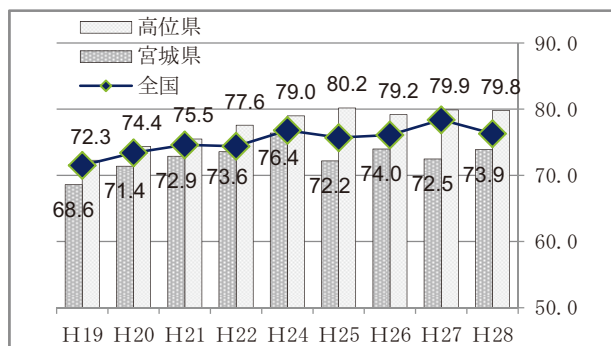
（1）比較の結果

＜児童生徒質問紙調査＞

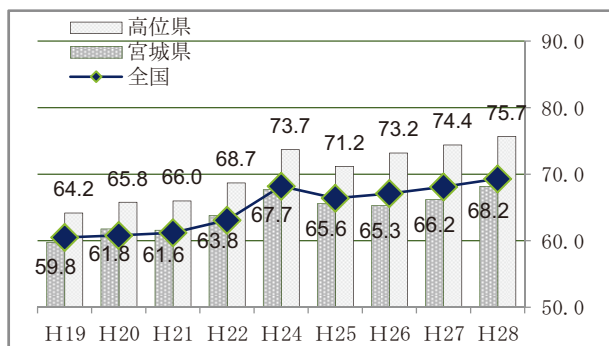
① 自尊意識、将来の夢や目標に関する項目

イ 「自分にはよいところがあると思いますか。」

【小学校】

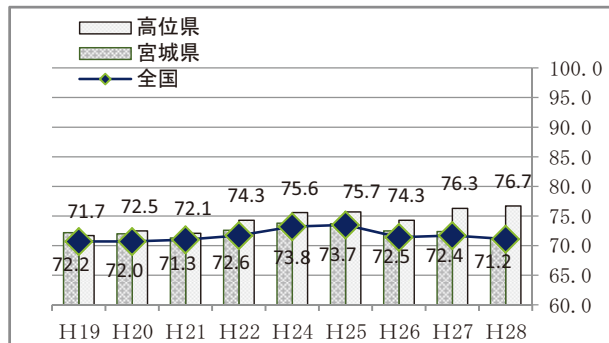
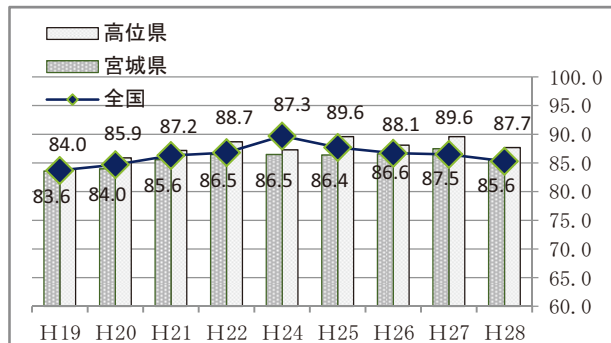


【中学校】



- ・小学生は、全国値及び高位県より低い。
- ・中学生は、全国値と同程度だが、高位県より低い。

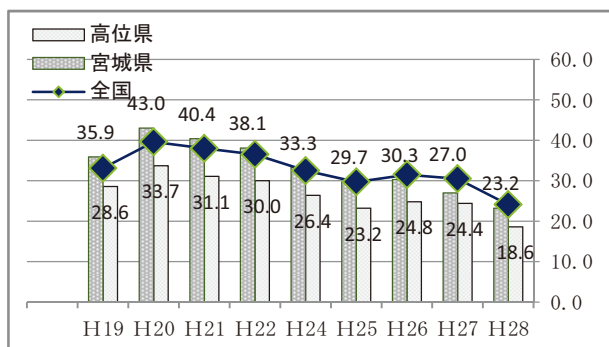
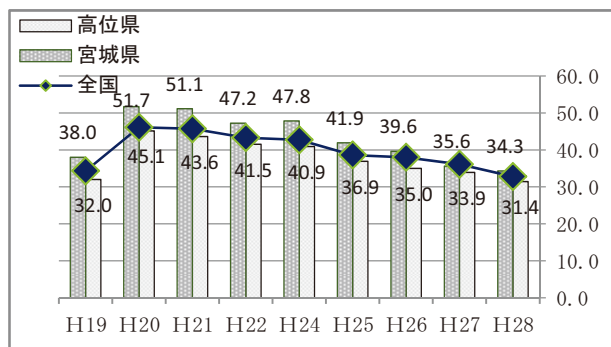
ロ 「将来の夢や目標を持っていますか。」



- ・小学生・中学生ともに、全国値と同程度だが、高位県より低い。

② 基本的な生活習慣に関する項目

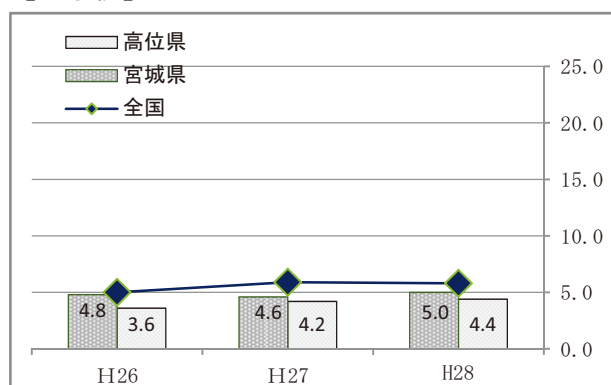
イ 「1日何時間、テレビ等を見ますか。」（3時間以上と回答した割合）



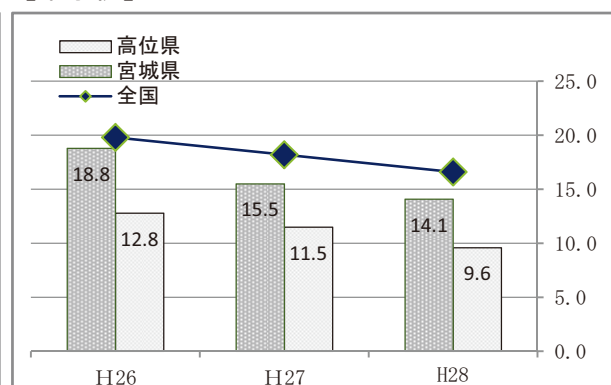
- ・小学生、中学生ともに、全国値と同程度だが、高位県より高い。

ロ 「1日何時間、スマートフォン等で通話やメール、インターネットをしますか。」
 (3時間以上と回答した割合)

【小学校】



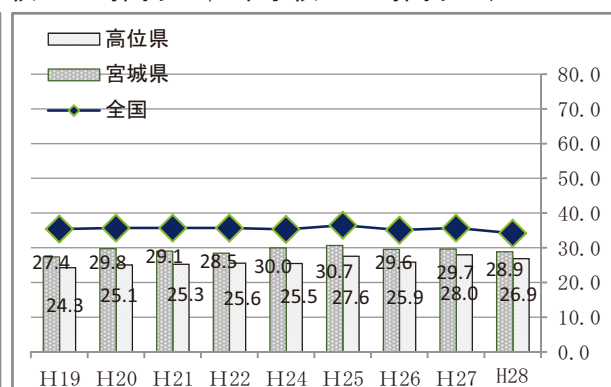
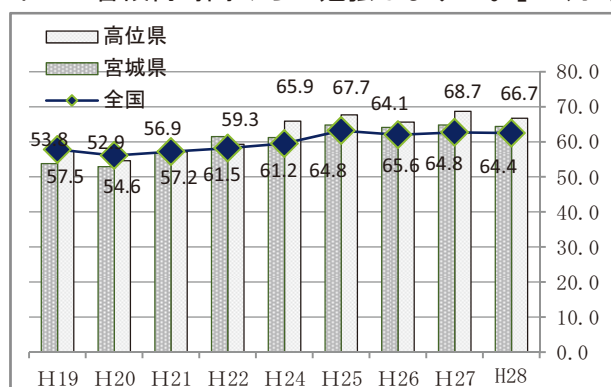
【中学校】



- ・小学生は、全国値より低い、高位県と同程度である。
- ・中学生は、全国値より低い、高位県より高い。

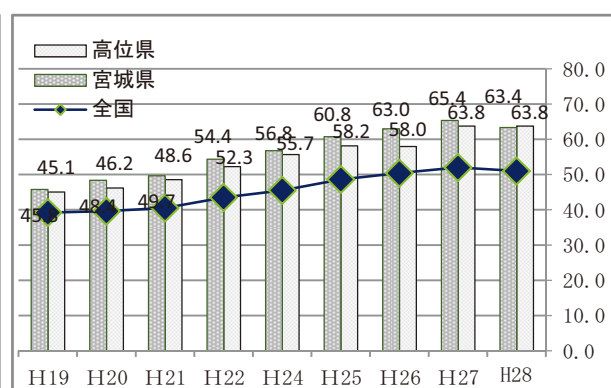
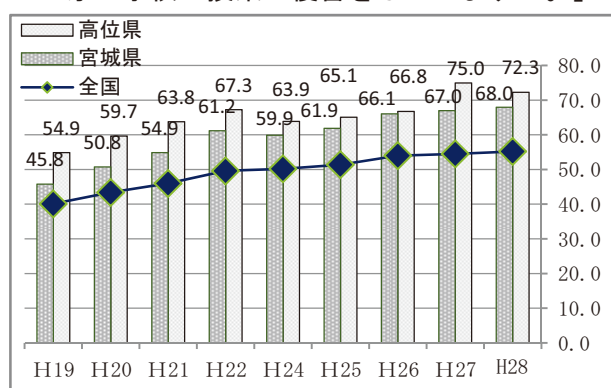
③ 学習習慣に関する質問事項の比較結果

イ 「普段何時間くらい勉強しますか。」 (小学校：1時間以上、中学校：2時間以上)



- ・小学生は、全国値より高い、高位県より低い。
- ・中学生は、全国値より低い、高位県より高く、この傾向が続いている。

ロ 「家で学校の授業の復習をしていますか。」

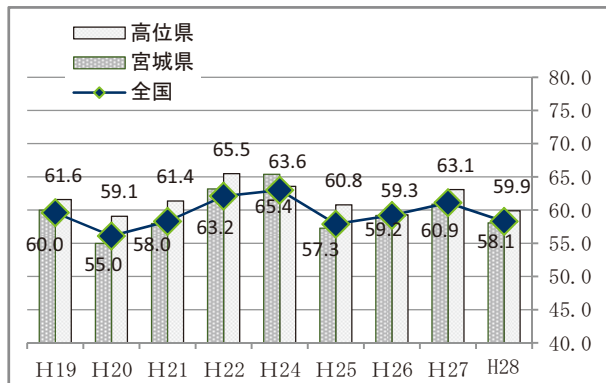


- ・小学生は、全国値を大きく上回っているが、高位県よりは低い。
- ・中学生は、全国値を大きく上回り、高位県と同程度である。

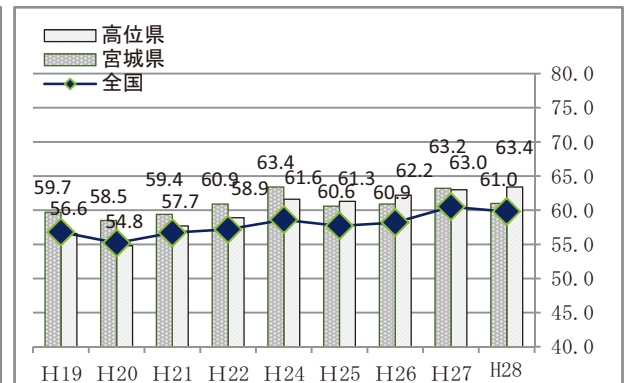
④ 教科への取組や関心・意欲・態度に関する質問事項の比較結果（児童生徒質問紙調査）

イ 「国語の勉強は好きですか。」

【小学校】

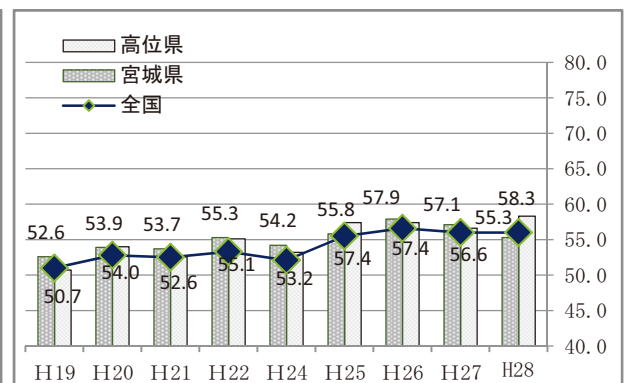
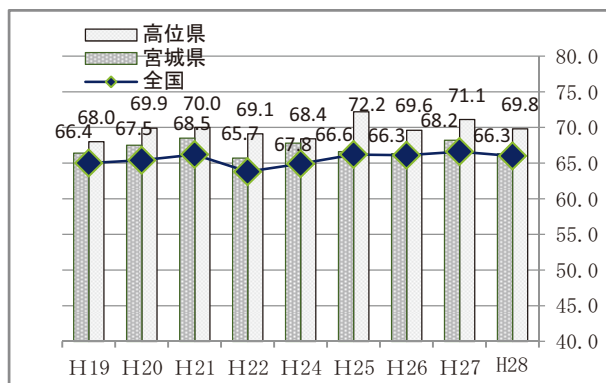


【中学校】



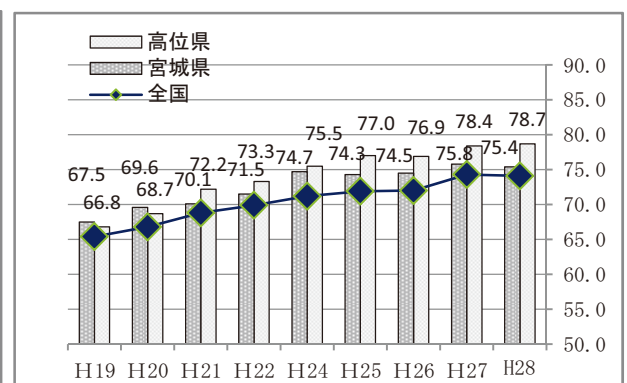
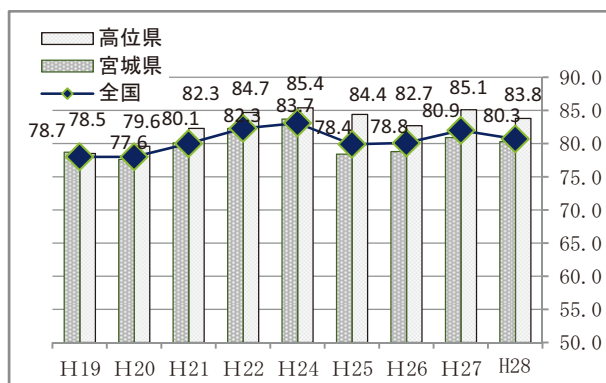
- ・小学生は、全国値及び高位県と同程度である。
- ・中学生は、全国値と同程度だが、高位県より低い。

ロ 「算数・数学の勉強は好きですか。」



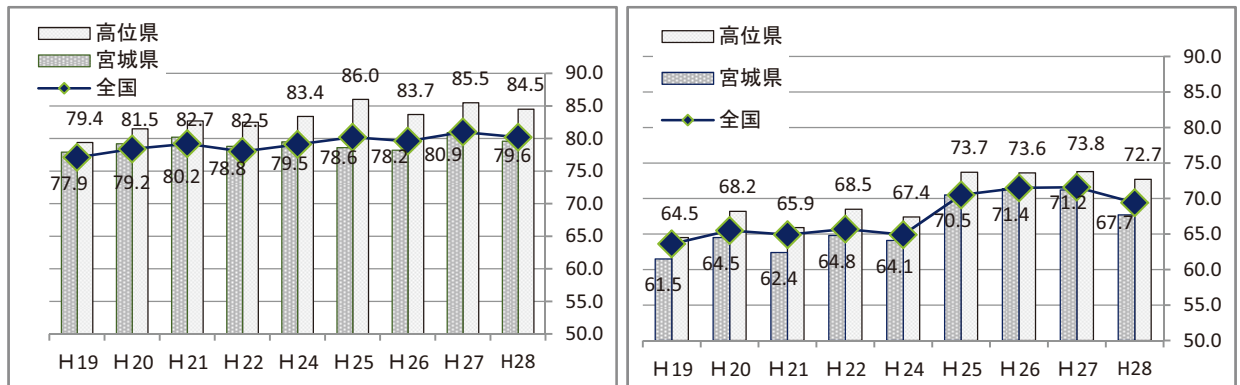
- ・小学生・中学生ともに、全国値と同程度だが、高位県より低い。

ハ 「国語の授業の内容はよく分かりますか。」



- ・小学生は、全国値と同程度だが、高位県より低い。
- ・中学生は全国値より高いが、高位県より低い。

二 「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。」

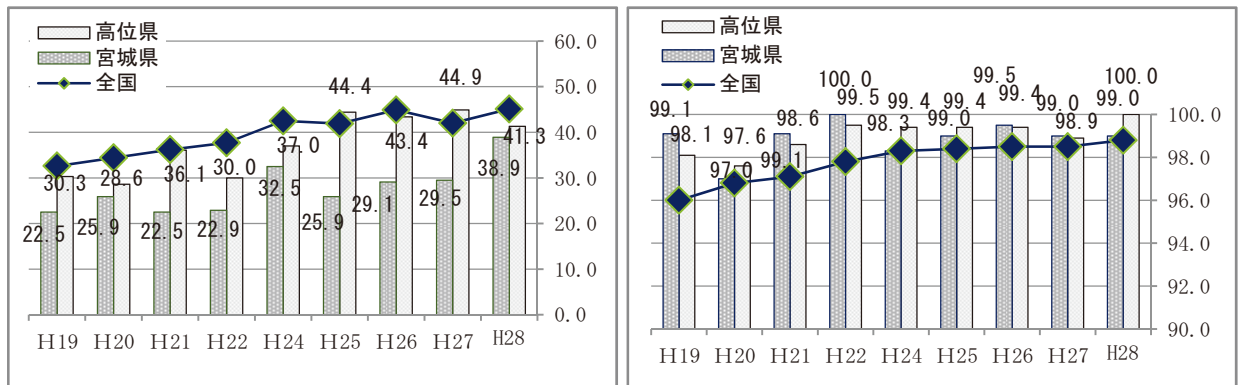


・小学生・中学生ともに全国値と同程度で高位県より低い。

<学校質問紙調査>

① 地域人材・施設の活用に関する質問事項の比較結果（学校質問紙調査）

イ 「職場見学や職場体験活動を行っていますか。」



・小学校は全国値及び高位県を下回っている。

・中学校は全国値及び高位県と同様でほぼ全校で行われている。

（２）高位県との比較から見てきた宮城県全体の課題と今後の方向性

高位県と宮城県の結果を比較すると、次の３つの項目について特にその差が大きいことが分かる。

- 「自分にはよいところがあると思いますか。」
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか。」
- 「算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。」

このことから、「自己有用感を育む学校生活」，そして「分かる授業」を学力向上の基礎と位置付け，意識的に取り組むことが求められる。今後は，各学校において「学力向上に向けた５つの提言」にある「子供をほめること，認めること」の重要性を再確認するとともに，学力向上対策「算数・数学ステップ・アップ５」等を参考にした「分かる授業」づくりを推進する必要があると考える。

8 質問紙調査と学力のクロス分析

1. 「学力向上に向けた5つの提言」について

(1) 児童生徒質問紙と学力のクロス分析

【小学校】【中学校】

- 以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- ・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う(32)…**提言2**関連
 - ・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う(53)…**提言3**関連
 - ・算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている(54)…**提言4**関連
 - ・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしている(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)(14)…**提言5**関連

※本文中の()内の番号は、当該記述に関係がある質問番号を示す。以下、同じ。

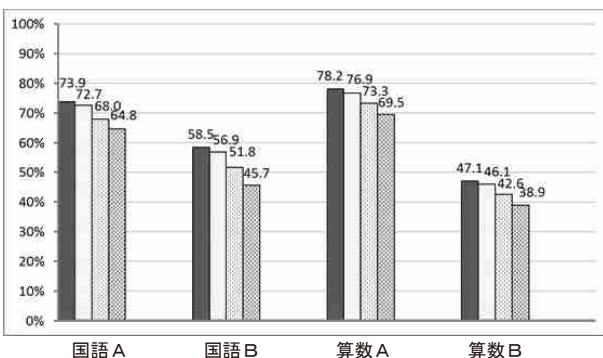
<資料の見方>

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまる ▩ 当てはまらない

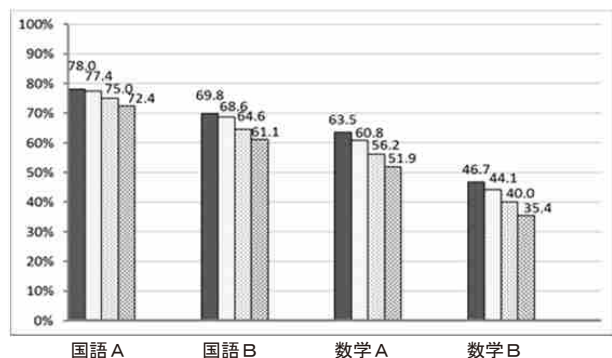
* グラフの数値は、それぞれの選択肢を選んだ児童生徒の平均正答率を表す。

	質問番号	質問事項
小	3 2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
中	3 2	

【小学校】

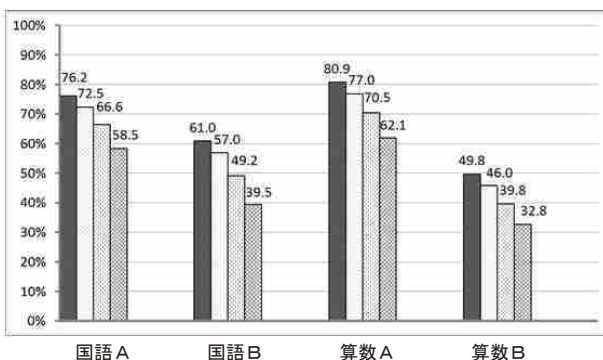


【中学校】

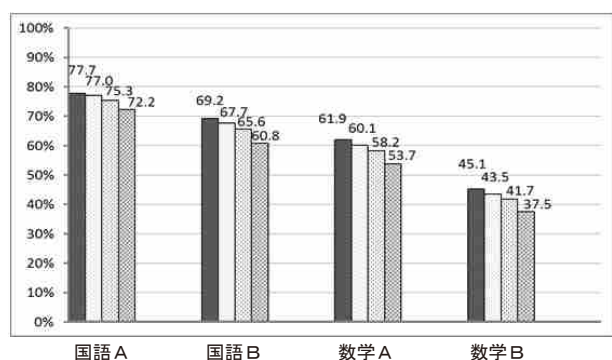


	質問番号	質問事項
小	5 3	5年生までに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか
中	5 3	1, 2年生のときに受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか

【小学校】

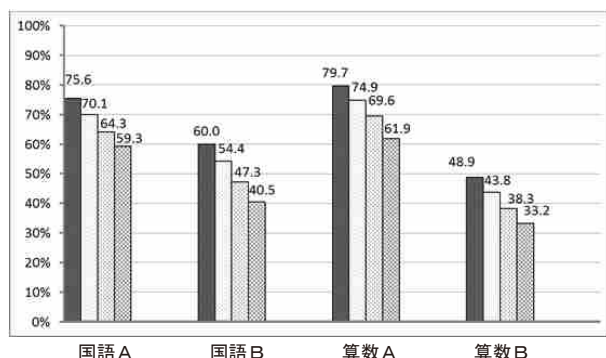


【中学校】

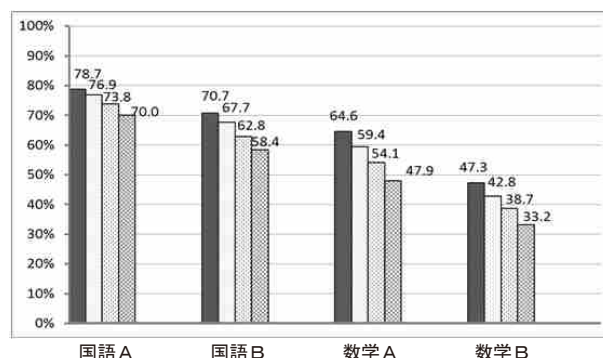


	質問番号	質問事項
小	80	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか
中	80	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

【小学校】



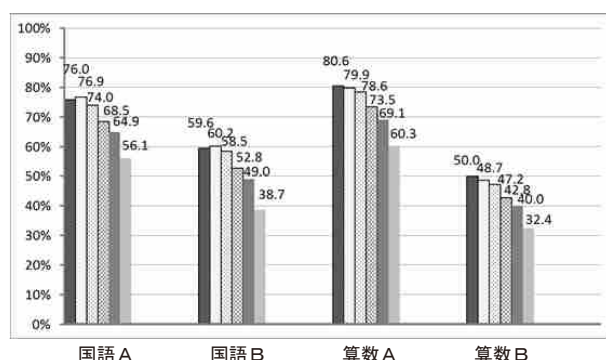
【中学校】



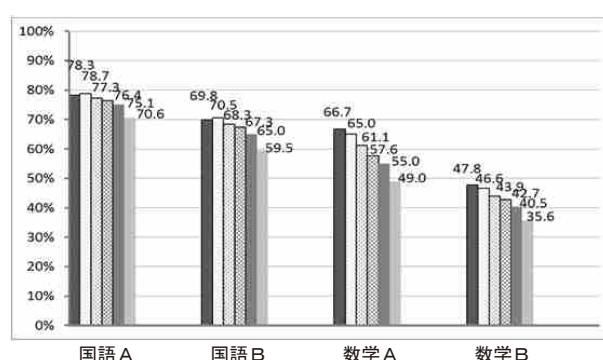
	質問番号	質問事項
小	14	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか
中	14	（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

☒ 3時間以上
☐ 2時間以上、3時間より少ない
☐ 1時間以上、2時間より少ない
☒ 30分以上、1時間より少ない
☐ 30分より少ない
☐ 全くしない

【小学校】



【中学校】



(2) 学校質問紙と学力のクロス分析

【小学校】【中学校】

○ 以下と回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

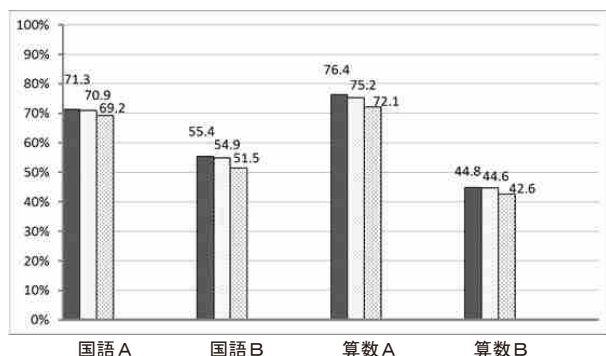
- ・ 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行った(70)…**提言4**関連
- ・ 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにした(国語／算数・数学共通)(99)…**提言5**関連

※質問紙と学力の関係を表したグラフにおいて、各質問項目に対して最も否定的な回答(「当てはまらない」等)を選んだ学校の数が5校未満の場合は、否定的な回答(「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」等)を合算して表示している。

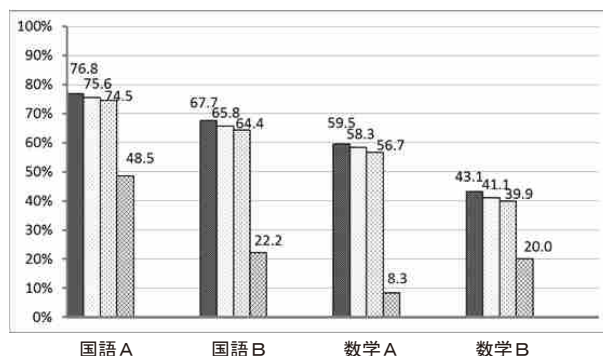
よく行った
 どちらかといえば、行った
 あまり行っていない
 全く行っていない

	質問番号	質問事項
小	70	調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか
中	70	

【小学校】

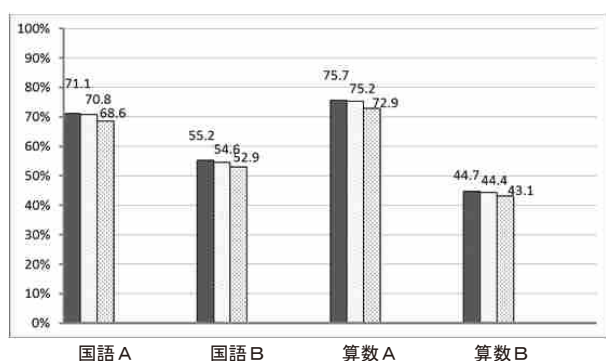


【中学校】

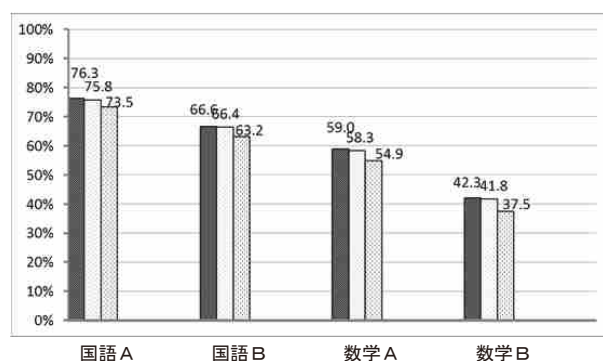


	質問番号	質問事項
小	99	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語／算数・数学共通)
中	99	

【小学校】



【中学校】



(3) 児童生徒質問紙と学校質問紙の比較

○ 以下の項目では、児童生徒調査の結果と学校質問紙調査の結果には隔たりが見られる。

提言2 関連

<児童生徒>・先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか(32)

<学 校>・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか(53)

提言3 関連①

<児童生徒>・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか(53)

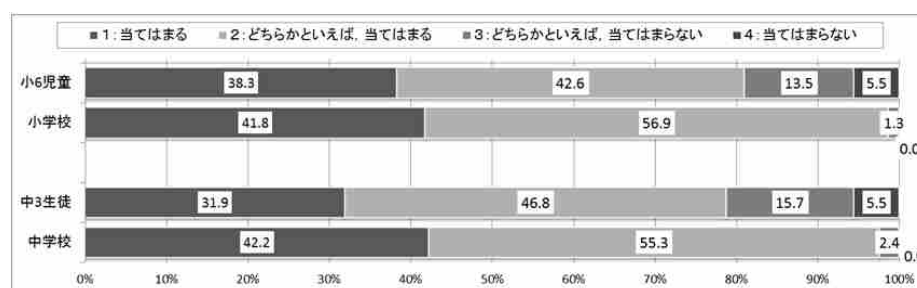
<学 校>・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れえましたか(36)

提言3 関連②

<児童生徒>・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか(54)

<学 校>・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れえましたか(37)

		質問番号	質問事項
児童生徒 質問紙調査	小	3 2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
	中	3 2	
学校 質問紙調査	小	5 3	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか
	中	5 3	



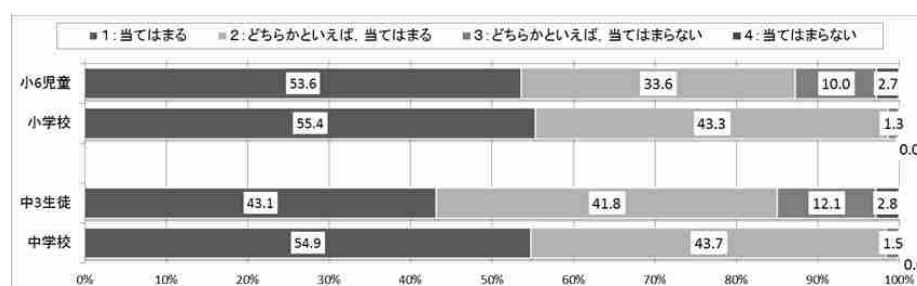
「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」を合計した割合で比較

17.8 ポイントの隔たり

18.8 ポイントの隔たり

※その他、無解答は含まず

		質問番号	質問事項
児童生徒 質問紙調査	小	5 3	5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか
	中	5 3	
学校 質問紙調査	小	3 6	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れえましたか
	中	3 6	

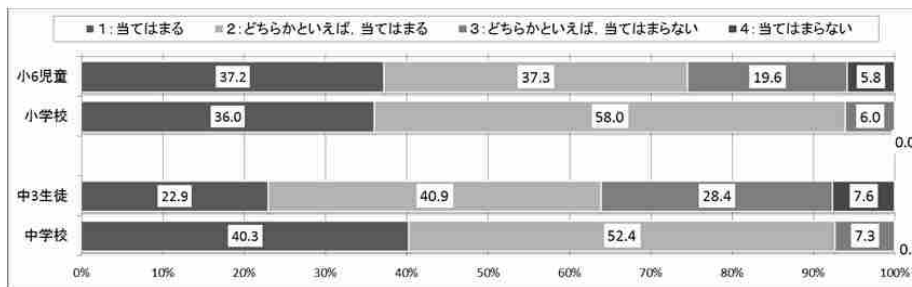


11.5 ポイントの隔たり

13.7 ポイントの隔たり

※その他、無解答は含まず

		質問番号	質問事項
児童生徒 質問紙調査	小	5 4	5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか
	中	5 4	
学校 質問紙調査	小	3 7	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか
	中	3 7	



19.5 ポイントの隔たり

28.9 ポイントの隔たり

※その他、無解答は含まず

- この3つの項目について調査結果を比較すると、いずれも児童生徒と教師の意識の間に隔たりが見られる。この隔たりがなくなるよう普段から意識して指導することが学力向上にとって重要であることから、学力向上の基盤となる「5つの提言」について、今後も全ての教室でさらに徹底する必要がある。

2. 志教育

(1) 児童生徒質問紙と学力のクロス分析

【小学校】【中学校】

○ 以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

〔人と「かかわる」〕

・自分には、よいところがあると思う(6)

〔よりよい生き方を「もとめる」〕

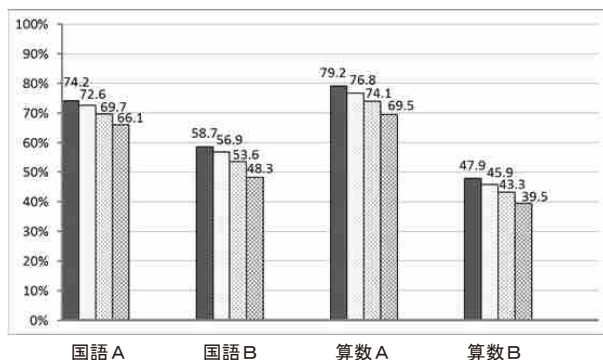
・人の役に立つ人間になりたいと思う(43)

〔社会での役割を「はたす」〕

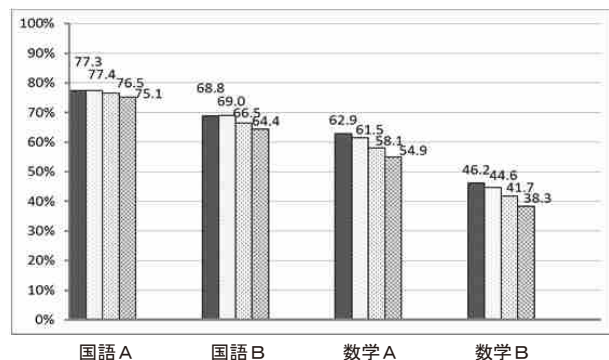
・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある(4)

	質問番号	質問事項
小	6	自分には、よいところがあると思いますか
中	6	

【小学校】

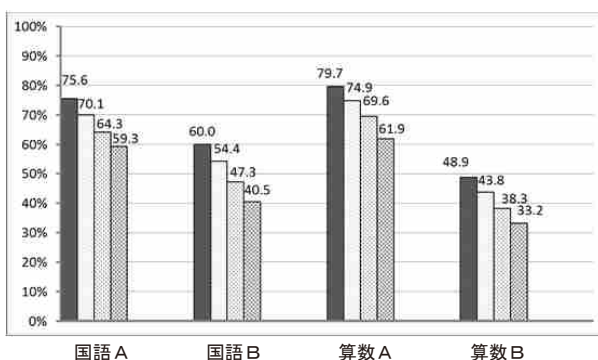


【中学校】

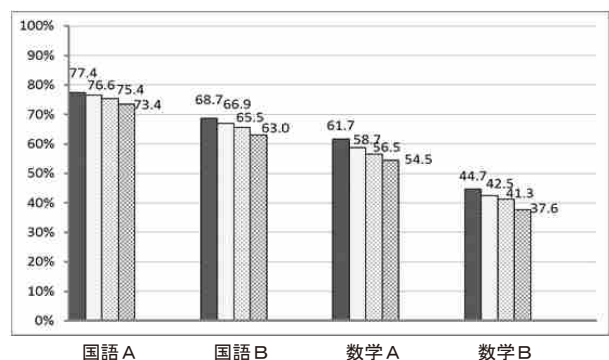


	質問番号	質問事項
小	4 3	人の役に立つ人間になりたいと思いますか
中	4 3	

【小学校】

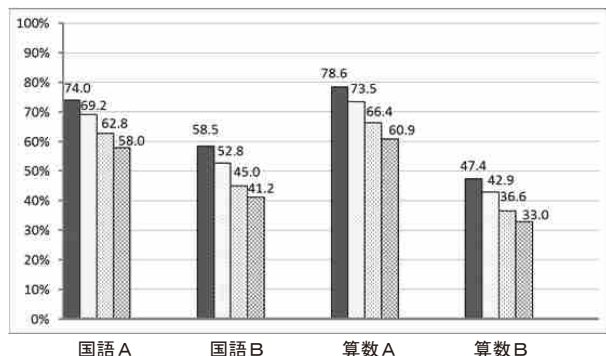


【中学校】

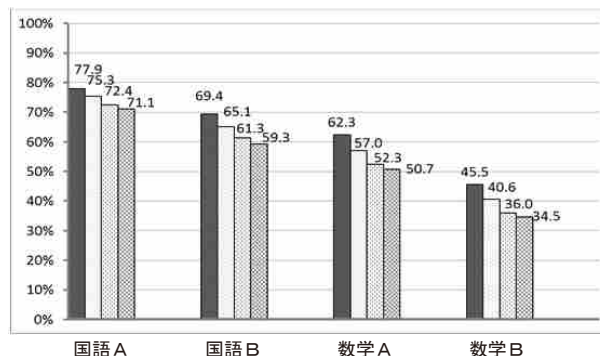


	質問番号	質問事項
小	4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
中	4	

【小学校】



【中学校】



(2) 児童生徒質問紙と学校質問紙の比較

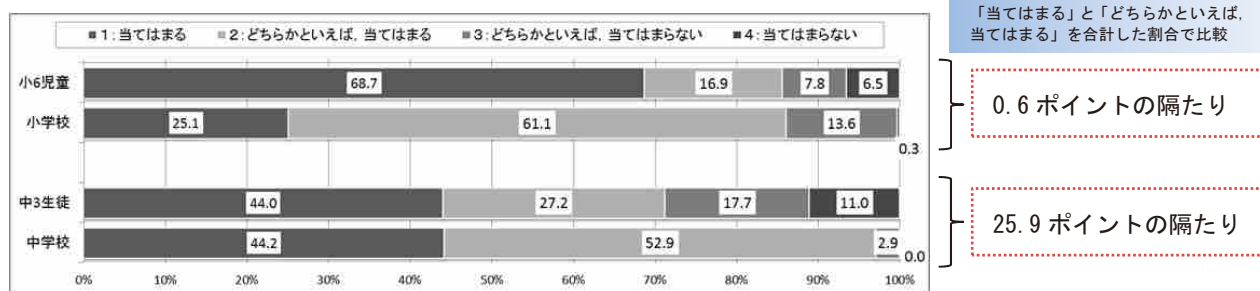
○ 以下の項目では、児童生徒質問紙調査の結果と学校質問紙調査の結果には隔たりが見られる。

〔夢や目標〕

＜児童生徒＞・将来の夢や目標を持っていますか(9)

＜学 校＞・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか(48)

	質問番号	質問事項
児童生徒 質問紙調査	小 9	将来の夢や目標を持っていますか
	中 9	
学校 質問紙調査	小 4 8	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか
	中 4 8	



※その他、無解答は含まず

3. 学校生活

(1) 児童生徒質問紙と学力のクロス分析

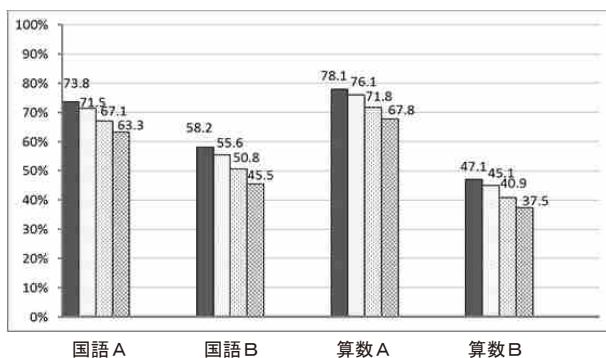
【小学校】【中学校】

○ 以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

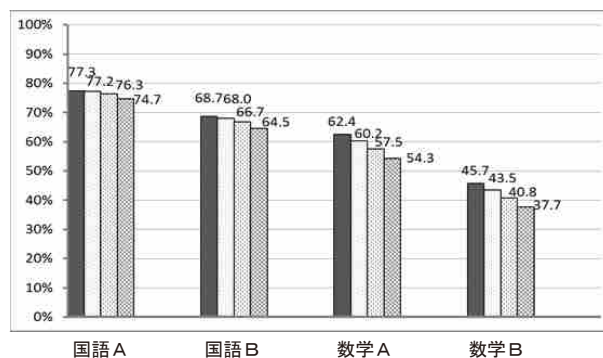
- ・学校に行くのは楽しいと思う(26)
- ・学校で、友達に会うのは楽しいと思う(27)
- ・学校で、好きな授業がある(28)

	質問番号	質問事項
小	26	学校に行くのは楽しいと思いますか
中	26	

【小学校】

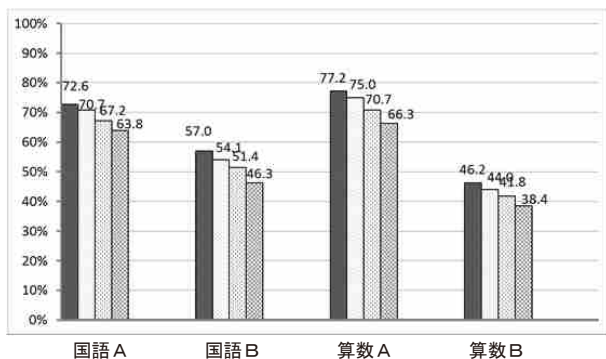


【中学校】

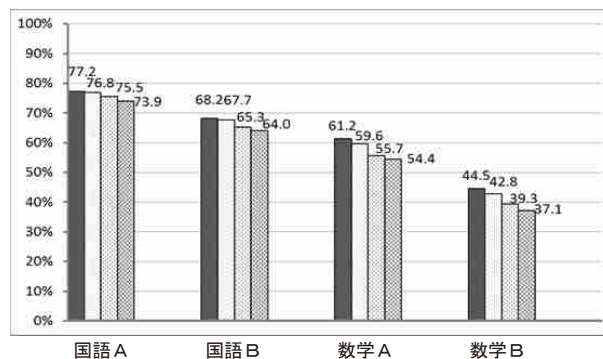


	質問番号	質問事項
小	27	学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか
中	27	

【小学校】

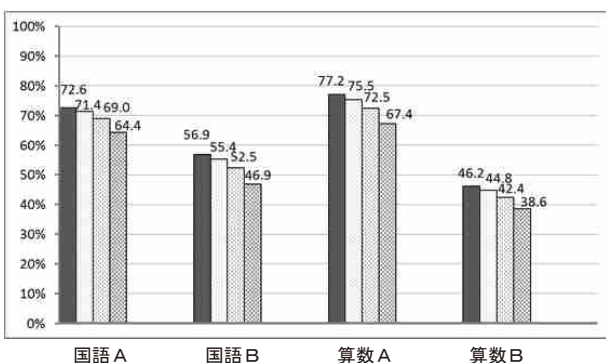


【中学校】

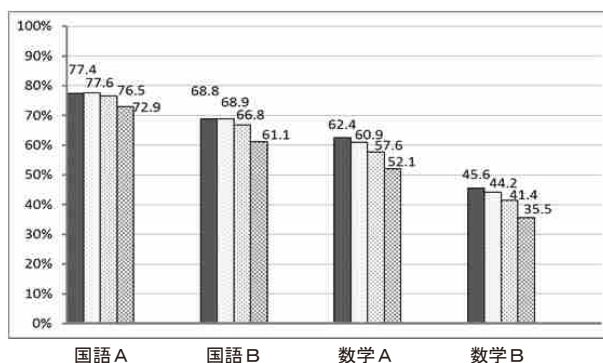


	質問番号	質問事項
小	28	学校で、好きな授業がありますか
中	28	

【小学校】



【中学校】



4. 学習習慣

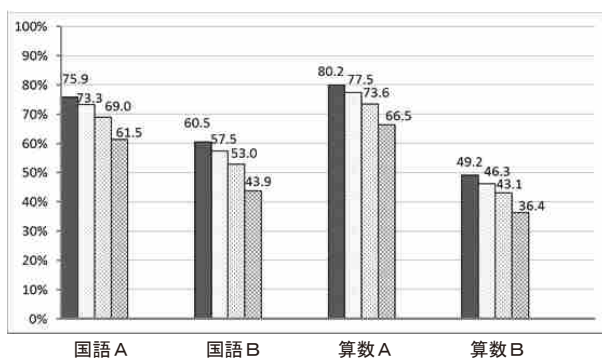
(1) 児童生徒質問紙と学力のクロス分析

【小学校】【中学校】

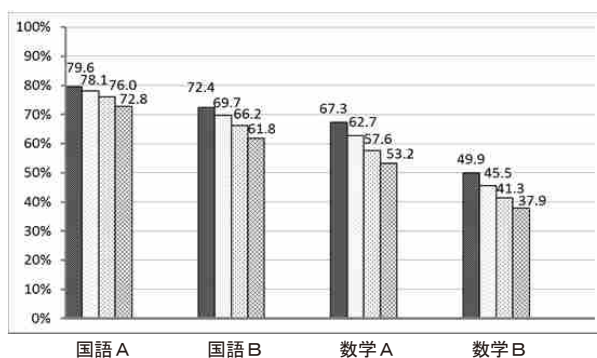
- 以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- ・家で、自分で計画を立てて勉強をしている(21)
 - ・家で、学校の宿題をしている(22)
 - ・家で、学校の授業の予習をしている(23)
 - ・家で、学校の授業の復習をしている(24)
 - ・家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している(25)

	質問番号	質問事項
小	2 1	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか
中	2 1	

【小学校】

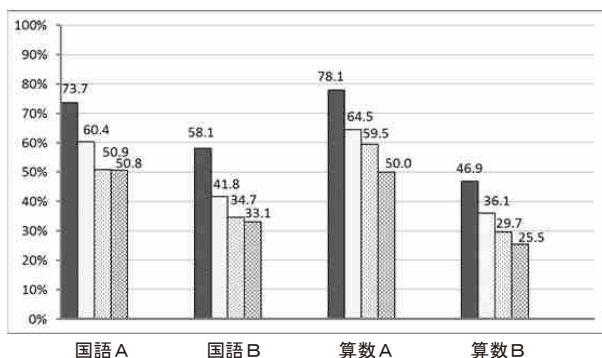


【中学校】

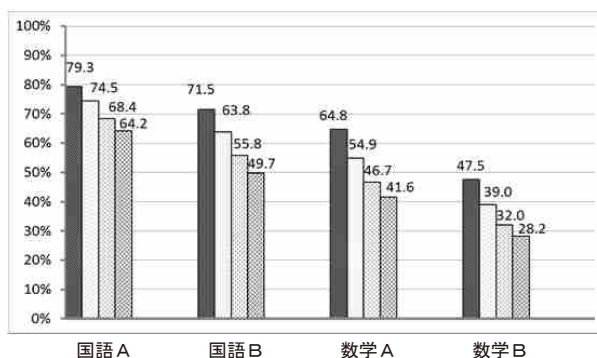


	質問番号	質問事項
小	2 2	家で、学校の宿題をしていますか
中	2 2	

【小学校】

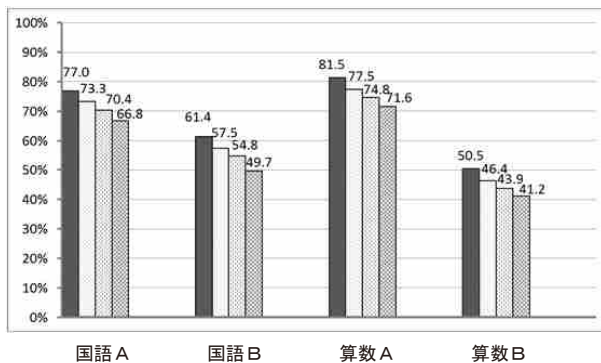


【中学校】

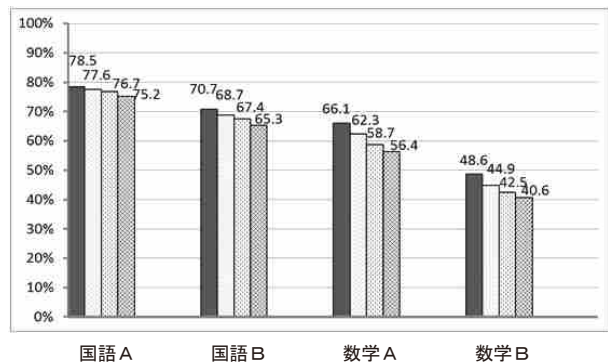


	質問番号	質問事項
小	2 3	家で、学校の授業の予習をしていますか
中	2 3	

【小学校】

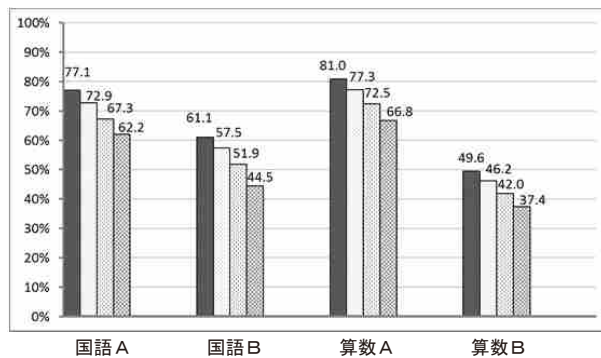


【中学校】

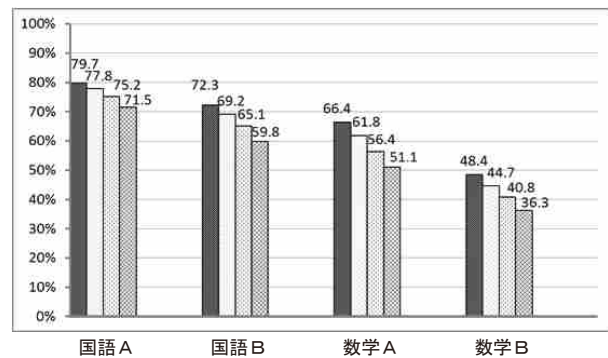


	質問番号	質問事項
小	2 4	家で、学校の授業の復習をしていますか
中	2 4	

【小学校】

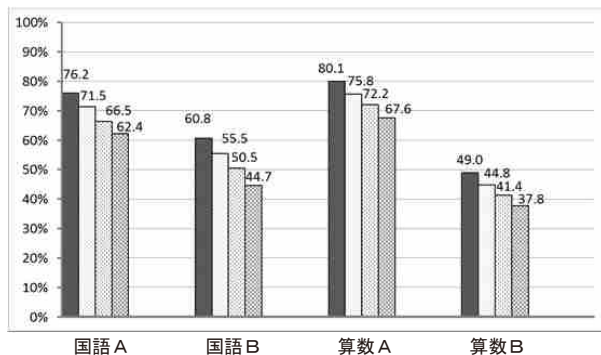


【中学校】

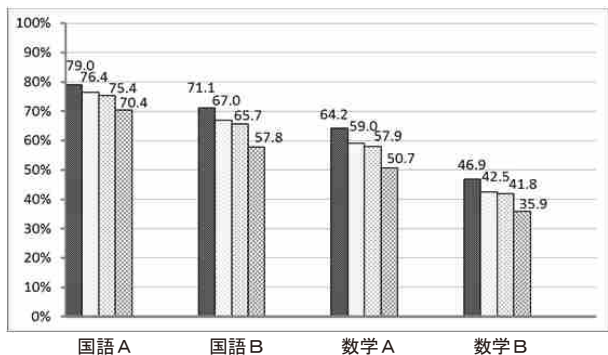


	質問番号	質問事項
小	2 5	家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか
中	2 5	

【小学校】



【中学校】



5. 各教科の学習状況

(1) 児童生徒質問紙と学力のクロス分析

【小学校】【中学校】

- 教科の学習状況については、肯定的な回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。以下、代表例をあげる。

<国語>

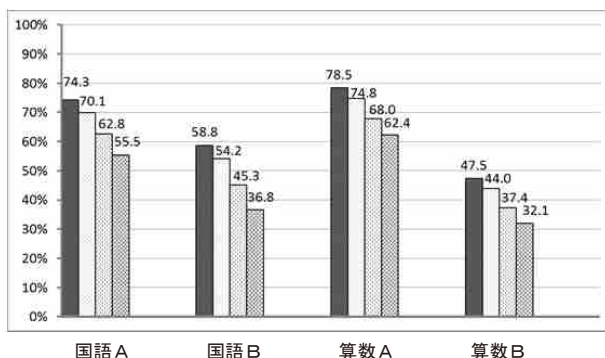
- ・国語の勉強は大切だと思う(62)
- ・国語の授業の内容はよく分る(63)
- ・読書は好きですか(64)
- ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている(68)

<算数・数学>

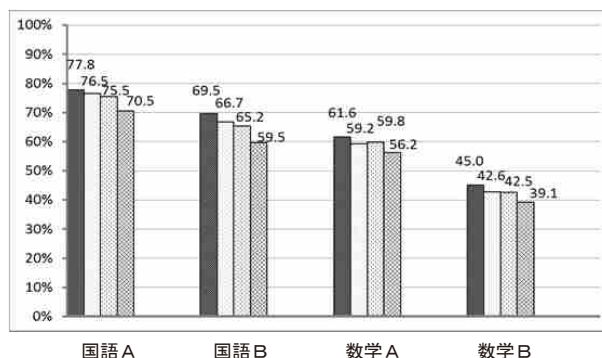
- ・算数[数学]の勉強は好きだ(71)
- ・算数[数学]の勉強は大切だと思う(72)
- ・算数[数学]の授業の内容はよく分かる(73)
- ・算数[数学]の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う(小 74)
- ・数学ができるようになりたいと思う(中 74)
- ・算数[数学]の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える(75)
- ・算数[数学]の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている(80)

	質問番号	質問事項
小	6 2	国語の勉強は大切だと思いますか
中	6 2	

【小学校】

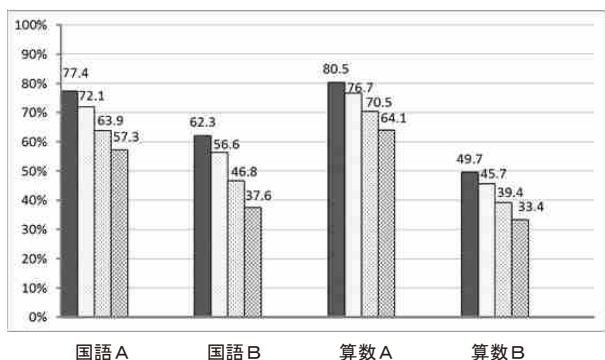


【中学校】

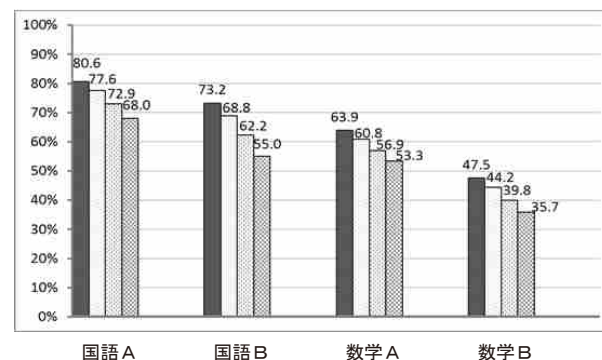


	質問番号	質問事項
小	6 3	国語の授業の内容はよく分かりますか
中	6 3	

【小学校】

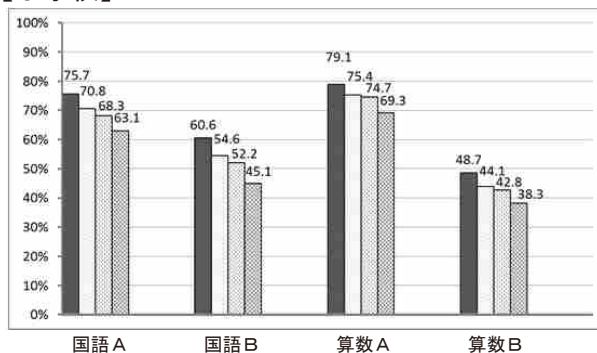


【中学校】

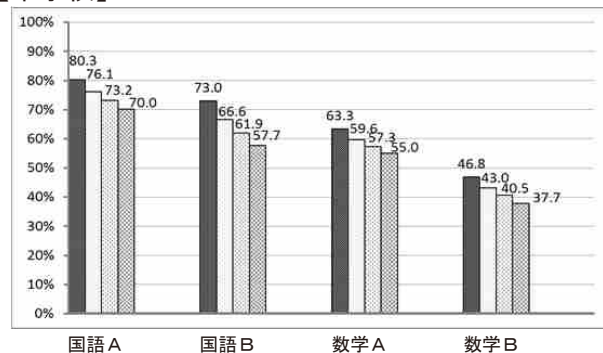


	質問番号	質問事項
小	6 4	読書は好きですか
中	6 4	

【小学校】

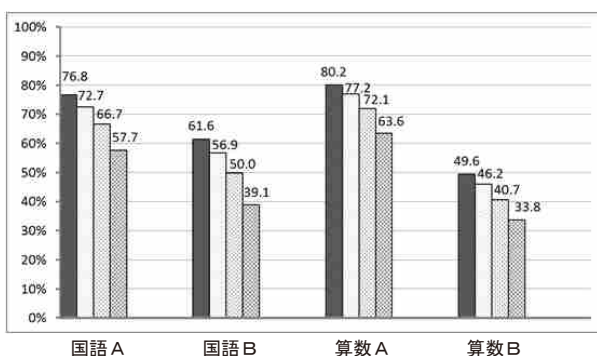


【中学校】

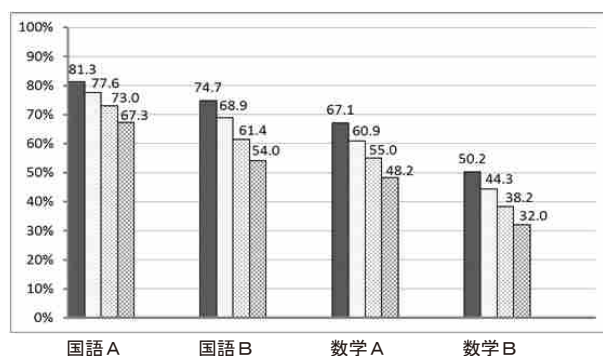


	質問番号	質問事項
小	6 8	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか
中	6 8	

【小学校】

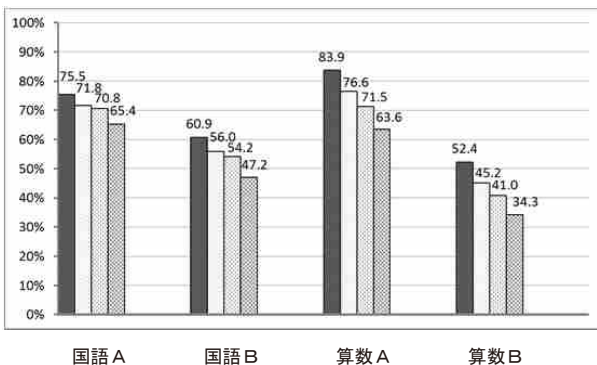


【中学校】

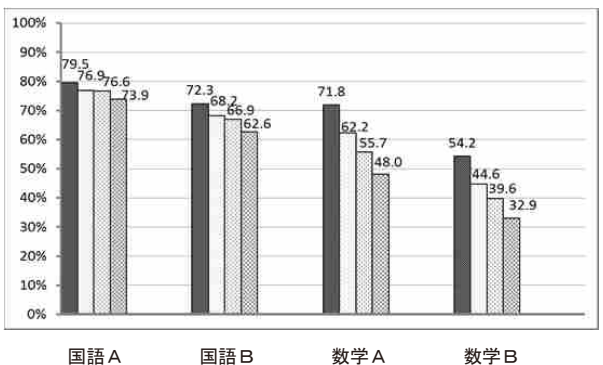


	質問番号	質問事項
小	7 1	算数[数学]の勉強は好きですか
中	7 1	

【小学校】

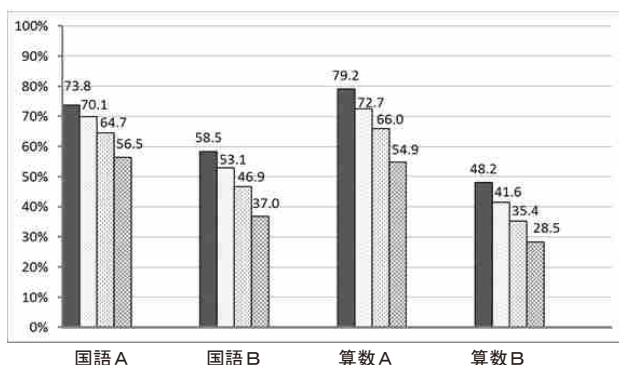


【中学校】

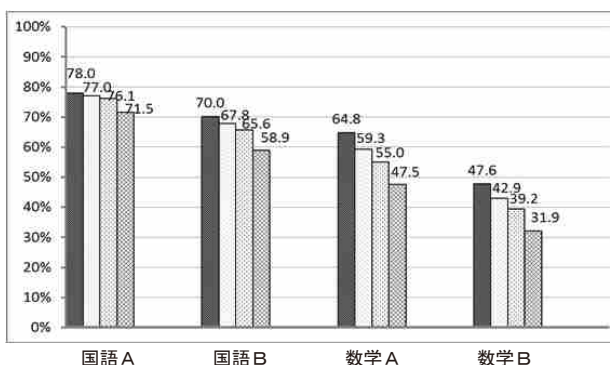


	質問番号	質問事項
小	7 2	算数[数学]の勉強は大切だと思いますか
中	7 2	

【小学校】

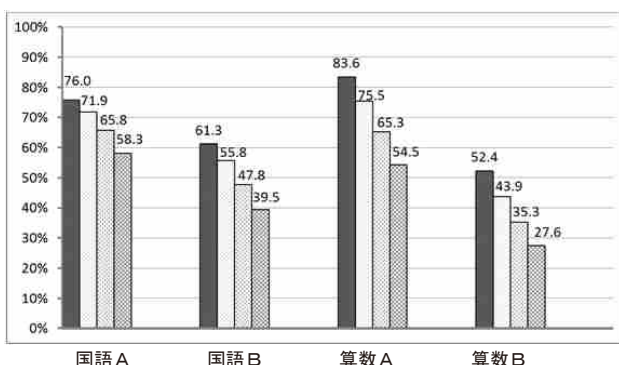


【中学校】

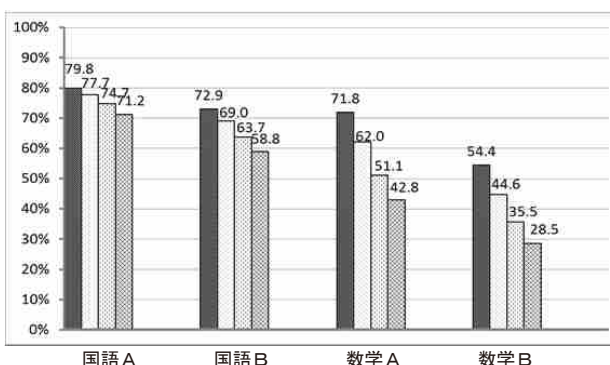


	質問番号	質問事項
小	7 3	算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか
中	7 3	

【小学校】

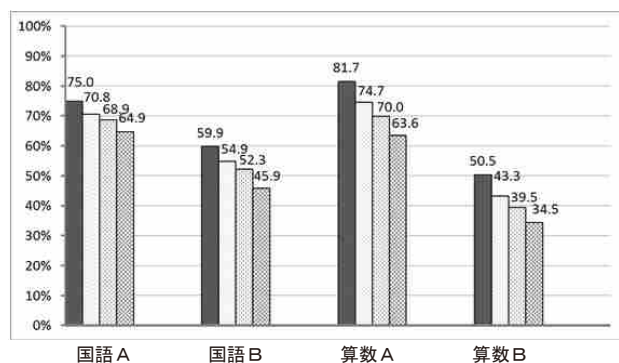


【中学校】

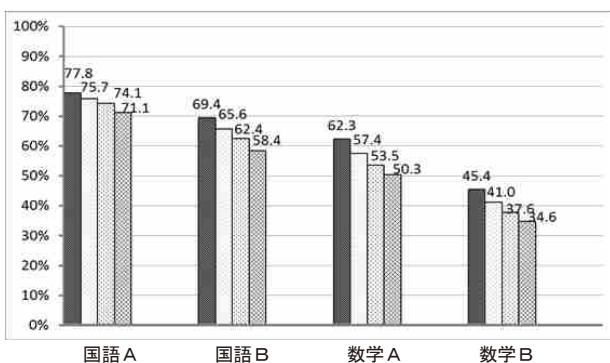


	質問番号	質問事項
小	7 4	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか
中	7 4	

【小学校】

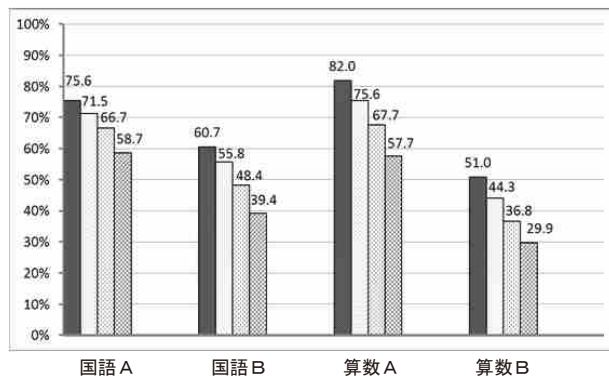


【中学校】

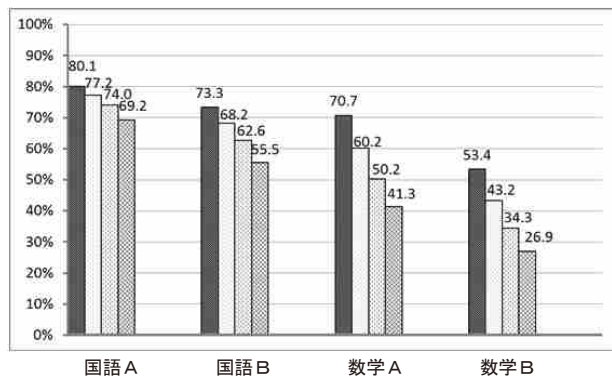


	質問番号	質問事項
小	7 5	算数[数学]の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか
中	7 5	

【小学校】

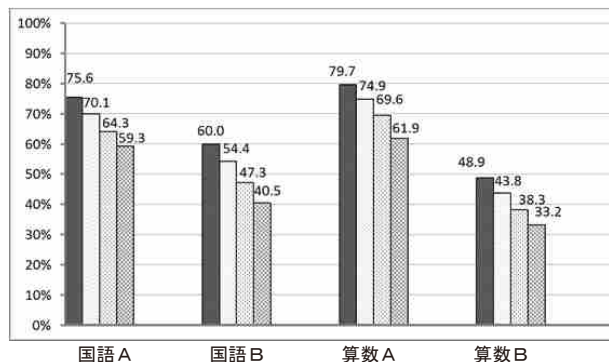


【中学校】

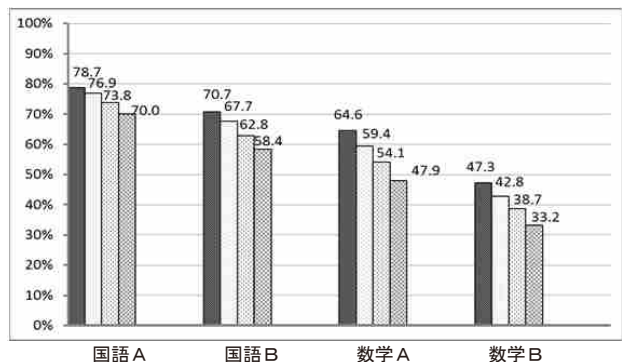


	質問番号	質問事項
小	8 0	算数[数学]の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか<再掲>
中	8 0	

【小学校】



【中学校】



6. 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善の取組状況

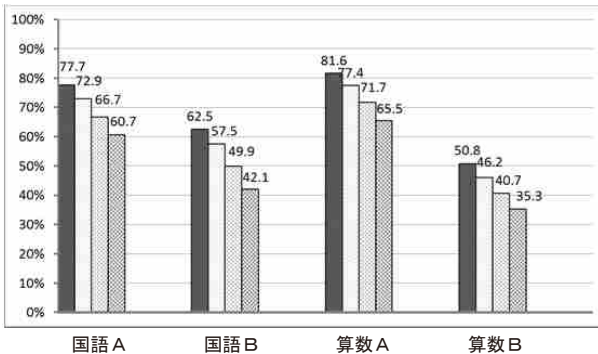
(1) 児童生徒質問紙と学力のクロス分析

【小学校】【中学校】

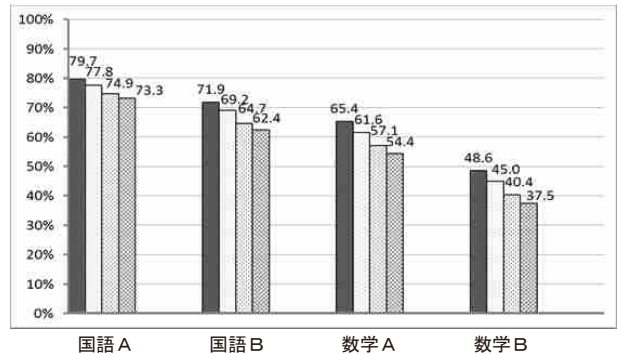
- 以下と回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる(46)
 - ・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う(47)
 - ・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う(48)
 - ・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業では、児童生徒との間で話し合う活動をよく行っていたと思う(49)
 - ・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業では、学級の友達と[生徒]の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う(51)
 - ・5年生までに[1, 2年生のときに]受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う(52)
 - ・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う(58)
 - ・学級の友達と[生徒]の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う(59)
 - ・国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている(66)
 - ・国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している(67)
 - ・国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている(68)

	質問番号	質問事項
小	4 6	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
中	4 6	

【小学校】

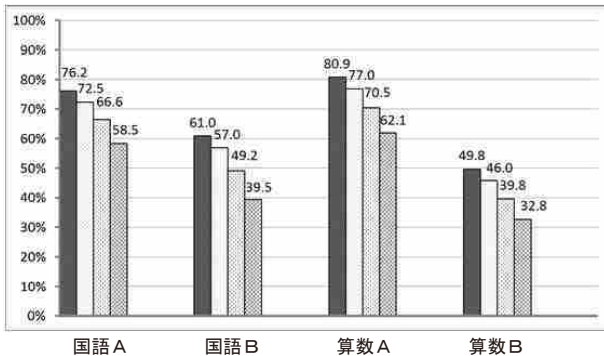


【中学校】

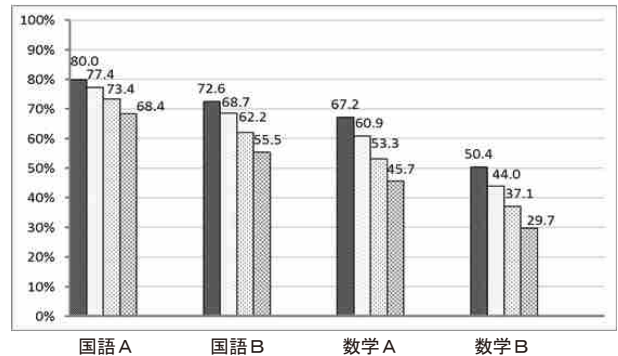


	質問番号	質問事項
小	4 7	5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか
中	4 7	

【小学校】

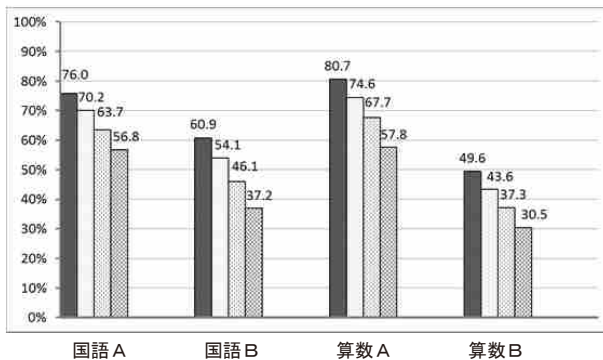


【中学校】

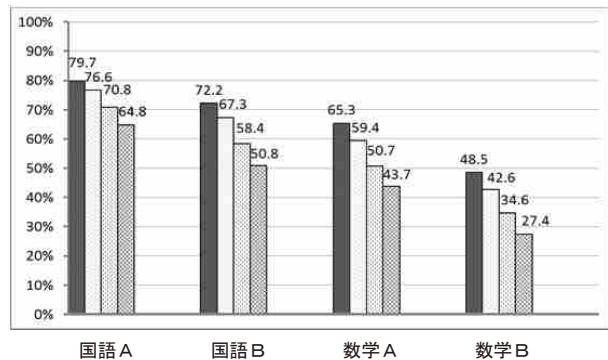


	質問番号	質問事項
小	4 8	5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか
中	4 8	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか

【小学校】

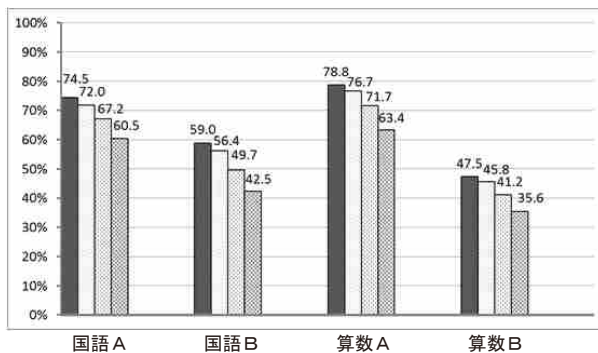


【中学校】

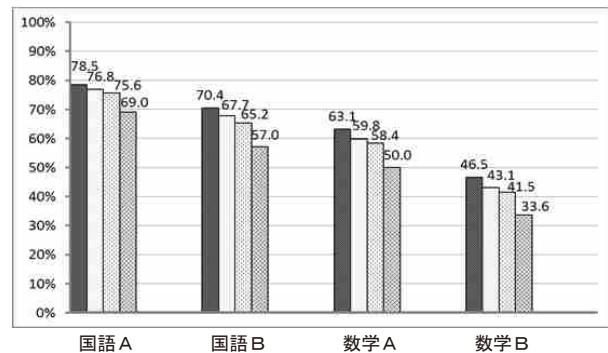


	質問番号	質問事項
小	4 9	5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか
中	4 9	1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか

【小学校】

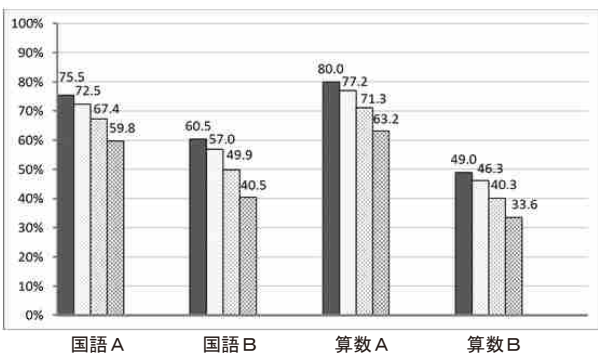


【中学校】

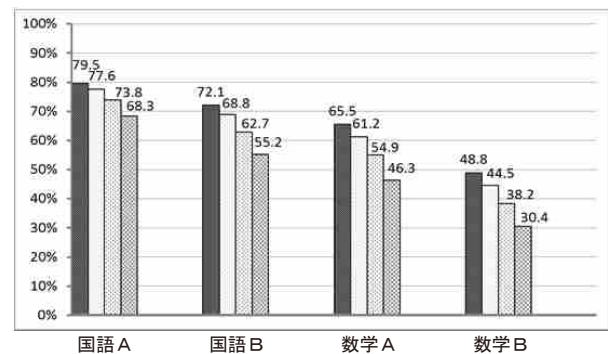


	質問番号	質問事項
小	5 1	5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか
中	5 1	1, 2年生のときに受けた授業で、生徒の間に話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか

【小学校】

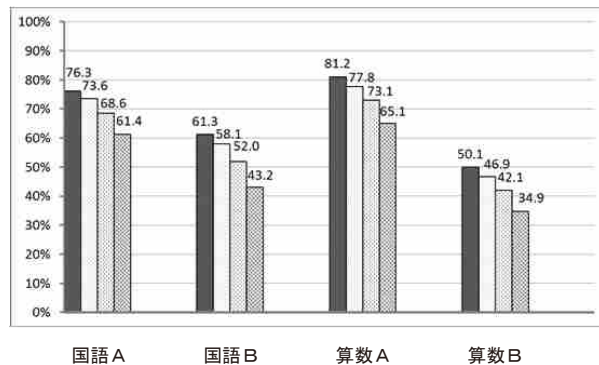


【中学校】

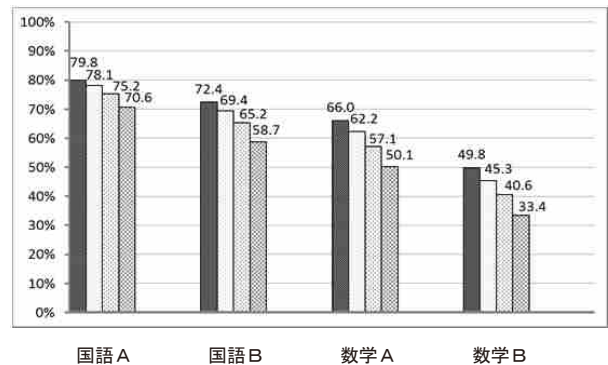


	質問番号	質問事項
小	52	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか
中	52	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか

【小学校】

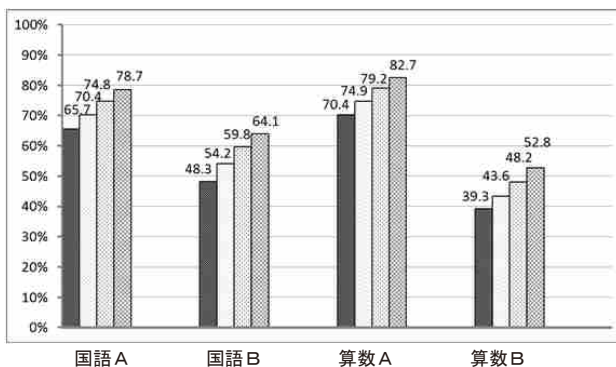


【中学校】

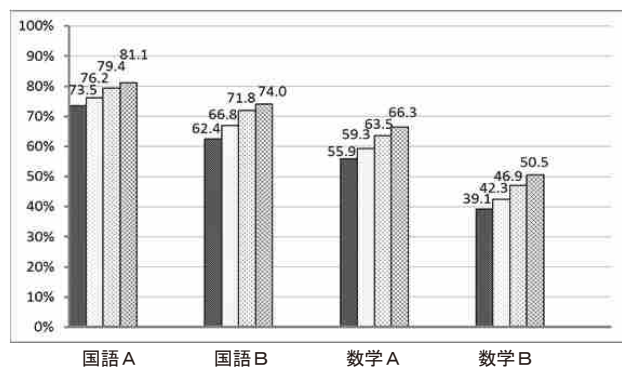


	質問番号	質問事項
小	58	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか
中	58	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか

【小学校】

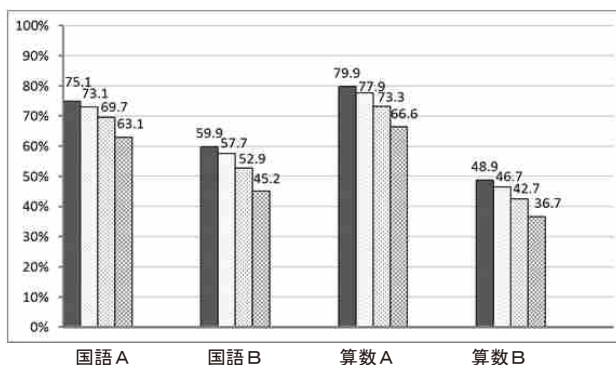


【中学校】

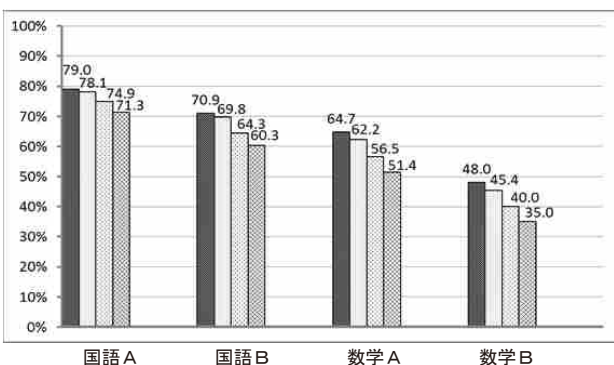


	質問番号	質問事項
小	59	生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
中	59	生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

【小学校】

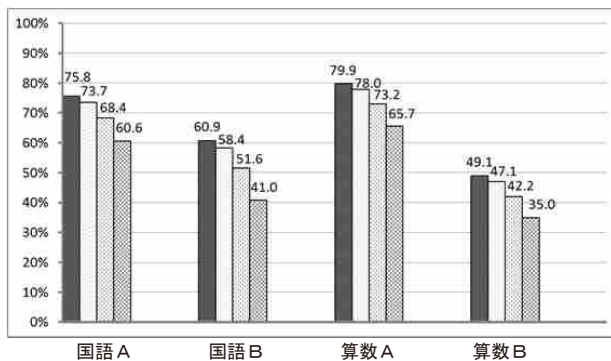


【中学校】

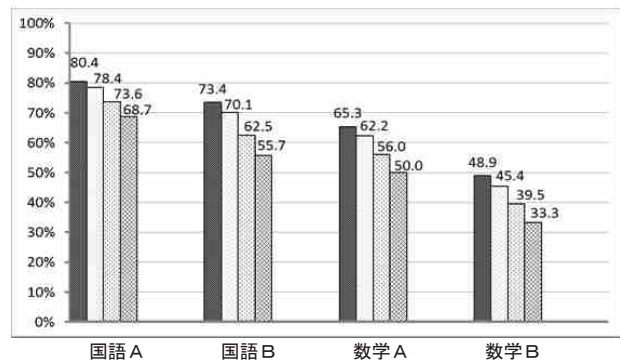


	質問番号	質問事項
小	6 6	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか
中	6 6	

【小学校】

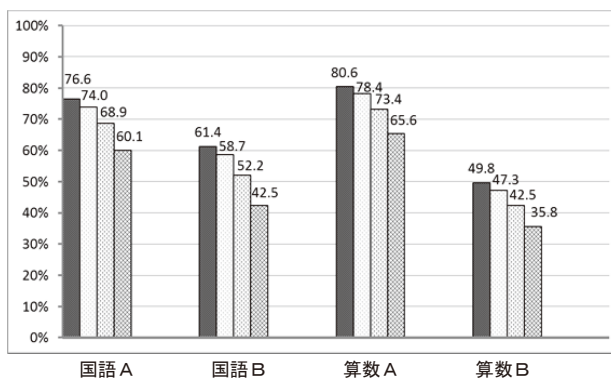


【中学校】

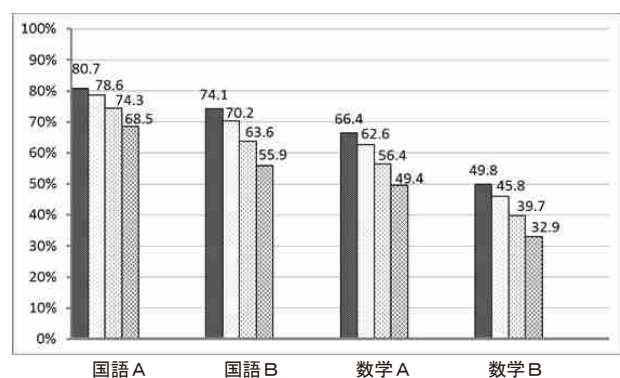


	質問番号	質問事項
小	6 7	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか
中	6 7	

【小学校】

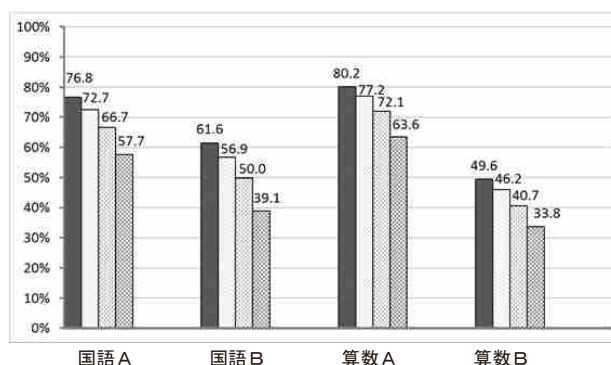


【中学校】

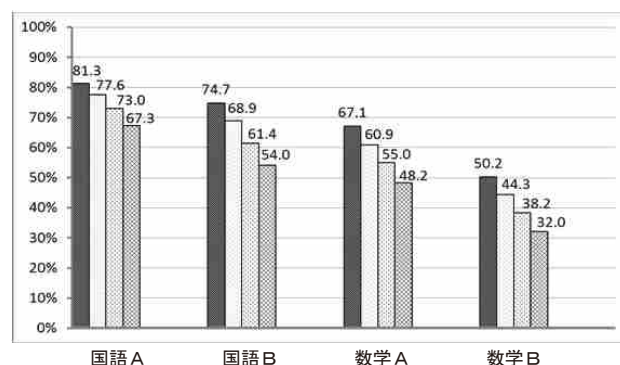


	質問番号	質問事項
小	6 8	国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか
中	6 8	

【小学校】



【中学校】



(2) 学校質問紙と学力のクロス分析

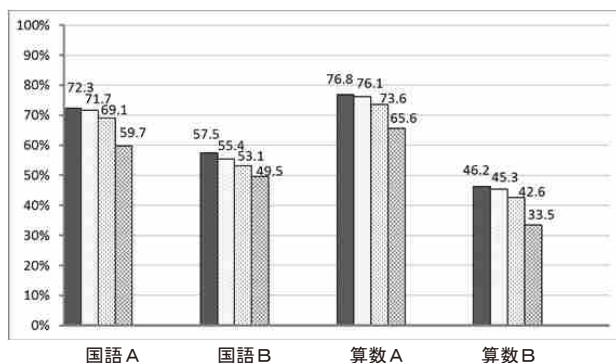
【小学校】【中学校】

○以下と回答している学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

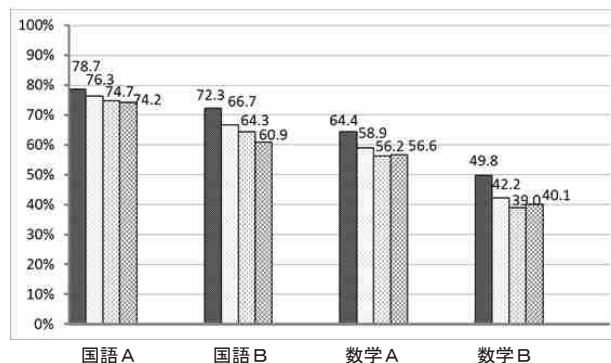
- ・調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う(17)
- ・調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思う(18)
- ・調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う(19)
- ・調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思う(20)
- ・調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思う(21)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした(35)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした(39)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めた(40)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行った(42)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導した(46)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした(47)
- ・調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた(小 98, 中 96)

	質問番号	質問事項
小	1 7	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思う
中	1 7	

【小学校】

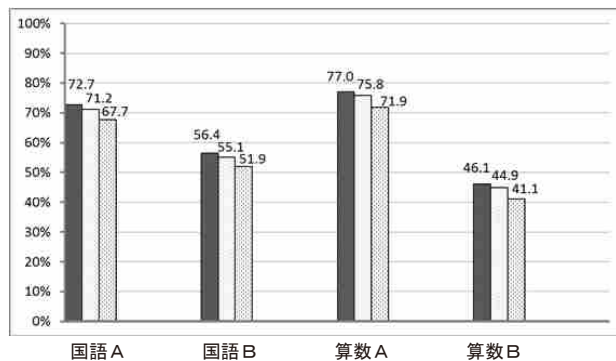


【中学校】

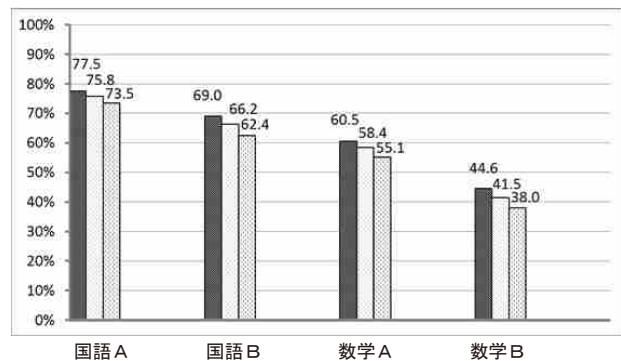


	質問番号	質問事項
小	18	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか
中	18	

【小学校】

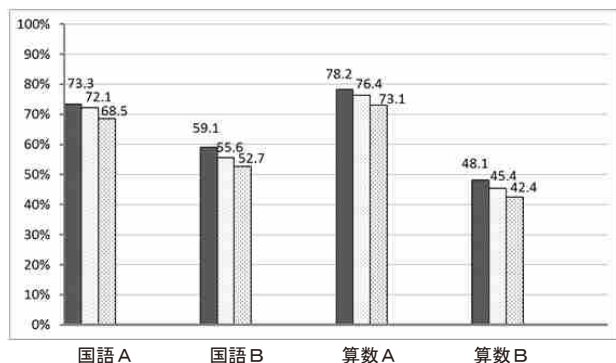


【中学校】

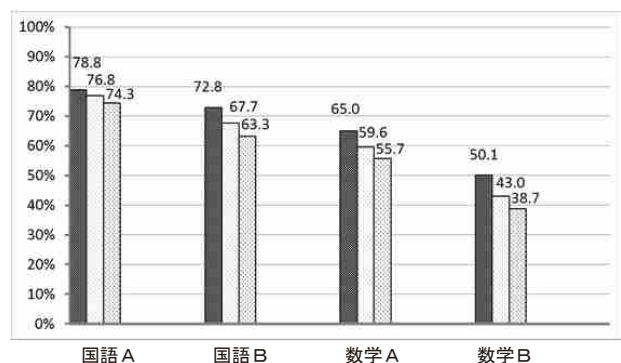


	質問番号	質問事項
小	19	調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
中	19	

【小学校】

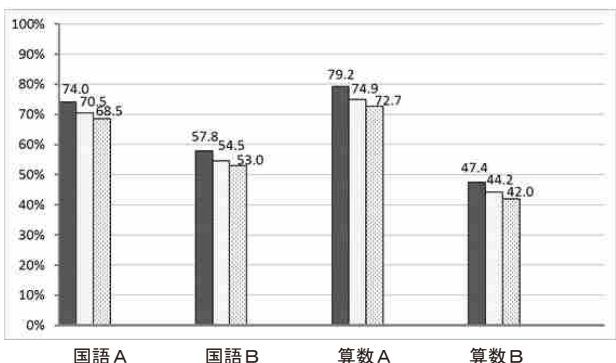


【中学校】

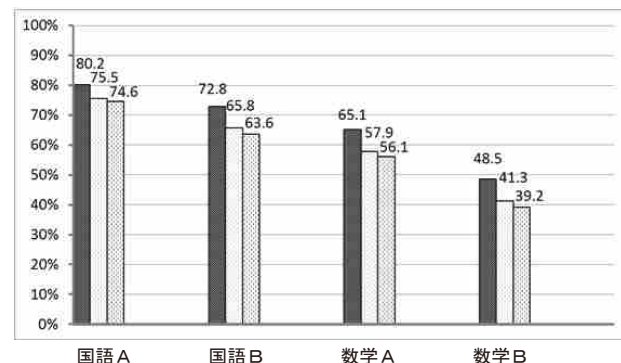


	質問番号	質問事項
小	20	調査対象学年の児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか
中	20	

【小学校】

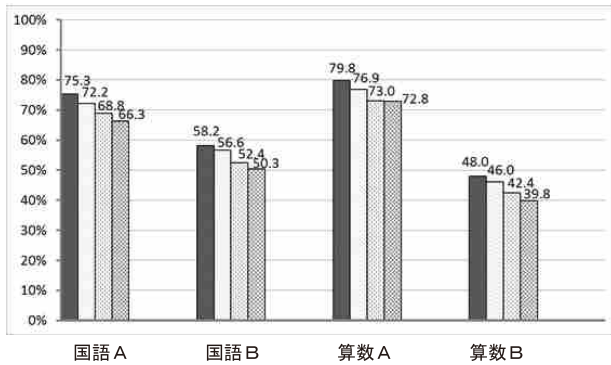


【中学校】

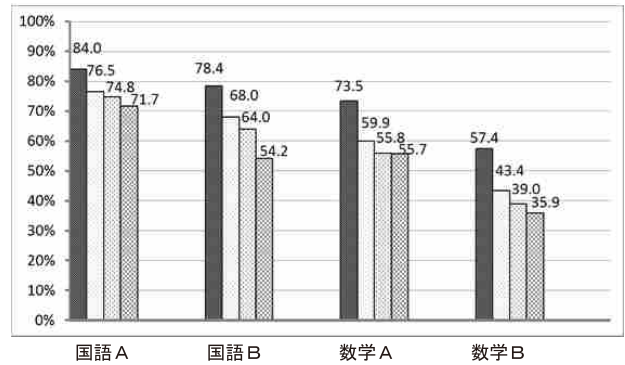


	質問番号	質問事項
小	2 1	調査対象学年の児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか
中	2 1	

【小学校】

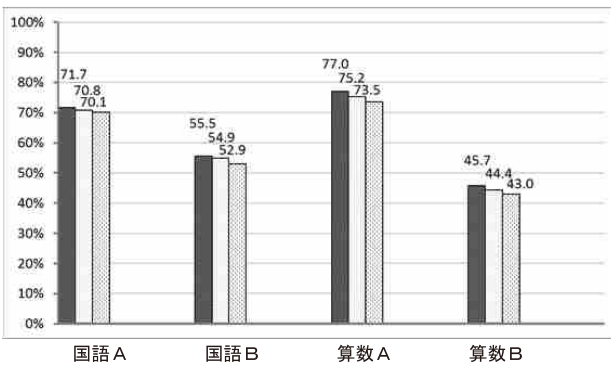


【中学校】

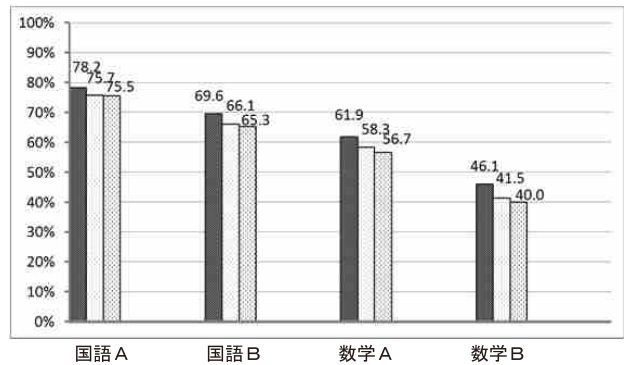


	質問番号	質問事項
小	3 5	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
中	3 5	

【小学校】

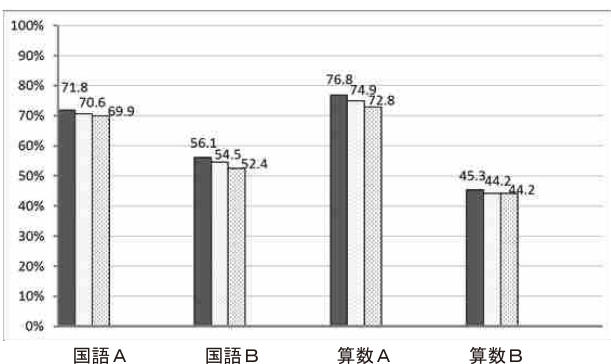


【中学校】

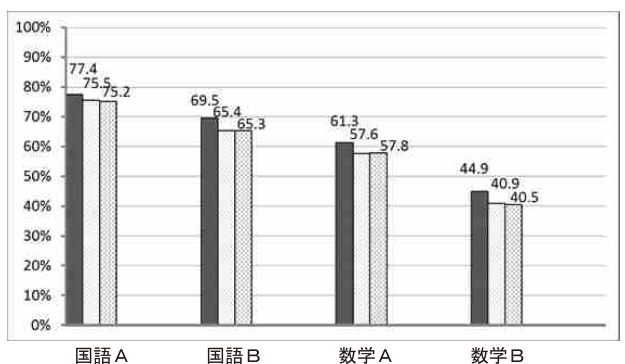


	質問番号	質問事項
小	3 9	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか
中	3 9	

【小学校】

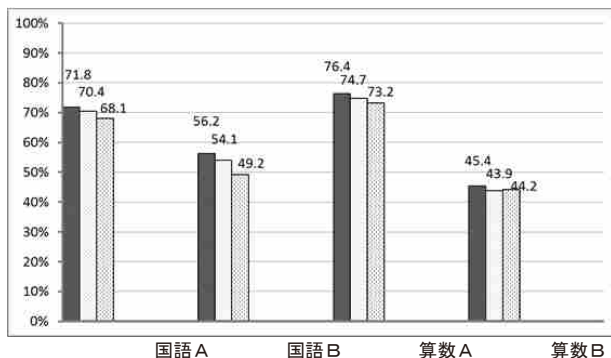


【中学校】

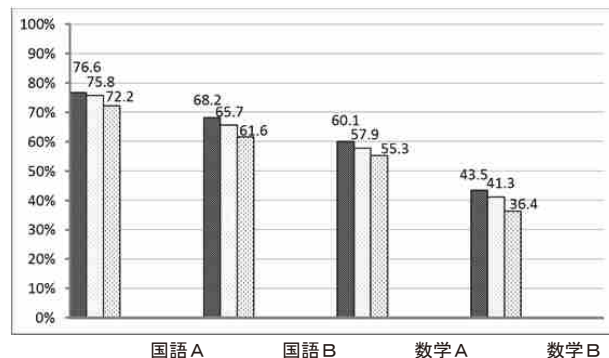


	質問番号	質問事項
小	40	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか
中	40	

【小学校】

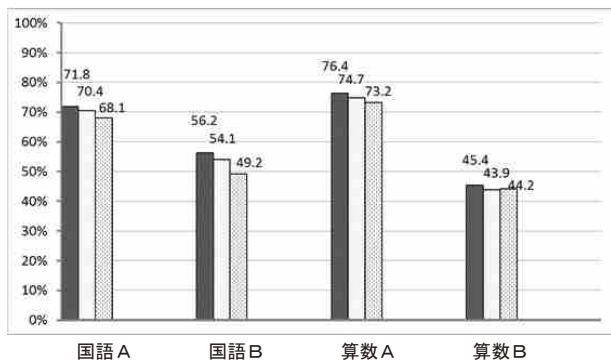


【中学校】

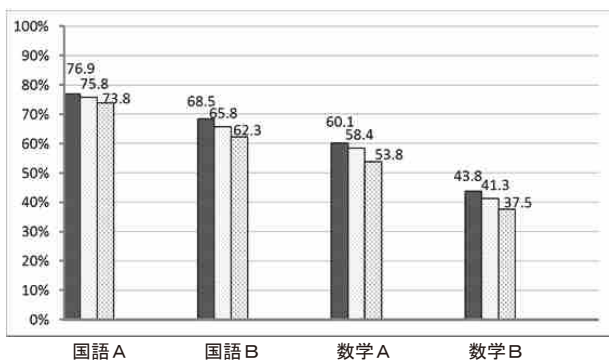


	質問番号	質問事項
小	42	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか
中	42	

【小学校】

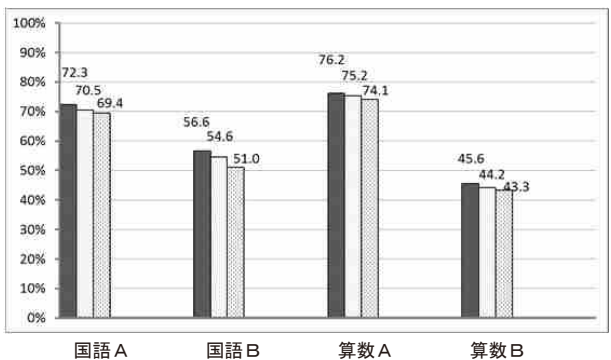


【中学校】

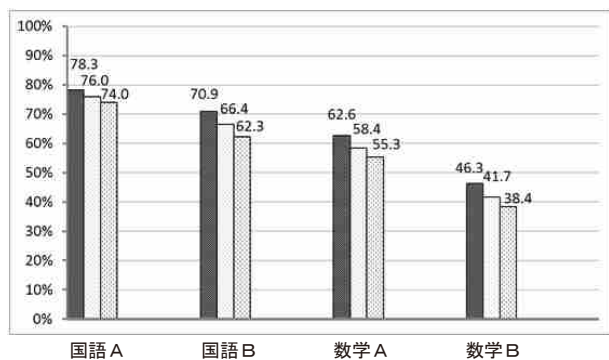


	質問番号	質問事項
小	46	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、資料を使って発表ができるよう指導しましたか
中	46	

【小学校】

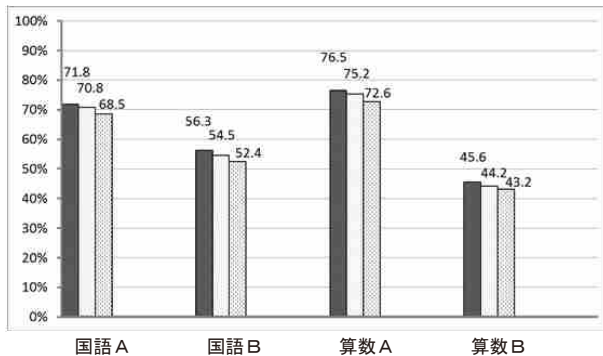


【中学校】

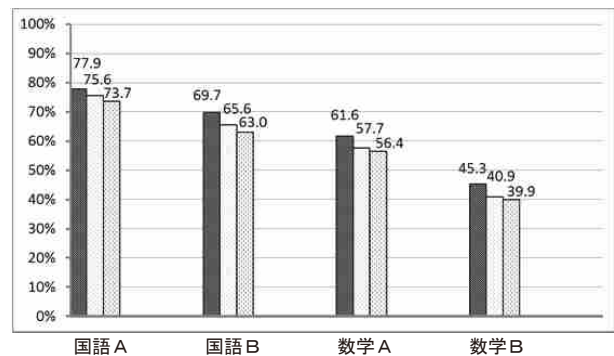


	質問番号	質問事項
小	4 7	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか
中	4 7	

【小学校】

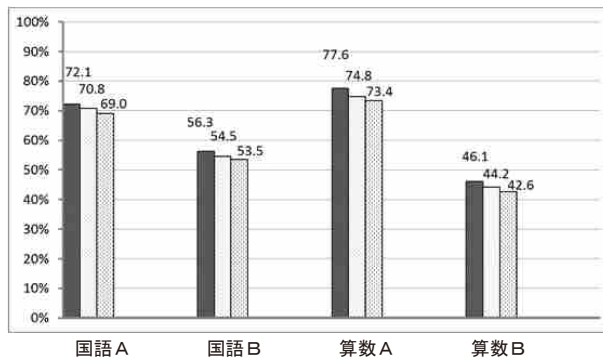


【中学校】

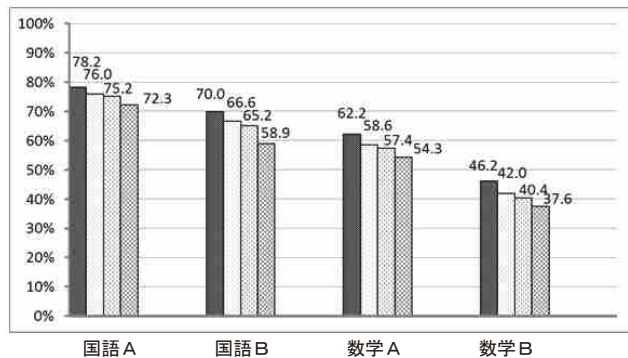


	質問番号	質問事項
小	9 8	調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通）
中	9 6	

【小学校】



【中学校】



教員の授業力向上，児童生徒の学力向上に結び付く参考文献等へのアクセス方法

【宮城県総合教育センターウェブページへのアクセス方法】

宮城県総合教育センターの学力向上や専門研究・長期研修等に係るウェブページにアクセスするには，宮城県総合教育センタートップページのメニューバーより，「学校支援」や「専門研究・長期研修」を選択してください。



学校支援

先生方の授業づくりや学級づくり，生徒指導をサポートします！

カリキュラム開発支援室 指導主事が授業づくりをお手伝いします。 来所による相談にも対応しております。 ※【文献データ】【学習指導案データ】はここから入ります。	特別支援教育 教師のためのサポートブックや，研究事例など，特別支援教育に関する情報を提供しています。	情報教育 情報教育に関する様々な情報を提供しています。	理科教育 理科の授業づくりを提案しています。また，当センターで実施している科学巡回指導訪問の様子もお知らせしています。
学力向上サポートプログラム事業 学力向上サポートプログラム事業に関する各種様式や記入例，報告書をダウンロードすることができます。	検証改善委員会 宮城県検証改善委員会の報告書をダウンロードすることができます。	指導の手引き ◆漢字指導の手引き ◆計算指導の手引き ◆「記述する力」を高める授業支援プラン（算数・数学）	単元問題ライブラリー 国語，算数・数学の単元問題ライブラリーがダウンロードできます。



専門研究・長期研修

専門研究や長期研修の成果を提供しています。

専門研究

本県の今日的課題について，所員と共同で研究しています。
 研究ダイジェスト版，研究報告書，補助資料等を掲載しています。

長期研修

授業づくりにかかわる課題を解決したり教材開発を行ったりしています。
 長期研修員A（6か月間の研修）と長期研修員B（年25回の来所研修）の各教科等の研修での報告書，補助資料を掲載しています。

※宮城県総合教育センターのアドレスは「<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>」です。

宮城県検証改善委員会について

宮城県検証改善委員会では、全国学力・学習状況調査、宮城県学力・学習状況調査の結果等を分析し、教育委員会・学校における課題や効果的な取組を明らかにしながら、授業改善につなげるための協議を重ねてきました。その結果、学力向上のための学校改善に活用できる資料として作成したものが本報告書です。今年度は、「みやぎ授業づくりスタンダード」に基づき、「意欲を高める学習課題」に重点を置いて、小学校国語・算数、中学校国語・数学の指導改善のポイント及び授業アイディア例を作成しました。

各学校においては、児童生徒一人一人が主体的・協働的に学習に取り組むよう、本報告書を学校や地域の実態に合ったものにアレンジしていただき、積極的に活用されることを願っています。

学校における活用例～こんな活用はどうでしょうか～

※必要なページをコピーして活用できます。

(宮城県総合教育センターHPからもダウンロードができます。)

【主に、校長先生、教頭先生へ】

○職員会議や打合せ等での活用

- ・自身の豊富な教育経験を例に挙げ、本報告書の内容について教職員へ具体的なアドバイスをするなど

○学校だより等への引用、PTA研修会等での活用

- ・本報告書の内容を引用しながら、学校の特色ある取組を保護者や地域へ発信するなど

【主に、教務主任の先生、研修を担当する先生へ】

○各種会議等での参考資料として活用

- ・研修会、授業研究会、指導計画作成会議等において、本報告書の内容を参考に協議の観点を設定するなど

○研修だより等への活用

- ・本報告書の内容にかかわって校内外の優れた実践例などを掲載し、校内の教職員で共有するなど

【学級担任の先生、教科担任の先生、指導にかかわる全ての方へ】

○授業づくり、学級づくりなどへの活用

- ・学級経営案や教科指導方針の作成や、授業づくりのポイントをつかむ参考資料として活用するなど
- ・児童生徒の実態を踏まえて、学習習慣の形成に向けて共通理解したい事項を確かめるなど

《平成28年度宮城県検証改善委員会》

回	月 日	主 な 活 動 内 容
1	7 月 4 日	・本委員会の方針、計画等の決定
2	7 月 26 日	・平成28年度宮城県学力・学習状況調査結果の分析、課題等の整理
3	9 月 8 日	・平成28年度全国学力・学習状況調査結果の分析、課題等の整理 ・報告書の構成内容の決定
4	9 月 30 日	・課題を踏まえた指導改善のポイントの吟味、提言内容等の協議
5	10 月 13 日	・報告書内容の吟味、表現の仕方等の検討
6	11 月 11 日	・報告書内容、表現の吟味、校正

《平成28年度宮城県検証改善委員》

吉 村 敏 之	(宮城教育大学教職大学院 教授)
平 真木夫	(宮城教育大学教職大学院 教授)
高 橋 琢 哉	(石巻市立大須中学校 校長)
佐 藤 美紀子	(登米市立豊里小学校 教頭)
高 橋 文 博	(塩竈市立第一中学校 教諭)
千 葉 純 也	(大河原教育事務所 主幹)
和 田 祐 子	(北部教育事務所 主幹)
高 須 由 美	(南三陸教育事務所 主幹)
新 井 雅 行	(義務教育課 課長補佐)
菊 池 晃 子	(義務教育課 課長補佐)
岩 間 孝 一	(総合教育センター 副所長)
川 田 尚	(総合教育センター 副参事)
及 川 理 恵	(総合教育センター 次長)
小 野 久 行	(総合教育センター 次長)
本 間 睦 美	(総合教育センター 主幹)
東 灘 邦 祥	(総合教育センター 主幹)
阿 部 朋 樹	(総合教育センター 主幹)

『学力向上に関する緊急会議』からの提言

宮城県教育委員会

本県の学力の状況については、これまで改善傾向にあったものの、今回の学力調査では一転してほとんどの教科で全国値を下回る結果となりました。

そのため、県教育委員会では、学力向上を図るための緊急会議を平成25年10月2日に開催しました。

この緊急会議においては、本県児童生徒の状況や学力等について、精神科医、大学教授、地教委教育長、PTA代表、小中学校教員等で話し合い、今の子供たちに対しては、心のケアを行いつつ、分かる授業を行うことが重要であることを確認しました。

子供たちが安心して学校生活を送り、学習意欲や自信を持たせるためには、教師と子供、子供同士の好ましい人間関係を築くとともに、分かる・できる授業づくりを積み上げていくことが必要です。人間関係づくりや授業改善は一朝一夕にはできませんが、その足がかりとして、すぐに着手できることはあります。

各学校のすべての先生方に、明日からすぐに取り組んでいただきたい事項を「学力向上に向けた5つの提言」としてまとめましたので、実践化に努めるようお願いいたします。

学力向上に向けた5つの提言

1 どの子供にも積極的に声掛けをするとともに、子供の声に耳を傾けること。

どの子供にも一日一回は声を掛け、子供の話をじっくり聞くことが、心のケアや人間関係づくりにつながります。

2 子供をほめること、認めること。

子供は、ほめられると集中力が高まります。授業中にほめたり認めたりすることは、学習評価のひとつです。

3 授業のねらいを明確にするとともに、授業の終末に適用問題や小テスト、授業感想を書く時間を位置付けること。

本時のねらいをより具体的に設定し、1単位時間で育てる力を明確にします。授業の終末には、子供の学びを的確に把握し後の指導に生かすようにしましょう。

4 自分の考えをノートにしっかり書かせること。

黒板を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導します。書くことは、思考力、表現力を育てます。ワークシートではなく、ノートづくりを徹底しましょう。

5 家庭学習の時間を確保すること。

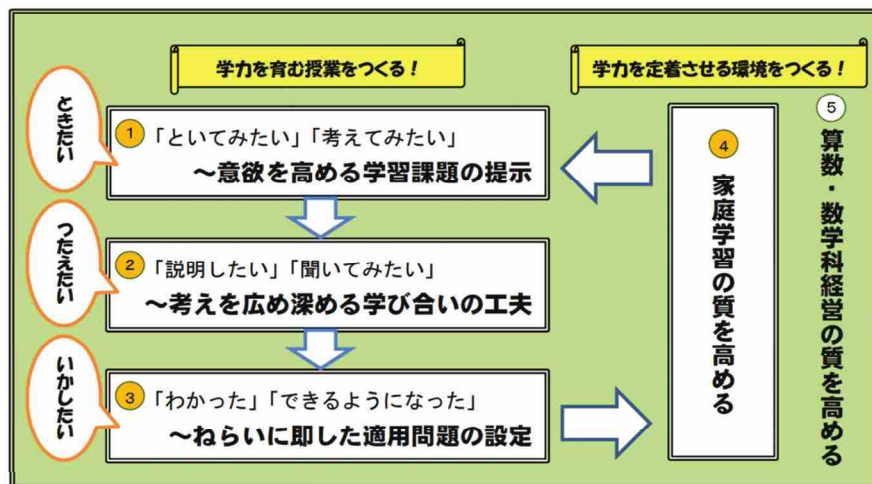
学校で学んだことを家庭で復習することは、知識や技能の定着につながります。予習は、授業での理解を早めます。各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載するとともに、適度な量の宿題を課しながら家庭学習を習慣づけましょう。また、保護者には、子供に声を掛けたり子供を認めたりすることが、家庭学習への意欲づけになることを伝えましょう。

すぐに役立つ 全ての教室で取り組む学力定着 算数・数学 ステップ・アップ 5 ファイブ 事例集

算数・数学の確かな学力を定着させるためには、児童生徒の実態を踏まえ、教員間で共有した具体的な手立てを、全ての教室で着実に実践することが大切です。宮城県学力向上対策協議会では、「学力向上に向けた5つの提言」の趣旨を踏まえ、特に算数・数学に焦点化した学力向上対策「算数・数学ステップ・アップ5」を策定し、実践化・自校化を働き掛けています。この資料は、各学校の実践の参考となるよう、先導的に取り組んでいる学校の事例を取りまとめたものです。

ぜひ、校種や教科にかかわらず、全ての先生方の授業改善に御活用願います。

<学力向上対策>



web フラスα

この事例集は「授業改善の入口」です。
ホームページには他の実践例や関連資料
もありますので参考にしてください。

詳しくは

宮城県 義務教育課

検索

平成28年7月
宮城県教育委員会

1

「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

【テーマ】実際に混み具合を体験し、意欲を引き出した取組（小学校）

単位量当たりの大きさは、児童にとってなかなか理解しづらいと言われている。そこで本事例では、畳の数が異なる部屋に座る体験を通して、“混み具合”を実感として捉えさせ、単元全体への意欲を高めるよう問題場面の提示を工夫した。

【実践の概要】 第5学年「単位量あたりの大きさ」（本時7／13）

＜提示した問題場面＞ 修学旅行の部屋割りから



Point

実際に体験させることで、提示された課題が**実感**を伴った「**考えてみたい**」ものとなります。



Point

条件がそろわない状況を整理して提示することで、問題解決の方向が明確になります。

○本時の課題

たたみの枚数も人数も違う3つの部屋について、混んでいる順番を調べよう。

【テーマ】ICTを活用し日常の生活場면을捉えさせる問題提示の工夫（小学校）

日常生活の中では、目的により関数の考え方を活用して判断することが必要とされる場面がある。本時では、遊園地の乗り物券を買う場面を想定して学習を進めた。問題を提示する前に、遊園地の様子を映し出し、児童を問題場面の中に引き込んだ。このことにより、「乗り物に乗る回数」と「料金」の関係について、児童に問いを出させ、その反応を生かして課題を設定することで、問題解決への意欲を高めた。



Point

問題場面に全員を引き込んだことで、「**といてみたい**」という意欲が高まり、問題解決的な学習活動が始まります。

【実践の概要】 第4学年「変わり方しらべ」（本時5／6）

とく子さんは遊園地に遊びに来ました。

— チケット料金表 —

- ・ 乗り物 1 回券 250 円
- ・ 乗り放題券 2800 円



たくさん乗り物に
乗りたいな

どっちがとくかな



電子黒板で遊園地での問題場면을提示

Point

ICT 機器の活用により、問題場면을視覚的に短時間で理解させることができます。

○本時の課題

乗り物に乗る回数と料金の関係を調べて、とく子さんにアドバイスしよう。



web フラズα

ミックスジュースをつくる場面設定で小数のたし算の必然性をもたせる取組や、輪投げゲームから円の性質を見付ける学習活動など、生活場面を取り入れることで知的好奇心を高め、解きたくなる工夫した事例が他にもみられます。**既習事項との違いに着目**させて問題解決へ見通しをもたせたり、**児童の言葉を引き出して課題を焦点化**したりするなど、「といてみたい」「考えてみたい」という問題解決への意欲を高めることが大切です。

【参考】



「MIYAGI Style」は、県教育委員会による教科指導における ICT 活用の提案です。

1

「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

【テーマ】多様な考え方を引き出し、学び合う学習をすることができる課題の工夫（中学校）

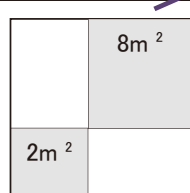
【課題のポイント】

既習事項を活用して、様々な解決方法を見出すことができる課題を設定した。

（例）第3学年「根号を含む式の加減」（本時1／2）

学習課題：（平方根の加法について確認する学習活動）

右の図のような正方形の土地があります。この土地の中に図のように面積が 8 m^2 と 2 m^2 の正方形の花壇をつくりました。もとの正方形の土地の1辺の長さを求めましょう。



Point
日常生活からイメージしやすい花壇の面積を取り上げることで、解決への意欲を高めています。

Point
教科書の問題から数値を変えるなど、多様な考えが引き出せるような工夫も有効です。

Point
既習事項を活用できないか促すことで、多様な解決方法に気付かせることができます。

I 面積を利用した考え方

花壇ではない長方形の面積は、 $\sqrt{8} \times \sqrt{2} = \sqrt{16} = 4$ であるから、もとの正方形の面積は 18 となる。よって1辺の長さは、 $\sqrt{18} = 3\sqrt{2}$

II 図を利用した考え方

面積 8 の正方形を4等分すれば、正方形の面積と1辺の長さの関係から、もとの正方形の1辺の長さは $\sqrt{2}$ の3つ分とわかる。したがって、 $\sqrt{2} \times 3 = 3\sqrt{2}$

III 分配法則を利用した考え方

$$\sqrt{8} + \sqrt{2} = 2\sqrt{2} + \sqrt{2} = (2+1)\sqrt{2} = 3\sqrt{2}$$

面積は利用できないかな

図に補助線を入れてみるとどうかな



【テーマ】生徒の「本時の振り返り」を、次時のめあてや課題につなげる取組（中学校）

【実践の概要】

○終末で行う「本時の振り返り」において、本時のめあてについて言語化（文章化）したものを次時の課題に生かすことに、全校で取り組んだ。

Point

本時の振り返りを次時に活用することで、次時の課題の必然性につながります。

本時のめあての達成度（％） 1 2 3 4 5 ! (^ ^) !

今日の学習で、こんな解き方もできるのではないだろうか。

ここまで分かったけれど、ここから先が分からない。

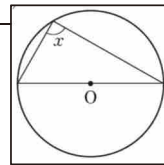
ここがなぜこうなるのか分からない

組 番 氏名

<毎時間配布しているミニプリント>

【次時の学習課題に生かした事例】

① 証明問題で、授業で示さなかった方法に気づき、「この方法でもよいのか」と記入してきた。	② 三平方の定理の導入で、面積の関係（三平方の定理）に気付く生徒がおり、そのことを記入してきた。	③ 円周角の定理を学習した後、自主的に練習問題に取り組む中で、次の問題ができなかったという内容が書かれていた。
○ 「この前の時間の証明を、このように考えた人がいるが、この方法はどうだろうか。」と全体へ投げ掛けることで、別な考え方に気付かせ、前時の内容の理解深化に役立てた。	○ 「前の時間に、この関係に気付いた人がいます。たまたまかな、それともいつでもいえるかな。」と投げ掛け、文字を用いた証明の必要性に結び付け、三平方の定理の証明につなげた。	○ 「この問題に取り組んで、困っている人がいるけど、どうか。」と投げ掛け、個人やペアで考えさせた後、直径と円周角の定理の学習につなげた。



web フラッシュ

デジタル教科書のシミュレーションや動画により視覚に訴えたり、実際の立体図形を操作したりするなど、進んで考えたいような工夫が他にもみられました。

中学生の発達の段階から、教科書以外の本で見付けた問題や古くからある和算などを導入段階に取り入れることも、**数学の世界への関心を高める**ことにつながります。

【参考】



平成26年度検証改善委員会報告書の「**確かな学力の入口**」でも理論と実際を解説しています。

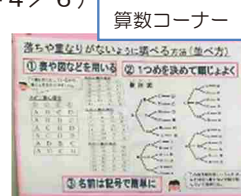
【テーマ】児童の考えをつなぎ、練り合いを深めた取組（小学校）

自分の考えを書いたり話したりして人に伝えることで、自分の考えたことが頭の中で整理され深まっていく。また、考えを伝え合うことを通して、集団の考えも深まっていく。本事例では、個人の考えや集団の考え方を深める工夫として、ペアやクラス全体での伝え合いの場を取り入れた。

【実践の概要】 第6学年「順序よく整理して調べよう」（本時4／6）

① 類推的思考を働かせて自力解決

- 前時の想起
- 既習事項の活用（算数コーナー）



Point

自力解決に必要な情報を準備し、活動の状況に合わせて活用させることが大切です。

② ペア学習で伝え合い

- 自分の考えのよさの確認
- 友達のよりよい考えの学び



Point

ペア学習の目的を事前に確認して活動を始めましょう。

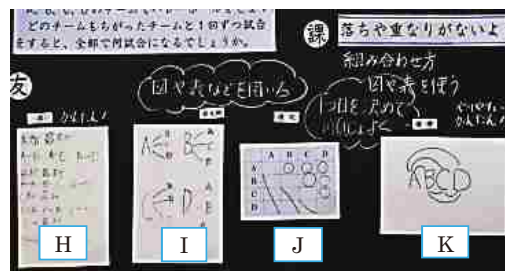
③ クラス全体での伝え合い

- 友達のよい考えを自分のものに
 - 共通点、相違点、着想の共有化を
- ※ペアで納得しない児童もここで納得

【本時の振り返り】から

- C 友達の意見を聞いて分かるようになったのでよかった。
- C 図を使うと分かりやすく求められると思いました。
- C 最初あまり分からなかったけど、みんなの考えを聞いてどうやればいいのか分かったからよかった。

- C 私は樹形図を書いたが、K君の考えが線の数で決まるので簡単だ。
- C I君と同じ樹形図で求めたが、K君の考えは、ABCDを線で結ぶだけだったので簡単だ。
- C K君の考えは、重なりを消さなくていいから分かりやすい。
- C 私は表を使って求めたけど、Jさんは表を使って分かりやすく求めていたのでよいと思う。



Point

聴き手に分かるよう、根拠を添えて話す習慣を付けましょう。

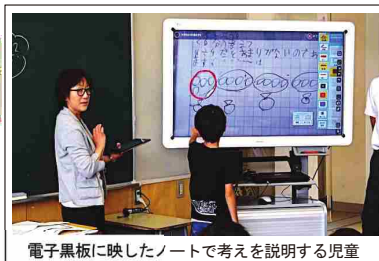
【次時の課題】

明日の5チーム対抗親子バレーボール大会の、試合の計画を立てよう。

【テーマ】児童のノート ICTにより共有することで考えを広げる取組（小学校）

課題解決するための思考の場としてノートを活用している。自力解決で自分の考えをノートに書くことで整理し、思考の跡が残るようにした。また、考え方に沿った意図的な順序で ICT 機器を活用して児童のノートを提示し、考えを全体で共有できるようにした。

【実践の概要】



考えを話し合う場面では数名の児童のノートを電子黒板に映し、比較したり、全体で共有したりする活動を取り入れた。友達のノートを見ることで、自分と同じ考えや違いに気付かせることができた。

Point

ICTにより、ノートをそのまま見せることができるため、自分の思考の流れを説明したり、友達の思考をたどって考えを広げたりする活動が簡単に実現できます。

Point

対話的な学びを実現するためにも、先生だけでなく意図的に ICT を使わせましょう。



webプラスα

図や式を画用紙にまとめて説明させたり、ノートに書いたことをタブレット端末で撮影し、集団解決の場面で大型モニタに映して説明させたりするなど、効果的に考えを伝えさせるための工夫をしている実践例が多く見られます。学び合いの場面では話し合いの目的を児童生徒と共有し、発言を引き出す手立てを講じながら解決に向かうことが大切です。

【テーマ】主体的な学習活動を促す学習課題を設定し、学習過程に学び合いを取り入れた取組（中学校）

【実践の概要】 第2学年「平行と合同」（導入段階）

〔めあて〕多角形の角の和の求め方をいろいろな方法で考えてみよう。

とらえる

- ・本時で使う既習事項の確認
三角形の角の和は 180°
四角形の角の和は 360°
- ・目標の確認

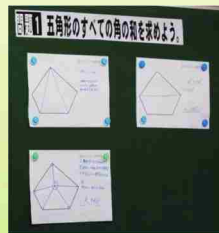
考える

- ・【問題①】を考える

五角形のすべての角の和の求め方を考えよう

＜多様な考えに気付く＞

- (1) 三角形に分ける
- (2) 三角形と四角形に分ける
- (3) 図形内部に点を取る
- (4) 辺上に点を取る
- (5) その他



- ・考えを活用し、六角形、七角形の角の和を求める

深め・広げる

- ・【問題②】を考える
個 → 班（4人） → 全体

まとめる

- ・学び合いで学習したことを確認する
- ・次時への見通しをもたせ、つなげる

Point

基本的な考えを応用し、少し手応えのある問題を設定しています。友達の考え方が気付きにつながり、話し合いの中で解決できます。

- ・【問題②】を考える

三十二角形のすべての角の和を求めよう

描かなくてもできるかも

図が描けないなあ

頂点をつなぐと…

いくつ三角形ができるかな

三角形は 180°
四角形は 360°
五角形は…

規則性がありそうだ

五角形から三角形が3つできたよ

三角形の個数さえ分かれば

※単元の導入段階のため「内角」という用語は使用せず。

Point

学び合いの場面では、必ず自力解決を設定し、一人一人を課題に向き合わせます。個人で解決に至らなくても、集団解決で全員がゴールまで行けることを目指しましょう。

web フラッシュ

学び合いの目的を校内で確認し、小学校までの学習の上に立って、生徒自身が主体的な学び合いになるようにしましょう。多様な考えが出るような課題設定が、授業を活性化します。

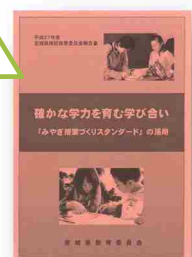
中学生という発達の段階から、学び合いにより新しい視点を得たり、合理的・論理的な思考を身に付けたりすることのよさを感じさせるとともに、この後の生活や他教科等の学習場面でも生かせるよう、指導者が見通しをもって指導することも大切です。

【参考】



電子黒板アプリ「miyagi Touch」とタブレット端末の組合せで、学び合いを活性化してみましょう。

平成27年度検証改善委員会報告書の「確かな学力を育む学び合い」でも理論と実例を解説しています。



3

「わかった」「できるようになった」～ねらいに即した適用問題の設定

【テーマ】適用問題の充実により理解を深める工夫（小学校）

【実践1】「ときたい」と思わせる問題場面を設定した適用問題の工夫

（第6学年・図を使って考える）

この箱のお菓子を、Aさんは1人で15日、Bさんは10日で食べきります。AさんとBさんが2人で一緒に食べるとすると、この箱のお菓子は何日でなくなるでしょうか。

（第6学年・速さ）

野ウサギ（1分間に1300m）、ライオン（時速58km）、ウサインボルト（100mを9秒58）を速い順に並べよう。

（第6学年・分数のかけ算）

1dLで $\frac{1}{2}$ ㎡の壁をぬれるペンキがあります。でも、このペンキをこぼしてしまい、 $\frac{3}{4}$ dLになりました。これでぬれる壁の面積を求めましょう。



単に数字を入れ替えるのではなく、**本時に学習した内容を活用する問題**を用意しましょう。



学習した内容の理解を確かにするには、**問題をつくらせること**も効果があります。

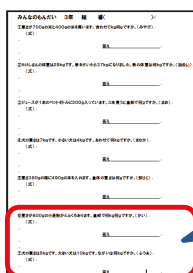
【実践2】自作の問題づくりで理解を深めた取組

適用問題に取り組んだ後に、自作問題に取り組ませている。自作問題は、ICTを活用してテレビに映したり、読み上げたり、拡大版を書かせたりして紹介した。



←自作問題を学級全体に紹介します。

自作問題を集めてプリントにし、まとめて活用します。→



⑥重さが800gの小麦粉が4ふくらあります。全部で何kg何gですか。
(式) _____
答え _____

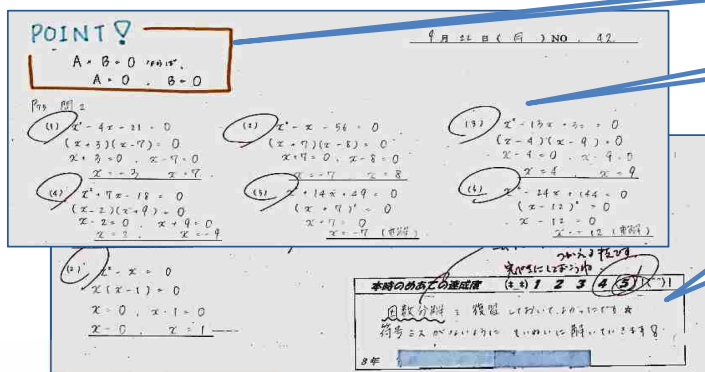
⑦犬の重さは5kgです。大きい犬は10kgです。ちがいは何kgですか。
(式) _____
答え _____

【テーマ】「振り返る活動」を設定し、学習のめあてを達成できたことを実感させる取組（中学校）

ノート等に振り返りコーナーを設定するなど、「振り返る活動」を意図的に設定し、本時のめあてに照らして学習した内容を振り返らせ、めあての達成が実感できるよう取り組んでいる。

★本校の「振り返る活動」の流れ★

- ①本時のポイントを自分なりにまとめる。
- ②適用問題として教科書の問いを行う。
- ③適用問題の答え合わせを行い、本時のめあての達成度の自己評価とことばによる振り返りを行う。



ねらいに立ち返って振り返りを行う形を、他の教科においても継続して取り組むことが大切です。



web プラスα

本時の学習内容を活用することで理解を深めたり、個の振り返りをまとめるに生かしたりする取組が見られました。

まとめや適用問題に取り組むことが、本時の学習内容の確実な定着につながります。一人一人に目を向け、「わかった」という実感をもたせましょう。また、習熟を図る場面を位置付けるなど、「学習の量の確保」についても意識して取り組みましょう。

【参考】



適用問題として、「みやぎ単元問題ライブラリー」も、ぜひ活用してみましょう。

1 週間単位の「振り返りカード」を導入し、週末に保護者や担任から励ましのコメントをもらうことで、子供たちが生き生きと主体的に家庭学習に取り組むとともに、家庭学習に対する保護者の関心も高まっている。

1 週間の学習の計画を立てて、計画的に学習する習慣をつけましよう。

①週末に1週間の学習の反省を生かした計画を立てます。

②毎日、その日の学習の習慣を先生に提出します。

③週末に計画表を家の人に見せて、家の人から一言を書いてももらいます。(印も可)

(◎)よくできた ○できた △あまりできなかった ×できなかった

日	曜日	自主勉強の計画	宿題	本読み	時間	評価	感想
7	月	漢字(大学生のむずかしい漢字)	◎	◎	65	◎	
8	火	算数(拡大図の復習)	◎	△	50	○	
9	水	理科(これはわたしの復習)	◎	◎	60	◎	
10	木	算数(等しいものの性質の復習)	◎	×	45	○	
11	金	理科(電気と私たちのくらしの復習)	◎	○	65	○	
12	土	漢字(五年生の復習)	◎	◎	55	◎	
13	日	算数(割合の復習)	◎	◎	60	◎	

自分の変化・成長にがんばることなど

家の人から

先生から

残り1週間だから、今までの学習でわからないところや、難しかったところなど、を、しっかりと復習する。

いよいよラスト1週間になったね。復習は力になる。お母さんと一緒に復習しています。(母)

お母さんがお話を聞いてくれて、わからないところを一緒に復習してくれて、とても助かっています。お母さん、ありがとうございます。

14	日	社会 予習 [草鞆国について調べろ]	〇	70	〇	印
自分の反省・次にがんばることなど			家の人から		先生から	
水・木曜日の学習時間が6年生の目標時間の60分より下回っていたので、来週からは、60分以上できょう心かげる。週曜々に新しい漢字は、熟語、文章が少ししか書けなかった。ので、前の方法でや、てみようと思った。			習い事で自主勉強の時間が短くなってしまった。時間のやりくりを工夫して目標の60分以上をクリア出来るようにがんばろう!		今、振返りしてわかった。次の目標は、かんがえたい。そのなかで、ゆたかに、ゆたかに、漢字学習、勉強できるようにしたい。漢字は、熟語調べをして、短い時間には、時間をかためて勉強する。かんがえてください。	

日曜日はたくさん勉強
しました。つかれたけど
スッキリしました。
来週もがんばります！

日曜日は、久しぶりに自発的に長時間勉強に取り組みました。土曜日は、友達と二人でシルバーセンターまで行きました。地図を見たり、人に聞いていったりしながら、たまたま近所を歩くと、ふと「あ、ここがここだ」と気づきました。

 **Point**

継続した振り返りと保護者や担任からの
励ましが学習習慣を確かなものにします。

1時間の授業をノート見開き1ページとし、その余白スペースを予習・復習に充てることに全校で取り組んでいる。一体化したノート作りにより授業と家庭学習を意図的に関連付けながら、授業と家庭学習の質の向上を図った。

2.2 二元一次方程组和二元一次不等式组的解法

【例1】解二元一次方程组

① 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

② 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

③ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

④ 通解二元一次方程组，求出所有可能的解

⑤ ① $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑥ ② $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑦ ③ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑧ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑨ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑩ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑪ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑫ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑬ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑭ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑮ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑯ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑰ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑱ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑲ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑳ 解 $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

② 通解二元一次方程组，求出所有可能的解

③ ① $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

④ ② $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑤ ③ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑥ ④ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑦ ⑤ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑧ ⑥ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑨ ⑦ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑩ ⑧ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑪ ⑨ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑫ ⑩ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑬ ⑪ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑭ ⑫ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑮ ⑬ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑯ ⑭ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑰ ⑮ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑱ ⑯ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑲ ⑰ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

⑳ ⑱ $\begin{cases} x + y = 3 \\ 2x - y = -1 \end{cases}$

1時間の授業の板書をノート見開き
1ページでまとめさせる。

ノートの余白スペースに、家庭学習で取り組んだ予習・復習の内容を記録させる。

 **Point**

授業と家庭学習の意図的な関連付けは、
学習の連続性・継続性を生み、児童生徒の
学習習慣の定着につながります。



保護者の理解を得るため、年度始めの学年懇談で家庭学習について提案したり、オリジナル下敷きを作成して普段から意識できるようにしたりすることで**継続的に取り組むための工夫**が見られました。また、授業で使うノートの一部に予習・復習スペースを設けたり、課題学習ノートを用意して復習と自主学習を一体で取り組めるようにしたりするなど、**ノートづくりの工夫**も見られます。授業で学習したことが家庭学習につながり、また授業で生かせるような仕組みづくりが大切です。

なお、**集中して取り組めるよう保護者へ協力を働き掛ける**とともに、家庭学習の約束事などを子どもたちと話し合いながら、**これから先も使える学習の方法**が身に付くように、発達の段階を踏まえた指導をしましょう。



学習習慣の形成に向け、総合教育センターの
専門研究も参考にしてみましょう。
○授業改善・学力向上研究グループ
「児童生徒の学力向上を目指す授業改善」

【テーマ】学力向上に向けた数学科部会の取組（中学校）

【取組の概要】

年度始めの数学科部会で、生徒の実態を踏まえた学力向上に向けた指導の重点化を図り、校内研究と連動させて授業改善を進めた。

学校全体としての 数学の授業改善・学力向上

○校内研究と連動させた授業研究の充実

- ・一緒に指導案の事前検討
- ・時間を決めて必ず参観
- ・教科部会でも事後検討会
- ・1学年複数教員が担当を生かし先行授業の実施と事後検討

○教科部会の定例化と風通しの良い運営

- ・計画的な設定、定例開始
- ・異なる経験年数が集まるよさ
- ・若年層の成長と新しい視点の獲得

教科部会の充実



- 全員で取り組む苦手領域
 - ・3学年を見通した教材研究
 - ・特に、関数、図形領域に重点化

- 学習規律・学習習慣の共通化
 - ・授業の流れ、ノート指導、家庭学習とのサイクル形成
 - ＜数学科として全学年統一＞

＜本校の生徒の実態＞

- ・明るく奉仕的活動にも積極的
- ・関数や図形の領域が弱い
- ・規範意識や自己有用感がやや低い
- ・家庭学習の時間が短い生徒も多い



Point

教科経営は「学校としての」という立場が大切です。生徒の実態など学校の実情を理解し合うところから始めましょう。

Point

学力・学習状況調査の結果などを教科部会で読み合わせすることで、今後の指導の手立てについて方向性が見えてきます。

Point

学校規模により校内で部会ができない場合は、市町村単位や隣接校との情報交換を大事にしましょう。また、小中連携を進め、お互いに授業を見合うことで、算数と数学の間にギャップを生まないようにすることも大切です。



web プラスα

「我が校ではこのように指導する」という、学校としての方針を明確にすることが教科経営の基盤です。まず、学年部会や教科部会を充実させ、学校の実情を踏まえた方針と重点、そして指導の系統性などを確認しましょう。その上で、学習ルールの徹底や教科コーナーの充実、きめ細かなノート指導など、全ての教室で学力向上に向けた具体的な取組を着実に進めることにより、学習内容はもちろん、学習方法が子どもに定着していきます。

改めて、授業づくりの基盤となる「学力向上に向けた5つの提言」を確認するとともに、学力向上対策の自校化・実践化を進めましょう。また、「算数・数学」ととどまることなく、小学校では算数以外の教科で、中学校では自分の教科でどのような工夫ができそうか、この「算数・数学ステップ・アップ5」事例集も参考にしながら創造的に授業改善を進めましょう。

＜みやぎの先生「授業の技」配信事業＞

宮城県内の先生方の授業動画を共有するWebサイトができました。

- 明日の授業づくりの参考に
- 校内研修の素材として
- 授業の技の継承の場として

詳しくは、事業要項を御覧ください。

【お問い合わせ先】

宮城県教育庁義務教育課

☎022-211-3643

